令和4年度（2022年度）
地域づくり意見交換会　記録集

令和5年（2023年）3月

八王子市

― 目　次 ―

1 意見交換会の概要 ---------- 1
(1)目的 ---------- 1
(2)実施単位 ---------- 1
(3)参加者数及び参加団体等 ---------- 1
(4)従事者 ---------- 1
(5)実施期間・場所 ---------- 1
(6)日程・会場一覧 ---------- 2
(7)実施方法 ---------- 3
(8)当日の流れ ---------- 3
(9)意見交換会の様子 ---------- 5

2 地域づくり推進事業の取組 ---------- 6
(1)地域づくり推進事業の取組経緯と意見交換会の位置づけ ---------- 6
(2)推進会議の設置に向けたステップ ---------- 7

3 意見交換の記録 ---------- 8
(1)推進会議設置に関する意向について ---------- 8
(2)推進会議設置に関する意向以外の意見について ---------- 9
(3)中学校区別の検討状況について ---------- 10

4 資料編　中学校区別模造紙のまとめ ---------- 44

1　意見交換会の概要

(1)目的

地域づくり意見交換会(以下「意見交換会」という。)は、地域づくり推進会議(以下「推進会議」という。)未設置の33中学校区を対象とし、地域づくりの目的や推進会議設置地区の取組状況に関する情報の共有、また、推進会議の設置によりどのようなことができるのか等についての意見交換を通して、地域づくりの気運醸成と推進会議の設置に関する検討を行うことを目的に実施しました。

(2)実施単位

中学校区(市内37中学校区のうち、推進会議未設置の33中学校区)

(3)参加者数及び参加団体等



- 参加者数:253名
- 参加団体等:
  町会自治会連合会、住民協議会、学校運営協議会、
  民生委員児童委員協議会、青少年対策地区委員会、
  福祉ボランティア団体、市民活動協議会、国際協会、
  障害者団体連絡協議会、青年会議所、環境市民会議会員、
  地球温暖化防止活動推進委員、小・中学校 PTA、公募市民　など

(4)従事者

- 庁内プロジェクトチーム「八王子地域 PAL-ETTE(パレット)」
- 高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)、八王子まるごとサポートセンター(社会福祉協議会)、第1層生活支援コーディネーター
- 事務局:八王子市未来デザイン室地域づくり担当及び株式会社アール・ピー・アイ(委託事業者)

※市民活動推進部、市民部、福祉部、子ども家庭部及び学校教育部の課長職が各回の会場責任者として従事しました。

(5)実施期間・場所

- 期間:令和4年(2022年)8月28日(日)～12月18日(日)
- 場所:各地区の市民センター等(各回の会場は(6)に記載のとおり)

(6)日程・会場一覧

グループ	実施日	会場	校区	参加者数
1	令和4年(2022年) 8月28日(日)	東浅川保健福祉センター	浅川中学校区	9名
			陵南中学校区	6名
2	令和4年(2022年) 9月4日(日)	横山南市民センター	横山中学校区	7名
			椚田中学校区	11名
			館中学校区	8名
3	令和4年(2022年) 9月11日(日)	南大沢市民センター	松が谷中学校区	9名
			別所中学校区	7名
			松木中学校区	8名
4	令和4年(2022年) 10月2日(日)	教育センター	第七中学校区	8名
			由井中学校区	7名
			七国中学校区	3名
5	令和4年(2022年) 10月16日(日)	中野市民センター	第二中学校区	7名
			甲ノ原中学校区	12名
			楢原中学校区	14名
6	令和4年(2022年) 10月30日(日)	市役所本庁舎(職員会館)	第四中学校区	10名
			横川中学校区	9名
			四谷中学校区	5名
7	令和4年(2022年) 11月20日(日)	石川市民センター	第一中学校区	4名
			石川中学校区	8名
			加住中学校区	10名
8	令和4年(2022年) 11月27日(日)	大和田市民センター	第五中学校区	6名
			第六中学校区	8名
			ひよどり山中学校区	5名
9	令和4年(2022年) 12月4日(日)	南大沢市民センター	由木中学校区	9名
			上柚木中学校区	5名
			宮上中学校区	4名
			鑓水中学校区	3名
10	令和4年(2022年) 12月11日(日)	恩方市民センター	元八王子中学校区	8名
			城山中学校区	9名
			恩方中学校区	9名
11	令和4年(2022年) 12月18日(日)	いずみの森義務教育学校	打越中学校区	9名
			中山中学校区	6名
			いずみの森義務教育学校区	10名

(7)実施方法

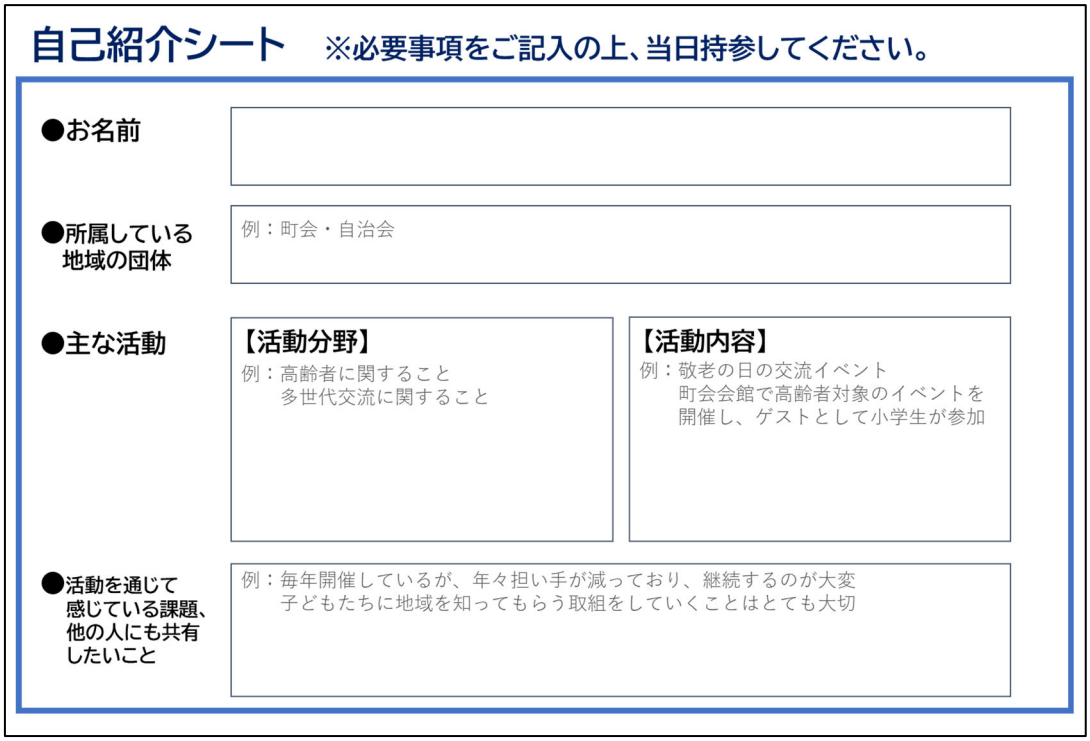
- 33中学校区を11グループに分けて、1グループあたり2～4中学校区合同で、意見交換会を実施しました。(合計11回実施)
- 会場では、中学校区ごとに参加者を1～2テーブルに分け、1テーブルあたり3～8名程度で自己紹介及びテーブルワークを行いました。(詳細は(8)に記載のとおり)
- 意見交換会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、会場受付時の検温や体調確認、こまめな消毒、換気、飛沫感染防止パネルの設置などを行ったうえで、対面開催にて実施しました。

(8)当日の流れ

- 地域づくり担当から、「中学校区別ワークショップ」の振り返りを行うとともに、地域づくりの必要性や未来像の説明及び推進会議の取組紹介を行いました。
- 中学校区ごとのテーブルごとに、次のとおりワークを行いました。

・ ワーク① 自己紹介
参加者が事前に記入した「自己紹介シート」を使って、参加者同士の自己紹介及び自身の活動内容の発表を行いました。

「自己紹介シート」様式



自己紹介シート　※必要事項をご記入の上、当日持参してください。

●お名前		
●所属している地域の団体	例：町会・自治会	
●主な活動	【活動分野】 例：高齢者に関すること 多世代交流に関すること	【活動内容】 例：敬老の日の交流イベント 町会会館で高齢者対象のイベントを開催し、ゲストとして小学生が参加
●活動を通じて感じている課題、他の人にも共有したいこと	例：毎年開催しているが、年々担い手が減っており、継続するのが大変 子どもたちに地域を知ってもらう取組をしていくことはとても大切	

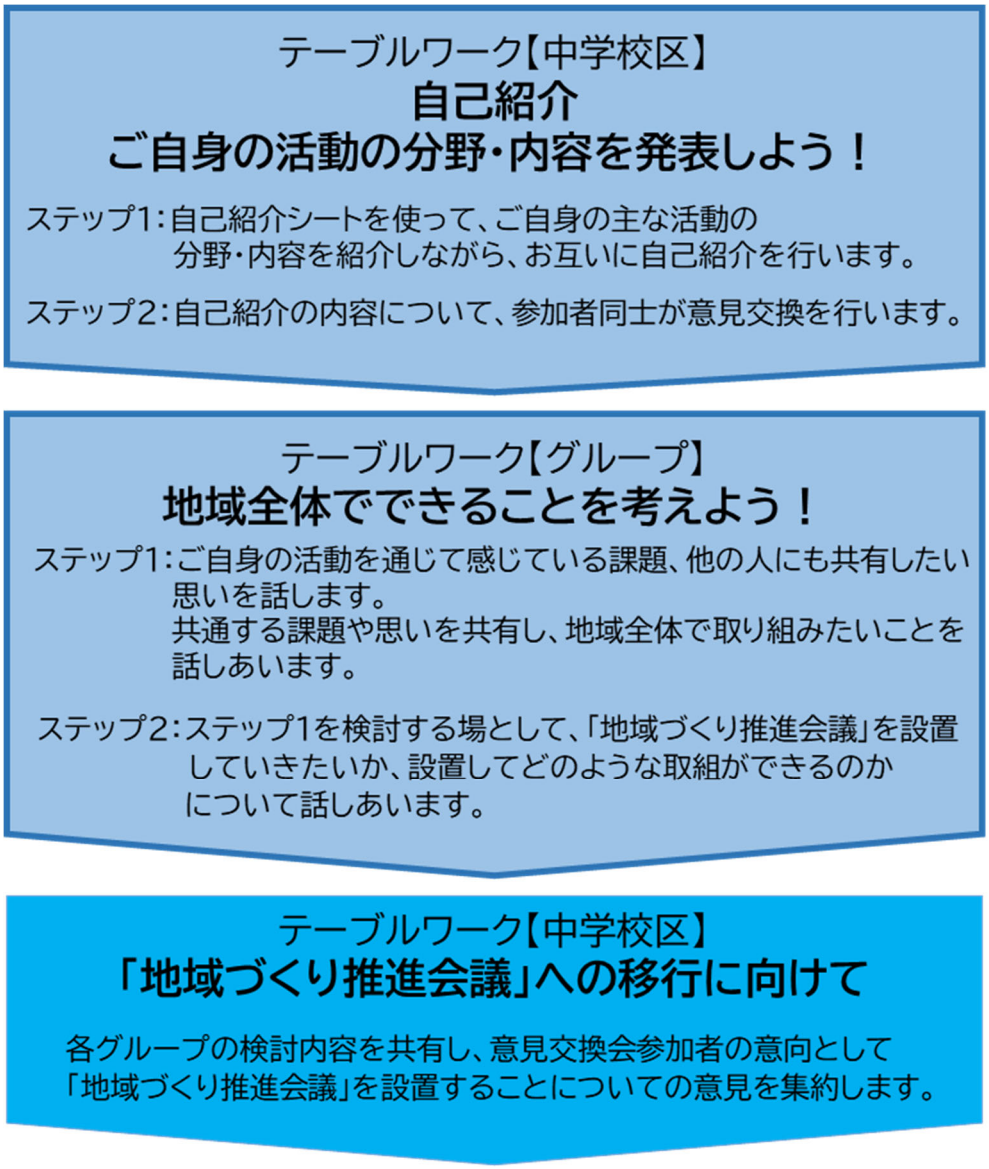
・ ワーク② 地域全体でできること

参加者がそれぞれの活動を通して感じている課題や他の人にも共有したい思いを話し、地域全体で取り組みたいことについて意見交換を行いました。

・ ワーク③ 推進会議への移行に向けて

ワーク①及び②を踏まえ、当該中学校区における推進会議設置に対する意向を確認しました。

テーブルワークの流れと検討内容（当日資料から抜粋）



（9）意見交換会の様子



1グループ
東浅川保健福祉センター



2グループ
横山南市民センター



3グループ
南大沢市民センター



4グループ
教育センター



5グループ
中野市民センター



6グループ
市役所本庁舎（職員会館）



7グループ
石川市民センター



8グループ
大和田市民センター



9グループ
南大沢市民センター



10グループ
恩方市民センター



11グループ
いずみの森義務教育学校

2 地域づくり推進事業の取組

(1)地域づくり推進事業の取組経緯と意見交換会の位置づけ

本市では、地域を取り巻く環境が変化する中で、さまざまな地域の課題に対応するため、地域が主体的に地域の魅力や課題を把握し、地域課題の解決などのために協働していくしくみを構築する「地域づくり」を推進しています。

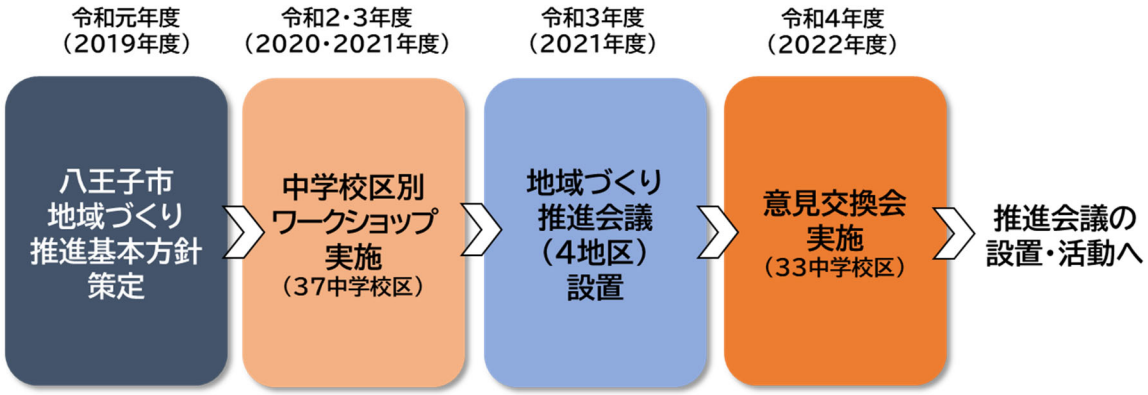
令和元年度(2019年度)には、『八王子市地域づくり推進基本方針』を策定し、地域づくりの課題や、中学校区を基礎単位とすることなど、地域づくりの推進にあたっての基本的な考え方を示しました。

令和2年度(2020年度)から令和3年度(2021年度)にかけては、全37中学校区を対象とする「中学校区別ワークショップ」を開催し、中学校区ごとに地域のありたい姿とその実現に向けて必要なことを話し合い、地域づくりに対する気運醸成を図りました。

その後、令和3年(2021年)6月には、モデル地区となる長房及び川口中学校区、続いて12月には、みなみ野及び南大沢中学校区にそれぞれ推進会議を設置して、地域資源等をまとめた「地域カルテ」の作成や地域の将来ビジョンの実現に向けた具体的な取組をアクションプランとしてまとめた行動計画である「地域づくり推進計画」の策定等に取り組んでいます。このように、推進会議の設置によって、新たなつながりが生み出され、地域の実情に合わせた特色ある取組が始まっています。

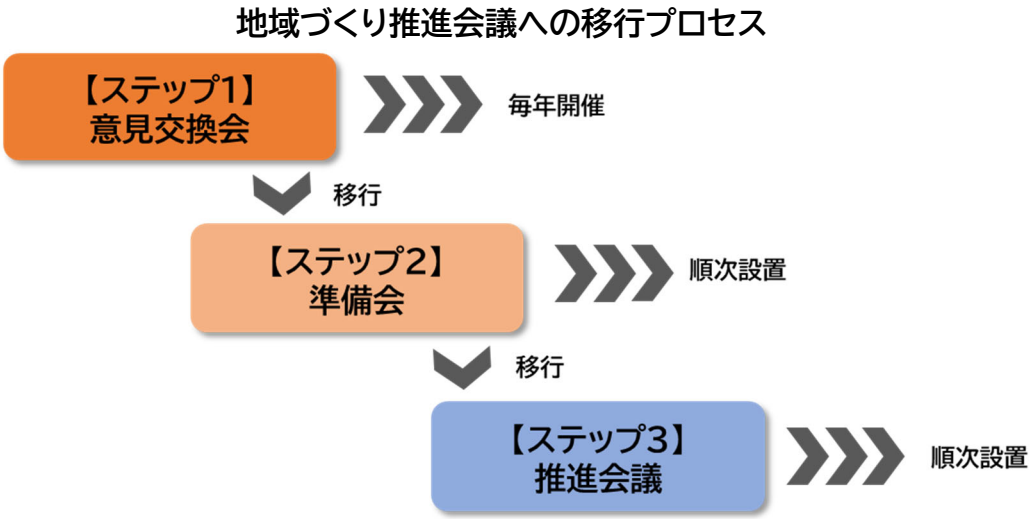
本意見交換会は、そのような推進会議の取組を市全域に広げていくため、推進会議の設置に向けたステップの一つとして、推進会議未設置の33中学校区において開催しました。

地域づくり推進事業の取組経緯



（2）推進会議の設置に向けたステップ

推進会議の設置は、各中学校区において、地域の実情や意向を踏まえながら、以下のとおり、段階的に進めていきます。



ステップ1 ： 意見交換会

地域の多様な活動団体や住民が地域活動における課題や共有したいことについて意見交換を行い、推進会議設置に関する意向をまとめていきます。

ステップ2 ： 準備会

意見交換会を経て、推進会議の設置に向けた準備を行うプロセスです。準備会の設置後、概ね2年以内に、推進会議へ移行することを想定しています。

〈主な取組内容〉

- 推進会議の設置に向けたメンバーが集まり、地域の魅力や課題への理解を深めるとともに、参加者間のネットワークを形成していきます。
- 推進会議の運営体制や必要となる役割・機能を検討し、設置準備を行います。

ステップ3 ： 推進会議

地域の幅広い分野の活動団体や様々な世代の住民が、ともに取組を行っていく「地域のプラットフォーム」となるものです。

〈主な取組内容〉

- 誰でも自由に参加でき、地域情報の共有や気軽につながりを持つことができる場を形成します。
- 地域の課題解決に向けた取組を話し合い、合意形成を図ります。

3 意見交換の記録

(1)推進会議設置に関する意向について

意見交換会では、推進会議設置に関して、「賛成」、「保留」又は「反対」の三者択一方式で、参加者の意向を伺いました。全体としては、33中学校区のうち18中学校区で参加者全員が賛成、14中学校区で参加者の半数以上が賛成、1中学校区で参加者全員が保留となり、大半の参加者において、推進会議の設置に向けて前向きな意向があることを確認できました。

① 主な賛成意見

賛成の理由としては、「地域のつながりづくりになる」、「(縦割りになっている)団体間の交流・情報共有ができる」、「地域の一体感を醸成できる」など、地域のつながりづくりに関する意見や、「団体間で連携して課題解決に取り組める」、「団体ごと、町会ごとの活動が重複しており、交流することで見直しや合同で活動できる」など団体間の連携に関する意見が多く挙げられました。

また、ほとんど全ての中学校区において、町会・自治会の加入者の減少や新旧住民の交流の難しさが生じていることにより、地域のつながりが希薄化しているという声や、地域活動の担い手となる人材が不足していることにより、地域の担い手の負担が大きくなっている等の意見が挙がっているなかで、推進会議に対しては、地域の住民間・団体間をつなぐプラットフォームやコーディネーターとしての役割・機能を期待する意見もありました。

加えて、推進会議において、多様な分野・世代の団体や住民が資源や情報を共有することによって、これまでと違った考え方を取り入れることが可能になり、自身の団体における課題の解決にも役立てられるのではないかとの声も聞かれました。

② 主な保留・反対意見

主な理由としては、「推進会議で具体的に何が実現できるのか、なかなかイメージがわきづらい」、「目的や役割・機能などをもう少し分かりやすくすべき」などの意見が挙げられました。

また、「同じような会議や団体があり参加者の顔ぶれも似ている」、「既存の地域の会議体や団体との役割の違い等についての整理が必要」とする意見や、「参加者の負担が大きいのではないか」等、地域活動における人材・担い手の不足を指摘する声も聞かれました。

さらに、地理的な特性や歴史的経緯などから、「同じ中学校区でも地区によって課題が異なる」、「方針をひとつにまとめるのが難しい」、「近隣の中学校区とも連携したい」等、推進会議の設置単位に関する意見もありました。

（2）推進会議設置に関する意向以外の意見について

① 各意見において共通する内容

推進会議の設置に賛成の意見においても、保留・反対の意見においても、「地域の担い手不足」や「地域の居場所や活動拠点の確保」に対する意見が共通して多く挙げられていました。

グループワーク全体を通して、町会・自治会の加入率の低下や地域の担い手の高齢化と不足、若い世代に地域に関わる余裕がないなどといった話が話題となり、また、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントやお祭りが中止になり、住民の交流機会が少なくなったことも重なっている状況が改めて浮き彫りになりました。そのような中でも、住民間のつながり、これまで培ってきた地域の伝統や習慣を見つめ直し、住民同士が支え合い、助け合うことによって、「地域力」を高めていくことの重要性を訴える意見もありました。

担い手不足については、推進会議をきっかけとして、新たな人材の掘り起こしを図り、住民間・団体間のつながりをつくりながら課題解決に取り組みたいとの意見があった一方で、推進会議を設置しても、地域活動に積極的な住民がいないこと、現在の担い手に役割が集中して、かえって負担が増えてしまうのではないかなどの懸念も示されていました。

地域の居場所や活動拠点の確保については、気軽に集まることができる場がないことが地域活動のハードルになっており、そのような場が確保できれば、参加者の不安や負担の軽減を図ることができるだけでなく、地域活動の継続・充実にもつながるのではないかとの意見が多く挙げられました。

② 推進会議設置にあたっての留意事項等

推進会議の設置にあたって留意するべき点として、「多様な住民の参加」や「参加しやすい工夫」、「地域と行政の対話による協働」が必要であるとの意見が挙げられました。

特に、地域活動について、地域の未来を担う若い世代を巻き込む必要があるとの意見が多く、大学生や中高生、小さい子どもがいる子育て世代に参加してもらいたい、また、その他にも地域に立地する企業にも参加してもらいたいという意見が多くありました。

参加しやすい工夫としては、対面形式とリモート形式のハイブリッド会議、託児サービスによるサポート等により、幅広い人が参加できるような工夫が必要との意見がありました。また、地域活動の負担感に対する指摘があるなかで、参加者のメリットになるような配慮や楽しさがなければ続かないといった意見もありました。

また、地域が主体的に課題解決に取り組むためには、行政の協力も不可欠であり、推進会議での活動を持続的なものにしていくためには、市からの人材面や資金面等の支援を制度化してほしいとの意見がありました。このほか、推進会議を設置した場合には、地域と行政が双方から情報共有を行い、対話をしながら、協働できる場とする必要があるとの意見もありました。

（3）中学校区別の検討状況について

意見交換を行った項目ごとの内容を中学校区別に整理しました。

なお、内容については、各中学校区のテーブルにおいて出された意見をもとに、発言者の意図を尊重しつつ、事実関係の確認や文言や標記の統一を行うなど、事務局において一部編集を加えている箇所があります。

【項目】

- 地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
- 推進会議で取り組みたいこと
- 推進会議への取組に対する意向と理由
- 推進会議の留意事項、条件

※ 意見が出ていない項目は、中学校区ごとに削除しています。

【掲載順】

No	校区	ページ
01	第一中学校区	11
02	第二中学校区	12
03	第四中学校区	13
04	第五中学校区	14
05	第六中学校区	15
06	第七中学校区	16
07	ひよどり山中学校区	17
08	甲ノ原中学校区	18
09	石川中学校区	19
10	横山中学校区	20
11	館中学校区	21
12	椚田中学校区	22
13	元八王子中学校区	23
14	四谷中学校区	24
15	横川中学校区	25
16	城山中学校区	26
17	恩方中学校区	27

No	校区	ページ
18	楢原中学校区	28
19	加住中学校区	29
20	由井中学校区	30
21	打越中学校区	31
22	七国中学校区	32
23	浅川中学校区	33
24	陵南中学校区	34
25	由木中学校区	35
26	松が谷中学校区	36
27	中山中学校区	37
28	宮上中学校区	38
29	別所中学校区	39
30	上柚木中学校区	40
31	松木中学校区	41
32	鑓水中学校区	42
33	いずみの森義務教育学校区	43

【01】第一中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 地域の会議に出る人が同じであるため、中間の現役世代（40～60代）が必要 →楽しくできることを大人が示す、声を上げることが必要 **〈情報発信・共有〉** ・ 町会に加入するメリットとして防犯、人脈づくり等に有効であることを発信 **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 少子化の状況や子どもが習い事で忙しいことなどで、部活が成り立たなかったり、子ども会も会員が減少している **〈その他〉** ・ 市民センターが老朽化しており、PCルームもない ・ 新型コロナウイルスの影響で活動できないまま担当者が交代し、活動が再開できない ・ 新型コロナウイルスの影響があったが、学校生活、高齢者あんしん相談センターのスマホ教室、社会福祉協議会の防災の取組などは活動再開の動きもある
推進会議で取り組みたいこと
・ 子どもが高齢者に教えたり、高齢者が子どもに手仕事や昔の知恵を教えたりするなどの、子どもや若い世代と高齢者の交流の場づくり ・ 大学生にデジタルの活用法を教えてほしい ・ 防災をテーマに実践してみて成功事例をつくる ・ SNSを使った情報発信 ・ イベントの開催
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 現状では推進会議のイメージがわきにくいが、防災などをテーマにした地域での取組などを実践することが必要
推進会議の留意事項、条件
・ 参加者を広げるための地域全体の理解が必要 ・ 子どもの声など生の声を聞く機会を設ける

【02】第二中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 清掃活動、防災活動、園芸活動、文化祭など、町会の「見える化」に取り組んでいるが、地域活動への参加がない（入りにくい地域性、子育てが終わった世代の町会離れ） ・ 町会役員のなり手がいない **〈つながりづくり〉** ・ 生活の多様化でつながりのきっかけがなく、つながりを拒否する人もいる ・ PTAは学校活動が主であり、地域との関わりが少ない ・ 不登校、学生の一人暮らし、貧困家庭、情報弱者など、目に見えない孤独 ・ 転入者と昔からの住民の壁 ・ 町会から住民への働きかけが一方通行になっている ・ 民生委員が活動（高齢者が主）しているが、守秘義務が壁になっている ・ つながりが防災になる
推進会議で取り組みたいこと
・ 公園や地域コミュニティのための場所の創出について考える ・ 第二中学校の敷地や施設の有効活用、学校統廃合を含めたハード施設の今後を考えること
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留とする参加者もいた **【保留の理由（課題）】** ・ 推進会議をなぜ立ち上げ、どのようなメンバー構成で何を検討していくのかなど、もっと知りたい ・ 市の予算・手当などが不明

【03】第四中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 町会、PTA、サロン等の担い手がいない **〈つながりづくり〉** ・ 住民の意見を聞く場、町会との関わり、近隣の交流がないなど住民間の関わりがない ・ 新住民は地域との関わりや地域への関心が薄く、町会に加入する人が少ない ・ 子ども会で横のつながりができたが、新型コロナウイルスの影響で活動できずノウハウが継承できない ・ 子ども会を企画運営する親の負担が大きい →高齢者サロンや他の子ども会との緩やかな連携で、合同の取組へ **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 居場所づくりの難しさ ・ 集まる場所、公園、市民センターがない **〈自然・環境〉** ・ 子どもたちに豊かな自然環境、住環境を引き継ぐ必要がある →八王子の美しさ、郷土愛を広める仕組みが必要 **〈その他〉** ・ 障害者に対する差別、偏見、理解不足
推進会議で取り組みたいこと
・ 20～40代の地域参加、近所同士が集まってつながりをつくり、市民力を高める ・ 地域活動の担い手の発掘、場所の確保、PR ・ 第二小学校跡地の活用、体育館の開放などによる居場所づくり
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 人が集まり、住民の声を吸い上げることが大切 ・ 自治の必要性をアピールし、団体で協働する
推進会議の留意事項、条件
・ 町会・自治会との調整が必要 ・ 人材、場所、情報発信が必要なので、行政との協働が必要（自分たちだけでは難しい） ・ 市民センターなど集える場所がない ・ 機動力があり、時代の変化に敏感な若手の登用を図る

【04】第五中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 町会に加入しない世帯が増加している。町会活動を知らない、地域への愛着も不足し、参加者の減少で地域活動が衰退している ・ 活動の担い手、役員のなり手が少なく、どの会議も同じ顔ぶれになっている ・ 作業など負担が大きいため、楽しみがないと続かない **〈つながりづくり〉** ・ 昔からの馴染みの関係が消滅している ・ 家庭と地域のつながりがないため、地域は学校に協力するが、親が地域や学校に無関心 ・ 個人情報保護のため住民の顔が見えにくく、つながりが希薄化し、問題への対処が難しい ・ 世代間交流がない ・ 新型コロナウイルスの影響でさまざまな活動ができない ・ 人のつながりが問題解決につながる ・ 楽しさをアピールし、ターゲットを絞らず多世代交流、話し合いの機会、若い世代が興味を持てる活動を実施する
地域づくり推進会議で取り組みたいこと
・ 多世代で地域の魅力探しをするワークショップ、マップづくり
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留とする参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 横のつながりをつくる機会が必要 **【保留の理由（課題）】** ・ 総花的な議論で終わるのではなく、具体的なテーマに絞った議論・取組が必要
地域づくり推進会議の留意事項、条件
・ 将来を語るため、子どもも参加する会議にする ・ 分科会方式で、テーマを絞った具体的な取組にする

【05】第六中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ マンション建設時に町会とデベロッパーが協定を結び、入居者は全員町会加入、管理費からお祭り資金を徴収している **〈つながりづくり〉** ・ 住民が少なく、単身者が多い ・ 催し物への参加が少ないため、人とのふれあい・助け合いができる場が必要 **〈情報発信・共有〉** ・ 街に活気がなく、情報発信の仕方が課題 **〈見守り・支え合い〉** ・ 住民の目で病気や事故を未然に防ぐシステムがないため、地域での見守り活動が必要 →問題の早期対応が重要だが、困っている人をすぐに把握できない →貧困で苦しむ人を街でサポートしたい **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 子どもが少なく、PTAの活動も減少している ・ 支援が必要なひとり親家庭等、問題を抱える子育て家庭が増加（子どもの日中の居場所がない、子ども食堂が利用できていない）
推進会議で取り組みたいこと
・ 空きマンションやアパートの活用
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留とする参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域間の理解を深め、つながりをつくる ・ 多世代が参加して話し合いをしたい **【保留の理由（課題）】** ・ 同じ中学校区内でも、地域ごとに環境や住民の考え方等が異なり、一中学校区として統一的な議論をするのは難しい
推進会議の留意事項、条件
・ 課題に応じた地域、区域の設定

【06】第七中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 町会・自治会の役員、区長のなり手がいないため、一部の人に役割が集中し、負担が大きくなっている ・ PTAはなり手がなく、活動を縮小している **〈つながりづくり〉** ・ 町会加入率が低下しており、町会加入のメリットが問われている →近隣の家族構成も不明で、賃貸マンションは防災訓練に参加しないため顔が見えない ・ 学校と地域の関わりが少なく、知らない子に声をかけにくいため、顔の見える関係が大事 ・ 登下校時の見守り人材が不足し、保護者からボランティアを募集している →町会とつながることで課題解決につながる **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 新型コロナウイルスの影響により、高齢者が家に閉じこもると、認知機能の低下に影響するので、サロンにもっと来てほしい ・ 子どもたち、高齢者など誰でも自由に集まれる場所がほしいが、場所がない **〈情報発信・共有〉** ・ 情報がないと助けられないが、個人情報の共有ができないため、民生委員の活動が難しい ・ 民生委員のPRが必要 **〈子ども・子育て・見守り〉** ・ 子どもを通して、若い子育て世代との接点をつくる
推進会議で取り組みたいこと
・ 団体同士が合同で活動するなど、いろいろなつながりを組み合わせて、地域における多世代のつながりづくりをする ・ 高齢者の力で子どもを見守り、地域の人が学校に関わるなど、地域で協力し子どもを守る ・ 学校を起点とするなど、高齢者や子どもの区別なく多世代が関われる場をつくる ・ 子ども会議などを実施し、子どもや若者の声を推進会議に取り入れる ・ ウェブサイトで意見を出しあう ・ 団体のPR、コミュニティカレンダーの作成
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ つながることで解決できることが多い。担い手不足、団体会員数の減少、関わりの希薄化、集まる場所がない、団体の役割・認知不足、個人情報保護の壁など
推進会議の留意事項、条件
・ メンバー構成として、現役世代や子どもたちに参加してもらう

【07】ひよどり山中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 中間の世代や子どもが減少し、町会の加入者が少なく、地域の行事参加者に偏りがある ・ 子ども会やPTAの役員のなり手が減少し、1 人が複数の役割を担っている ・ 新型コロナウイルスの影響により在宅勤務者が増加したことで、潜在的な地域人材が増加 **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 新型コロナウイルスの影響により、活動する場所がない（利用制限等） **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 民生委員の仕事の多くが高齢者支援となっているが、若い世代にかける予算が重要であるため、今後は子育て支援に注力すべき ・ 今後は健康な高齢者に活動してもらうことが重要 ・ さまざまな状況の子どもがいる **〈交通インフラ〉** ・ 交通が不便で、移動販売が来ても行けない **〈自然・環境〉** ・ 自然が多く利便性がよいので暮らしやすい ・ 里山での自然体験（樹拓、川散策、芋掘り）などの自然を活かした世代間交流の活動 ・ 子どもたちに環境活動に参加してもらう ・ 森林地帯の保全が必要 **〈その他〉** ・ 似たような団体が多数ある
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域課題を整理し、地域からの要望の受け皿となる場が必要 ・ 市を含めた推進会議がよい ・ 現状を変えるために必要 ・ 各分野の団体がそれぞれ活動しており、集まる場、まとめるプラットフォームが必要
推進会議の留意事項、条件
・ メンバー構成としてどういう人材を集めるかの参集範囲、構成員となる団体の検討 ・ プラットフォームとしての位置づけが重要 ・ 既存団体との棲み分け、会議の役割や機能・目的の明確化 ・ 中学校区単位での議論が適切か検討

【08】甲ノ原中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 自治会加入者が減少し、自治会行事やシニアクラブなどの活動への参加者も減少 ・ 自主防災会メンバーが高齢化し、地域で自主防災ができなくなる可能性がある ・ 一人暮らしの見守りボランティアの人員不足 **〈つながりづくり〉** ・ 複数の団体に所属し、活動する人もいる ・ 各団体で横のつながり、連携を意識した動きが少ない ・ つながりたいが、地域とつながる方法が不明 ・ 子どもと高齢者の交流、ボランティア等は新型コロナウイルスの影響で参加者が減少 **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 住民が集まる場やスペースが必要 ・ 活動したくても場所が使えないため、屋外実施、分散化、オンラインなどやり方を工夫する必要がある **〈情報発信・共有〉** ・ 地域づくりに関する周知が足りないという声がある一方、住民は興味関心があるのかという疑問もある ・ 地域活動を可視化し、地域活動に参加するメリットを伝える **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 地域の特色を活かして子どもたちと活動する **〈その他〉** ・ 無理なく活動できるようにする
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留とする参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 住民が集まる場、オープンで目に見える場が必要 ・ つながりづくりには、議論する場が必要 **【保留の理由（課題）】** ・ 既存の会議体と推進会議の違いをもっと知りたい ・ 住民の関心が低く、参加メンバーがいつもと同じ顔ぶれになる
推進会議の留意事項、条件
・ モデル地区の取組を具体的に知ることで、推進会議の目的、位置づけ等を理解したい ・ 若い世代の参加しやすさに配慮 ・ 主体的、意欲的な人材や団体が携わる ・ 関心を促すための情報発信

【09】石川中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 住民協議会では、若手が入らず、役員のなり手がいない **〈つながりづくり〉** ・ 新興住宅地として20～30年が経過し、町内のまとまりはあるが活動がマンネリ化し、活動の維持が負担となっている ・ 町会間のつながりが薄い ・ 学校運営協議会や青少年対策地区委員会等の活動・意義を保護者や地域に広くアピールし、地域ぐるみで子どもを考えるためのつながりを深めていく **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 共働き、介護などさまざまな生活状況があって、忙しくPTAに入れない ・ PTA 活動に関する情報発信が不足しているが、発信しても伝わらない ・ PTA活動について、新しい人は参加せず同じメンバーになりがちであるため、外注、リモート会議などで負担軽減を試みている ・ 学校運営協議会の活動を広く発信することが必要 ・ 青少年対策地区委員会の活動は確立しているが、学校ごとの位置付けにより関わり方に差異が生じないよう、今後、地域としてさらなる協働意識の向上が必要 ・ この地域の子ども達の安定は青少年対策地区委員会のこれまでの成果であり、今後も子ども達の健全育成と社会環境の浄化を進めていくことが必要 **〈自然・環境〉** ・ 緑地保全、空き地のゴミ対策、外来種などの問題、市有地の草刈りなどに市民参加が必要で、一括で相談できる場所がほしい **〈その他〉** ・ 高齢者、子どもの問題は地域での解決が必要 ・ 駐車場、子どもの遊び場が少なく、住民が集まる場所がない
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 情報共有を通じて、地域の横のつながりをつくる ・ 各団体の取組の重複を見直す機会にする
推進会議の留意事項、条件
・ 会議体としての位置づけや既存団体との違いをもっと知りたい ・ 開催頻度、会議の時間帯、リモートの併用など、参加者の負担に配慮して簡素化する工夫が必要

【10】横山中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ ボランティアの人員不足 ・ 後継者がいないため、地域の文化が減っていく **〈つながりづくり〉** ・ 町会のメリットが見えず、地域に対する意識が低下（若い世代）することで、町会・自治会に入らない、脱会する住民が増加 ・ 自治会に入っていないと、防災対策などフォローできない **〈情報発信・共有〉** ・ 民生委員の活動として、独居高齢者、子ども、親のSOSなどを把握したいが、守秘義務で情報共有ができない ・ めじろ台では、災害時に声かけが必要かをアンケートで確認し、許可をとって名簿を共有 **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 子どもたちが楽しめる取組の充実や働く場の創出によって、子どもたちが大きくなっても住み続けてもらえるようにしたい ・ 子どもが育ったら親世代も地域を出てしまうので、親世代への関与も必要
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留とする参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ つながる場所が必要 ・ 多様な世代で話すことが必要 ・ 子育てママの参加を促進し、ママ友に情報を拡散したい **【保留の理由（課題）】** ・ 同じような団体がたくさんある ・ 旧村の単位で考えていたため、中学校区単位に違和感を覚える
推進会議の留意事項、条件
・ 意見が出る新しいメンバーで編成する

【11】館中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ メンバーの高齢化による担い手不足 ・ 親世代が忙しく、学校も手がいっぱいであるため、PTA活動を縮小 ・ 負担が増えると活動継続できない ・ 地域の人を巻き込むことが大切であり、新型コロナウイルスの影響があっても人の集まる機会をなるべく減らさない **〈情報発信・共有〉** ・ 活動を住民に周知したいが、話す場や手段がないため、学校や自治会にアプローチしたい **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 子どもの活動に小学生は参加するが、中高生は忙しく参加しない ・ 学区外の子どもが多く、親が地域の議論に参加していない **〈防犯・防災〉** ・ 防災訓練は、子どもが来れば大人も参加する **〈自然・環境〉** ・ 自然への関心が低いため、地域の人が身近な自然にふれる機会をつくりたい **〈その他〉** ・ 地域福祉から漏れている人が多数いる ・ 高齢者の増加により買物困難者、認知症の方が増加
推進会議で取り組みたいこと
・ 地域カルテを小学校に配布する ・ メンバーの交流を深める ・ 学校関係者、小中高校生、大学生を巻き込みつつ、特色あるメンバーを入れる
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留とする参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域の人が積極的に議論するべき ・ 地域住民だけでなく、市役所職員、学校関係者、外部の人もいる場にしたい **【保留の理由（課題）】** ・ 議論の引き継ぎ、積み上げがないと堂々巡りになる ・ 推進会議のイメージをもっと知りたい ・ 幅広い分野にわたる議論の場となるため、テーマを絞ったほうがよい ・ 町会単位と中学校区の単位が合っていない
推進会議の留意事項、条件
・ 多様なメンバー構成 ・ メンバーの固定化・入れ替わりがあるため、団体の役職者が変わった場合の引き継ぎ等が必要

【12】椚田中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ マンションが増えても町会・自治会に新しい住民が入らないため、加入率が低下している ・ 町会未加入者は防災意識が育ちにくい ・ 町会活動の担い手が減り、以前の町会活動のやり方が維持できない ・ 大人の姿を見てボランティアに参加する若者や子どもを増やしたい ・ 複数の大学の活動があるため、大学生の人材バンクとともに、学生にもメリットがある有償ボランティアやポイント制度などをつくれたらよい ・ 新型コロナウイルスの影響でイベントがなくなり、つながりや助け合いの意識が希薄化した **〈つながりづくり〉** ・ 空き家問題、交通問題など、めじろ台でのまちおこしで、行政との連携ができていない ・ 町会、地域がバラバラになっている ・ 各団体とも課題は多いが、団体間の連携が不足している ・ 退職後の人をどこにつなげてよいかわからない ・ 学ぶ場、イベント、社会資源など、情報発信でつなぐことが必要（市の HP など） **〈子ども・子育て・教育〉** ・ ワンオペ育児で困っている母親が多くいる。話を受け止める場や傾聴の場があるとよい ・ 子育て広場の講座や相談の充実、情報発信が必要 ・ 学校の先生が忙しすぎるため、地域の課題を学校と共有したいが進まない ・ 個人情報保護のため、学校コーディネーターと情報共有ができない **〈自然・環境〉** ・ 湯殿川を清掃し、蛍が住む川をきれいに保ちたい ・ 地域のクリーン活動では、地域の皆が関心をもって行動できるよう、子どもや若者がボランティアに参加する取組が必要
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留とする参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域独自のつながりにより、地域の一体感をつくりたい ・ 地域を盛り上げたい（マーチングフェスティバル） ・ 団体間の連携により、団体の課題を解決したい
推進会議の留意事項、条件
・ IT関係、大学生などを含めた、偏りのない参加者構成

【13】元八王子中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 町会加入者が減少している理由は、町会のメリットを共有できていないことであり、町会の役が回ってくると辞める人もいる ・ 役員のなり手がいないため、婦人部が解散し、子ども会も解散状態になっている ・ 負担を軽くする工夫として、イベントなどの協力者をお手伝い程度に依頼する ・ 新住民、若い世代を取り込む必要があるが、地域に関わるきっかけや時間がない ・ 共同作業を通じたまちづくりにより、地域に関わるきっかけをつくる ・ 地域に関わるきっかけとして、町会会館の利用や緑化活動などの共同作業、夏休みに子どもに勉強を教える、高齢者見守り隊、サロン、カフェのお手伝いなどがある ・ ゴミや街灯などは町会で管理している **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 町会と中学校の連携として、盆踊りなどに中学生が参加し、手伝ってもらう ・ 親子が地域で活躍できる場が必要 ・ 活動内容を精査して役員のメリットを出したらPT(C)Aの役員が立候補で決定した ・ 個人情報保護の壁などにより、地域と学校が連携した地域づくりが阻害されている
推進会議で取り組みたいこと
・ 情報共有 ・ 取組目標の設定(元八マルシェなど)
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由(期待)】** ・ 顔の見える場、活動がわかる場が必要
推進会議の留意事項、条件
・「ありたい姿」の実現には、すぐできること、時間がかかることがある ・ 進みにくいハードではなく、ソフトから始めてはどうか

【14】四谷中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 大学生（ボランティア）と高齢者が交流し、喫茶店に交流スペースを作った **〈つながりづくり〉** ・ 非加入・会費未納の増加や婦人部解散、役員の負担増、後継者不在により、町会の存続が困難となっている ・ 町会のあり方の転換期に来ており、町会の仕事を見直す必要がある ・ 地域の活動を知らない、入りたいが団体とのつながりがないという人がいる ・ 児童の送迎などを事業化することで、地域に還元できる新しいかたちとする ・ ボランティアは継続のために有償化が必要 ・ ボランティアの良さや喜びを感じる人もいる ・ 有償ボランティアで対応するだけでなく、法人化（NPO、一般社団法人等）で事業化させていく
推進会議で取り組みたいこと
・ 親子も参加する食事会やお茶飲みなどのイベントにより、高齢者の居場所をつくる ・ 無料塾や子ども食堂など、子どもに信頼される場所をつくる ・ 横のつながりが生まれる場所づくりや情報共有が必要 ・ 学生と地域のコミュニケーションを図りたい ・ 相談先を紹介する窓口をつくりたい
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 柔軟な意見を聞ける場、きっかけづくりとして必要 ・ 活動などの新しい方法を知ることができる
推進会議の留意事項、条件
・ 地域づくりを進めるうえで、行政が積極的に関われる体制にしてほしい

【15】横川中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 役員の高齢化、担い手不足が問題 ・ 災害時の避難、自転車の見守りなど、町会で防災・防犯活動を実施 ・ 防災無線が聞こえない高齢者や障害者への対応など、自治会単位でなく、より広域で、普段から災害対応を考える必要がある **〈つながりづくり〉** ・ 学校と地域、町会の連携が少ない ・ 若い世代が忙しく、町会に入る人が少ない ・ 付き合いの希薄化や現役世代の多忙により、地域コミュニティが希薄になっている **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 学校と地域の情報共有の場がないため、小学校便り、行事情報などを共有する ・ 教育ボランテイア制度があるが、活用できていない ・ 個人情報の壁があり、支援を必要としながらも地域とのつながりを持てない子どもが多いため、地域で子どもを育てていきたい ・ 子どもの居場所がないため、高齢者サロンでの受け入れや子ども会をつくりたい ・ 子どもたちへの危機管理教育、子どもの将来を考えることが重要
推進会議で取り組みたいこと
・ 参加したくなる行事の立案 ・ 人材バンクのように、どこにどんな人がいるかを整理し、ネットワークを構築する ・ 情報やアイデアを共有する場にする ・ 中学生など子どもたちが支援する側になる
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 団体間の縦割りに横串をさすことができる ・ 情報共有の場になる ・ 学生が入るなど、新たな人材発掘が期待できる
推進会議の留意事項、条件
・ 若い人材が参加する場にする ・ 学校と地域のつながりをつくる場にする ・ テーマが広すぎるため、会議運営のあり方の検討が必要 ・ 仕事との両立が難しい ・ 地域範囲の検討

【16】城山中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 中高年世代が地域外に流出しているため、次世代の担い手がいない ・ 若い世代の組織（青年部）が必要 ・ 若い世代は働いており、興味があっても主たる担い手にはなれない ・ 若い世代は、現在活動している担い手と考え方が異なる（無償での活動は難しい） ・ 若い世代のいる団体（消防団）などを取り込みたいが、公募では集まらない。地域の高校生にも声かけが必要 ・ 若者に行事などを継承していきたいが、忙しくて参加してもらえない **〈つながりづくり〉** ・ 育児がうまくできない、忙しく子どもに目が届かない、他の家の子を叱れない等の問題を解決するため、子どもを地域で見守る、子どもが成長する環境づくりが必要 **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 小学生の時期に郷土愛を育むことが大切 ・ 地域を学ぶ資料がないので、子どもと一緒に大人が地域を歩く ・ 弐分方小学校からの進学先は元八王子中学校、城山中学校の2つの中学校区に分かれる ・ 防災拠点になっている城山中学校の南と北の関わりが少ないため、地域内の連携が必要 ・ 学校と地域のつながりを回復させていくため、青少年対策地区委員会、学校運営協議会と連携して取り組むことが必要 ・ 新型コロナウイルスの影響で、外部の人が学校に入れず、サポーターのなり手がいない ・ 以前は行事を通じての交流があったが、新型コロナウイルスの影響で近所づきあい、協力・交流がなくなった。交流の場をつくる必要がある
推進会議で取り組みたいこと
・ 防災訓練など集まるきっかけをつくる
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ アイデアをもらえるなど、一人ではできないことができるようになる ・ 世代間のつながりをつくることができる（若い世代、学生などの伝承にもつながる）
推進会議の留意事項、条件
・ 参加者を広げる、世代が交わる場にする ・ 若い世代がいる場所に出向くなど、参加しやすい工夫が必要 ・ 学生・児童も参加できる場にする

【17】恩方中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 少子高齢化、転入者の減少で、新しい民生委員の候補者を探すのに苦労している ・ 交通手段が少なく通学が難しいため、地域の子どもが学区外の中学校に通学している ・ 子どもたちは市内全域から通学することが可能なので、部活動が活発な中学校を選択する場合もある。学校に興味がある親は多い ・ 子どもは忙しく地域イベントに参加できず、親は仕事が忙しく学校行事に参加できないため、地域のつながりが希薄化している ・ 自分が楽しんで参加することが大切であり、多世代交流のメリットを伝え、強制しないことで活動が継続する ・ スポーツ大会には子どもが参加することで、他団体との協力関係ができている **〈つながりづくり〉** ・ 恩方は、町会・自治会の単位と中学校区が概ね一緒であり、地区内ですべて完結していることが特徴である ・ 子ども食堂が減少している一方、参加する子どもの数は増加している ・ 市民センターを子どもの自習室として開放したい（学校も地域に開放する制度に変化） ・ 子育て世代の移住を進めるには、地域に人が入ってこられる基盤づくりが重要 →移住の仲介役が必要（行政、NPO） →空き家対策（空き家が借りられないため空き家バンクで貸し借りしやすい仕組づくり） →農地の購入に関する規制、法令緩和が必要 **〈交通インフラ〉** ・ 公共交通機関が少ない **〈防犯・防災〉** ・ 災害が多いため、対策として災害弱者の名簿を作成 ・ 獣害被害が多い
推進会議で取り組みたいこと
・ 防災訓練など集まるきっかけをつくる ・ 今は連携できていない住民の参加を促す ・ 恩方地域の豊富な資源を活かした取組をする ・ 恩方に関心を持つ地域外の人との連携
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、反対する参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 町会、PTA、NPOなどの活発な団体が多数あるため、横のつながりがあり、集まれる状況 **【反対の理由】** ・ 全団体が住民協議会とつながっており、新たに意見交換の場をつくる必要を感じない ・ 子どものコミュニティ（学区）と大人のコミュニティ（生活圏）に差異がある

【18】楢原中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 町会加入率が低下し、若い担い手がいない。若い担い手がいる町会から、若い人を巻き込むノウハウを共有したい **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 会議ができる場所が限られるが、新しくできる給食センター、楢原消防署、なかの学舎（フリースクール）などの活用を考えたい ・ 公園が少なく、児童館が遠いため、子どもの居場所を地域で考えたい ・ 公共施設、各学校に居場所を作るとともに、空き教室の利用、川を利用して自然と遊ぶ場所等にしたい **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 学校への行き渋りや不登校、貧困家庭等、目に見えない問題がある ・ 子どもから相談できないためフォローが必要だが、個人情報の壁があり個人的に見守るしかない。地域の見守り情報を共有し、行政や支援先につなげたい **〈その他〉** ・ 楢原地区には楢原小・松枝小・陶鎔小があるが、中学校で楢原と川口に分かれる
推進会議で取り組みたいこと
・ 組織のつながりを深め、お互いの顔を知る ・ 各団体は共通の課題を抱えており、交流、情報を共有したい ・ 子どもの貧困対策
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留する参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ お互いに交流・連携するとともに、異なる分野の意見を聞くことができる ・ やりたいことを活かせる可能性がある **【保留の理由（課題）】** ・ 会議回数など負担が多いと参加できないため、回数を減らす工夫が必要 ・ 同じ人が複数の活動を担っているため、メンバー構成の精査をしてほしい
推進会議の留意事項、条件
・ これまでの取組経過の共有 ・ メンバー構成の精査（若い担い手など） ・ 人や場所、予算、行政側の支援等について整理が必要

【19】加住中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 町会加入率の低下、消防団の解散、PTAの担い手不足 **〈つながりづくり〉** ・ 一人暮らしの高齢者が集まる交流の場づくりに取り組んでいる ・ 小中学校が1つしかなく、他の学校に流出している ・ 住民協議会に若い人を入れたい、交流を深めたい ・ 大学生用のアパートがあり、学生に野菜提供などしているが、地域との交流につながっていない ・ 学生にイベントの手伝いなど、地域参加を促したい **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 子どもの遊び場が少ない ・ 加住小中学校の使い方が難しい ・ 子ども食堂を、大学生が子どもに勉強を教える場にして、大学生の孤立を防ぐ **〈交通インフラ〉** ・ 住民の高齢化が進み、買い物が大変なため、移動販売がほしい **〈自然・環境〉** ・ 畑が駐車場、トラック置き場になっており、子どもが危ない。里山も資材置き場化している ・ 自然と歴史（史跡）、里山、都心にも近いことは地域の魅力 →里山の手入れを地域のイベントにして、地域のつながりをつくりたい →滝山城跡の環境を整備して観光地化したり、春と秋に谷地川を清掃したり、里山遊びに子どもを引き入れる、戸吹スポーツ公園を活用するなどのアイデアがある
推進会議で取り組みたいこと
・ 自然、歴史、里山、滝山城跡、都心に近い立地を活かした地域づくり
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域の課題を話しあう、地域ニーズを聞ける場になる ・ 横のつながり、コラボができる ・ 各団体の発表の場にもなる
推進会議の留意事項、条件
・ 住民協議会など、既存組織との棲み分けが必要 ・ 多様な視点を入れて、自分たちにない視点を知り、気軽に意見を言える場にしたい

【20】由井中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ イベント参加者は多いが運営者が少ないため、役員が固定化し、活動が負担となっている ・ 組織全体での活動が難しく、役員中心となっており、情報共有や世代交代ができない **〈つながりづくり〉** ・ 若い世代と地域とのつながりがない（高校卒業後、つながりがなくなる） ・ 小学生と高齢者の交流イベントなど多世代交流が必要であり、経験を通じて、いつか後継者として戻ってくることを期待したい ・ 中間層（現役世代）と地域とのつながりがないが、地域全体としてつながることが必要 **〈見守り・支え合い〉** ・ 共働きで親が忙しく、子どもの行き場がない ・ ママの交流がなく孤独化により、虐待につながる恐れがある **〈防犯・防災〉** ・ 防災には若者の力が必要 ・ 一人暮らしの高齢者の増加により、防災の視点から市などとの連携した調査が必要 ・ 自分事として考えにくいが、災害時の避難方法など、自助・共助の意識をもつことが必要 **〈その他〉** ・ 地域づくりの単位である中学校区と町会の区域、高齢者あんしん相談センターなどの福祉圏域など、それぞれの単位が異なるため、整理が必要 ・ 地域の役割や負担増に懸念があり、住民が地域づくりに対して納得する必要がある
推進会議で取り組みたいこと
・ 未来に向けて、子どもたちが戻ってきたいまちづくりを考える ・ 学校の敷地を活用した活動（イベント、バザーなど） ・ 集まる場づくり
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、反対する参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 新しい人材発掘につながる ・ 未来に向けて若い世代が望むことを掘り起こしたい ・ 若い世代が戻ってきたいまちづくりを考えたい **【反対の理由（課題）】** ・ 推進会議の目的、位置づけ、ゴールなどについてもっと知りたい ・ 地域で一緒に取り組む雰囲気が不足しているため、普段からのつながりが必要
推進会議の留意事項、条件
・ メンバー構成に、中学生・子どもを入れる ・ 中学生を交えたフォーラムの開催など、子どもの目線で将来の夢を話すことが必要

【21】打越中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 活動団体の解散やボランティア活動の参加者の減少 ・ 担い手不足のため、地域のつながりが希薄化、世代間の分断が進み、「地域力」が低下している。自発的なコミュニティづくりの難しさを感じる ・ 若い世代は地域の価値、ブランドに気づいてない。現状は参加することのデメリットしか見えていないが、メリットがあれば担い手不足の解消につながる **〈つながりづくり〉** ・ 子ども・子育て世帯と地域とのつながりがなく、子育て世帯が孤立している ・ 困っていても助けを求めない、考え方や立場の多様化、生活にゆとりがない ・ （つながる余裕がない人もいるが）多様性の中で各自の役割を考え、支えあうことが必要 ・ 地域には支援する力がある。地域に力がある人が多く、子どもの力、高齢者のスキルなどがつながると助けになる　例）子ども食堂に200人のボランティアが参加したなど ・ 各世代が集まる場所がない（場所があっても行かない）ため、交流できる仕組が必要 ・ 町会と民生委員の間など、支援者と支援が必要な人の双方に情報が届いておらず、会議の場で情報共有・つながることが必要。個人情報を含めた情報の集約を図りたい **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 子どもの居場所がないため、子どもが集まる場所、子どもに寄り添った活動が必要 **〈子ども・子育て・教育〉** ・ 子どもたちに地域への愛着がないため、子育て世代が地域と関われる取組が必要 ・ 学校が異なると子ども同士がつながらないため、学校間の連携があるとよい **〈防犯・防災〉** ・ 長沼は水害が危険であり、ハザードマップがあるが、危機感、避難場所がない ・ 安否確認はできるが、避難を助ける支援者がいない
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者の約半数が賛成だったが、反対する参加者もいた **【反対の理由（課題）】** ・ 行政との協働が必要で、行政は行政がもつネットワークを提供してほしい ・ 情報交換だけではなく、活動目的を明確にし、楽しく続けられるようにしてほしい
推進会議の留意事項、条件
・ 目的の明確化（地域カルテ等を作成する目的は？） ・ 取組テーマを絞り、知恵を出しあう　例）共通課題である担い手不足への対応 ・ メンバーとして、学生など若い世代、子どもの参加が必要。各団体からの選出は難しい ・ 参加することによるメリットを提示する

【22】七国中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ メンバーが固定化し、特定の人に負担がかかっている ・ 町会に対する負担感から加入者・役員が不足しており、町会の維持存続が難しくなっているため、町会費ゼロ、オンライン会合など、負担を軽減している **〈つながりづくり〉** ・ 自主防災会、炊き出し訓練、清掃活動、パトロールなど、新型コロナウイルスの影響で活動が停止している。自主避難が難しい高齢者、経済的に厳しい家庭など、要支援世帯等の把握が滞っている ・ イベント開催による多世代交流を通じてゆるいつながりをつくり、連携・助け合いの基盤づくりをしたい ・ 子ども、学生を巻き込む（小学校の役員主催で700～800人。小学生、卒業生、未就学児なども参加） ・ 子どもが集まれる場づくりとともに、イベント開催の負担を軽減する **〈その他〉** ・ 子育て世帯の関心、災害被害の実態など、他人事ではなく自分事として考えてもらう
推進会議で取り組みたいこと
・ 町会、学校、企業が連携する（町会・自治会単位では難しい）
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 多様な世代・団体の人に関わってほしい 例）「みなみ野シティ連絡協議会」の組織をイメージ
推進会議の留意事項、条件
・ 大学生を含む多様な世代、企業、新しく移り住んだ住民など、多様な人材の参加・運営に配慮する ・ 現在も一緒に活動しているみなみ野と連携して現状や意見を聞くなど、より広い校区で一体的な活動なども検討したほうがよい ・ 行政職員の関わり

【23】浅川中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 地域活動の引き受け手が少ない、参加することに消極的であることによって、活動の担い手が不足している ・ 活動する人の高齢化・固定化で、活動の輪が広がらない、新しいことができない ・ 若い担い手が育たない **〈つながりづくり〉** ・ 町会・自治会の加入者が減少しており、地域のつながりが薄くなり有事の対策が難しい ・ 非加入者へのフォローが必要、イベントがあれば新住民が参加しやすい ・ 同じ学校に通っていても住んでいる地区（町会・自治会）で参加できるイベントやお祭りに制限があり、子どもの視点で区分けの見直しが必要 **〈見守り・支え合い〉** ・ 外国人の親を持つ子どもへの支援の充実（関わりがないと知ることができない）
推進会議で取り組みたいこと
・ 地域全体の課題解決
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、反対する参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域全体での課題解決につながる ・ 地域内での情報共有ができる ・ 活動内容のリーフレットをつくって配る、活動のメリットを伝える **【反対の理由（課題）】** ・ 担い手不足が問題となっており、新しい会議をつくるとまた役が増えて負担増になる ・ 推進会議に移行する目的がわかりにくい
推進会議の留意事項、条件
・ バラエティに富んだメンバー構成が重要 ・ 浅川中学校区と陵南中学校区はつながりが深いため、1 つの会議で検討してはどうか

【24】陵南中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 地域活動に消極的な人が増え、担い手が減っている ・ 担い手、参加メンバーの固定化 ・ 地域を何とかしようと思う人を掘り起こしたい（特に若い世代） **〈情報発信・共有〉** ・ 地域の活動やイベント、お祭りなどが知られていないため、知ってもらう工夫が必要 ・ お祭りや伝統など、知る機会がないと関心を持てない ・ 個人情報保護への配慮から、地域に住む子ども、一人暮らしの高齢者など、声をかけたくても情報がないため、つながりをもちづらい
推進会議で取り組みたいこと
・ 前向きに夢を考える ・ 伝統などを地域で引き継ぐ、残す機会にする
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 現状では地域全体を考える場がないため、集まる機会が必要 ・ 推進会議をみんなが夢を語りまとめていく場にしたい
推進会議の留意事項、条件
・ 役員だけでなく、若い世代などフレッシュなメンバーの意見が必要

【25】由木中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ PTAの後任が見つからない（働いている保護者はできない） →教員、保護者とも忙しい。負担軽減のため、地域の人材を活用していきたい →学校関連のボランティアが集まらないため、やりがいがあることのアピールが必要 ・ 子ども会の活動の縮小、役員のなり手が少なく、行事や資源回収など負担が大きい →役員のマイナスイメージが先行しているが地域に知り合いが増える等のメリットがある →子どもも含めて住民を巻き込み、一緒に活動する仲間づくりをしたい ・ 高齢化で環境保全活動などのボランティアが減少。小学校の稲作体験、里山づくり、公園清掃、雑木林の整備など、人手が足りない **〈つながりづくり〉** ・ 学校でのつながりはあるが、地域のつながりは少ない ・ 在宅高齢者は地域のつながりをもちにくい。地域に出たがらない高齢者をいかに巻き込み、地域にどうつなげるかが課題 ・ 人（年上の方）との関わり方が上手にできない子どもが増加しており、下校時の見守りなど、子どもと高齢者のふれあいの場が必要 ・ 多世代が関われる場が必要 **〈情報発信・共有〉** ・ 若い世代の町会・自治会への加入率が低いため、地域の様子を知らない ・ 道路、川の清掃など、周知するが参加少なく、情報が一方通行で共有されない ・ 各団体の立場や考えの違いを共有、まとめる場で対話できると、持続性が高まるのではないか ・ 新しいことを進めるのは難しいが、他団体や行政の後押しで課題解決に取り組みたい **〈その他〉** ・ 住民の高齢化が進み、空き家や住んでいても荒れた家がある ・ 調整区域への変更による税金問題がある。民有地で手が出しにくいが、空き家を活用したい
推進会議で取り組みたいこと
・ さまざまな分野の話、事例を聞く ・ 学校の空き教室の活用、外国人との交流など
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 各団体が課題を共有し、連携すると課題解決につながる ・ 多様な人が参加し、話し合える場として、市と地域との情報共有を進めたい
推進会議の留意事項、条件
・ 既存団体と異なる会議体としての目的・役割・機能の整理

【26】松が谷中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ PTA役員のなり手がいないため、メンバーが毎年替わる（一方、青少年対策地区委員会はメンバーが固定化） ・ 松が谷連絡協議会のメンバーが高齢化し、若い世代を入れないと情報伝達が難しい ・ 団体間のつながり、連携が必要 **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 多文化共生の活動など、拠点となる場が必要 ・ コミュニティプレイス「まつまる」（コミュニティネットワーク協会、東京都住宅供給公社が連携）がオープンした。住民のための場所だが、時間帯、賃料などにより使いづらい。運営の仕組などが理解されていないため、住民に関心・興味を持ってもらいにくい **〈情報発信・共有〉** ・ 活動等が知られていない、必要な情報が住民に届いていない、情報が集約されていないため、情報発信や伝達が必要 ・ 広報誌を紙ではなく、PDFで配信するほか、全PTAの連絡網をLINE worksで作成しており、人の入れ替えがあっても情報が引き継がれる ・ スマホを使えない住民もいることを考慮したい
推進会議で取り組みたいこと
・ 情報のワンストップサービス化を目指し、必要な情報が集まる場、団体間で連携する場に
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留する参加者もいた **【賛成の理由（期待）】** ・ 住民と行政をつなぎ、対話する場が必要 ・ 必要な情報が手に入るように、情報が集まる場所が必要 ・ 各団体が連携し、とりまとめ役、リーダー役となる推進会議が必要 **【保留の理由（課題）】** ・ これまでにも同様の活動があり、地域カルテに該当するものもある ・ スピード感がない
推進会議の留意事項、条件
・ （PTAは任期1年で交代するため）メンバーの継続性や情報共有が必要

【27】中山中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ イベントやクラブ活動などは子どもたちに必要とされているが、運営者の負担が大きく、担い手も不足している。そのため、アイデアがあってもできないことが多い ・ 個々のイベントが知られていないため、興味を持てる伝え方を検討する ・ 国際協会では、技能実習生の相談を行っているが、話す人が足りず、支援しきれていない ・ PTAの課題として、忙しく余裕がない、活動範囲が限られる、活動資金が不足している **〈つながりづくり〉** ・ 学校問題（不登校、いじめ）に対して、世代を超えて本音を話す機会が必要 ・ 大人世代が関係性をつくることが必要 ・ 楽しいことを共有すればつながることができる。垣根を越えた動き、面白いこと、例えば、食をきっかけに集まる ・ 交流の場でどんな人がいるかを知ることで、課題解決につながる ・ ドラッグストアができたことで、行ける場所、楽しく集まる場所になった **〈その他〉** ・ 学校に民間の意見を入れる、教育の場に市民を入れる仕組として、学校参与制度を提案。開かれた学校づくり、教員の負担軽減にもつながる ・ 学校の制度や活動が知られていないため、関わりやきっかけをつくっていくことが必要
推進会議で取り組みたいこと
・ 団体単位を超えた縦横無尽な意見交換、情報交換、団体の融合 →やきいも大会、読み聞かせ大会、職場体験などを、団体や地域単位でなく、まとめて実行する
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 多くの活動があるが、互いに知らない、つながりがないため、団体を超えた会議がよい ・ 意見交換会での対話で、他団体とつながれそうだと思った ・ 現状の団体活動が定型化、固定化しており、枠を超えた取組、否定されない場が必要 ・ 推進会議によって何かが生まれ、次の世代につなぐ活動になる ・ 成果の保証なく失敗してもよいのでやってみる
推進会議の留意事項、条件
・ 楽しく、少し関心があれば参加できる場とする ・ 自由に意見交換、否定されない場とする ・ メンバーを広範囲から入れて、異なる視点を持つ人、一般住民、多世代、得意分野を活かす、キーになる人をつなげる

【28】宮上中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 若い人が転出し、高齢化している。出身者は子育て環境を望んで戻ってくるケースもある ・ 住みやすい街とするため、若い世代を引き留める方策が必要 例）子育て世代や子どもの遊び場づくり ・ 高齢者が活躍でき、その上の世代を見て、次の世代が引き継ぐサイクルをつくりたい ・ 新たなアイデアを創出する若い人の意見を取り入れる必要がある ・ 全世代での取組は難しいが、既存団体には話しやすい ・ 産業があれば若い世代が定着するため、在宅の仕事、芸術など発信の場づくりなどの働く場、能力を活かせる場づくりが必要 ・ 学校の部活顧問の担い手を先生以外にできないか **〈つながりづくり〉** ・ 新型コロナウイルスの影響で活動が中止になり、交流イベント等に継続的に取り組むことが難しい（学校施設が使えない等制度上の壁も）など、人のつながりを生むことが難しい ・ イベント後のつながりを継続させることが重要 **〈防犯・防災〉** ・ 防災協議会をマンション単位でも実施し、階ごとに状況把握する
推進会議で取り組みたいこと
・ 障害のある子どもや不登校児に対応するため、子どもに目が届く学校づくりが必要 ・ UR、都立大、企業等とのコラボ
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域の意識が高まる ・ PTAだけでなく、いろいろな団体で地域を考える会議にしたい ・ 各マンションの取組は、マンションを超えて広がらないので共有して横に広げたい
推進会議の留意事項、条件
・ メンバーは様々な団体で構成する ・ 各団体からの参加者の負担が増えることへの配慮

【29】別所中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ PTAでは、担い手がいない、毎年入れ替わりになるため、運営が困難になっている ・ 学校運営協議会や青少年対策地区委員会が高齢化し、若い世代への継承が課題 ・ 町会自治会連合会では若い世代が流出し、活動の担い手が高齢化、活動継続が課題 **〈つながりづくり〉** ・ 外国人は地域との関わりが少なく、地域活動に参加していないが、参加することが大切。やさしい日本語で伝えていく必要がある **〈防犯・防災〉** ・ 災害時は地域の助け合いが必要だが、住民に認識されていない
推進会議で取り組みたいこと
・ 子どもの問題は家族、家庭に起因することが多いため、家族まるごとの支援が必要
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 人や情報、アイデアが集まるきっかけとして活用 ・ 人が集まれば問題解決しやすくなる ・ 新旧住民の交流、若い世代との交流の場にする
推進会議の留意事項、条件
・ 他の人の意見を受け止め本音で議論する場にする ・ 女性や若い世代、新住民の方々を巻き込むことが重要だが、まずは積極的な人たちで会議を行い、輪を広げていくことが必要 ・ 参加者同士がお互いにサポートできる場にする ・ ボランティアとしての負担に配慮する

【30】上柚木中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 若い世代は共働きが増え、PTAや青少年対策地区委員会の活動に消極的で、地域に対する主体的な意識が薄い ・ 住みやすく、安全なまちづくりなど、自分事にすることが大事であり、若い世代が関わる方法を考えたい ・ 学童保育の充実、部活動指導の地域移行などを検討。シルバー人材センターの情報の活用や部活動人材登用の事例をもとに対応する ・ 子ども食堂の運営では、連携することで諸課題に対応できないか。場所の確保が必要なので（学校開放は活用できない）、URの活用などを検討。倉庫や材料の仕入れ及び運搬方法、光熱水費の捻出のため、地域の協力者を増やしたり、NPO・企業との連携や高齢者施設との連携が必要 ・ 都立大学ボランティアセンターと協働したが、継続的な各団体間の連携・調整が難しく、調整役が必要 **〈つながりづくり〉** ・ 顔の見える関係づくりが大切であり、連絡先リストの共有、人材ネットワーク、交流や発表の場等の創出などが必要 ・ 新型コロナウイルスの影響で、交流が減ってつながりが一層希薄化している **〈見守り・支え合い〉** ・ 保健福祉センターを充実させるため、高齢者サロン、学生との連携が重要となる **〈その他〉** ・ 八王子の中心地と差別化する ・ 南大沢＝アウトレットのイメージがあり、アウトレットの衰退、撤退を食い止めるため、南町田の事例を参考に、場所の活用を考える ・ スマートシティや企業、鉄道会社、行政と連携した取組が必要 ・ 歩車分離は魅力だが、高齢者の移動が課題となるため、鉄道会社との連携が必要
推進会議で取り組みたいこと
・ 地域カルテを子どもたちの地域探検の教材に活用
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった
推進会議の留意事項、条件
・ メンバー構成として、学生、大学の教員、若い世代（小さい子どもがいる）、企業（鉄道、商業）が必要 ・ （子どもを預けて参加しやすくするため）ベビーシッター、保育所の確保 ・ 推進会議の設置に当たり、その母体をどの団体にするのかを十分に検討する必要がある ・ 周辺の中学校区と合同で、エリアを広げた議論も必要ではないか

【31】松木中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 高齢世帯や一人暮らし世帯が町会を退会し、町会加入率が低下している。新規加入者は1～2年で退会、子どもが大きくなると退会している ・ 町会加入の方法についての転入時の案内は、転入時に戸建て世帯のみで行っているため、マンション居住者は非加入者が多い ・ 町会の存在意義が問われるなかで、つながりができるなどのメリットを説明しにくい ・ 新しく入ってきた若い世代との交流、出会いがなく、地域のつながりが見えない ・ 高齢化で町会役員のなり手がいない **〈見守り・支え合い〉** ・ 子どもを接点に、子育て世代とのつながりづくりが必要 ・ 登下校時の見守り活動を行う人材が不足しており、学校保護者からボランティアを募集するとよいのでは。子育て世代が町会とつながることで双方の課題解決につながる
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 活動団体間をつなぐコーディネートを担う人材が必要ではないか ・ 情報の発信不足を補うため、団体間で連携して助け合いたい ・ 地域カルテをつくるプロセスで、新たなつながりができるのではないか ・ PTAは任期があるが、「地域をよくしたい」という思いで主体的に関わってほしい
推進会議の留意事項、条件
・ 声を挙げられない人に配慮したメンバー構成（多様な意見を集約できるように） ・ 学生、未就学児がいる家庭など、2040年に社会を担う世代が参加する

【32】鑓水中学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 青少年対策地区委員会、民生児童委員、高齢者サロンでは活動を担うメンバーが減少し、固定化されている ・ 関係者内での人材の掘り起こしだけでなく、企画をきっかけに人を集めるなどといった公募も必要 **〈つながりづくり〉** ・ つながりを求めている人はいるので、企画や活動を周知し、来たいと思う人に来てもらう ・ 多くの目で子どもたちを見守るため、地域で子育てをすることが大切であり、地域と学校との連携の可能性を探りたい **〈居場所・拠点づくり〉** ・ 高齢者サロンなどに外出が難しい人に来てもらう工夫、アイデアが必要 ・ 音楽をきっかけに大学生を募集してはどうか ・ 高齢者自身が主役（世話をする側）になる、大人も子どもも働く場にする（ポイント制など）子どもも一緒にいる場所に。そのための子ども同士のコミュニティを形成していく ・ 安心して集まれる場づくりが重要であり、安心して集まれるよう、ホームページなどで活動内容を周知することが必要
推進会議で取り組みたいこと
・ 地域でできることを話しあう場としたい ・ みんなでイベントを持ち寄る、既存の活動の周知・充実を図っていく ・ 地域がつながる多世代の交流イベントの実施 ・ 消えてしまったお祭りの復活、防災訓練を全地域に展開、クリーン活動など独自の取組を、商業施設やシニア団体と連携して実施
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が保留だった **【保留の理由（課題）】** ・ 参加者が少なく、活動分野に偏りがあるため、地域全体の考えを網羅していない
推進会議の留意事項、条件
・ 各団体の代表者などによる参加者の確保と本当にやりたい人の募集（住民を集める仕組） ・ 学校・鑓水町会との連携

【33】いずみの森義務教育学校区

地域活動の課題、地域全体で共有したいこと
〈地域人材・担い手の育成〉 ・ 役員のなり手不足、同じ人に負担が集中するため、「この指とまれ」で人材を確保していく（参加を通じた気づきがある） ・ オンライン、メールで打ち合わせ、お知らせ回覧をメールにするなどで負担を軽減 ・ 新しいつながりを生んでいくことが必要 ・ 新たな人材の掘り起こしやボランティアの育成が必要ではないか ・ 楽しいと人が集まる。みんなが集まれる場づくりが必要　例）中学校での夏祭りなど ・ 町会単位を超えた一体的な取組で、団体間のつながりをつくることが大切。テレワークの増加で働く世代の住民が地域にいる ・ PTA本部の負担が集中するため、負担を軽減し、卒業しても継続できるような仕組とする。従来の枠組みの見直しや人材バンク的な取組が必要ではないか ・ 参加の敷居を低く、つながりを意識した団体「おやじの会」（100名）を運営している **〈つながりづくり〉** ・ 町会の存続危機、世帯の縮小などにより、シニアクラブ、子ども会が解散した ・ 多世代の居場所づくりが必要（誰でも食堂など）だが、縦割り行政が障壁となっている ・ 同じ目的で楽しむ小さい集まりを強化し、横につながるサークルを作っていく必要がある ・ 学校を地域の防災拠点にしたい。住民協議会、PTA、おやじの会、保護司、民生委員等と学校運営協議会が連携した初の防災訓練に1，100名が参加した。学校は、卒業生などみんなが集まる場になる **〈情報発信・共有〉** ・ 高齢者世代の中にも情報格差などがあり、参加が難しい住民もいるため、取り残さない配慮が必要となる
推進会議で取り組みたいこと
・ 町会の枠組みを超えた中学校区単位で集まる「サマーフェスタ」の開催
推進会議への取組に対する意向と理由
推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった **【賛成の理由（期待）】** ・ 地域のプラットフォームとして、縦割りでなく横の地域のつながりをつくっていきたい
推進会議の留意事項、条件
・ 行政の協力 ・ PTAの取組をヒントに、「この指とまれ方式」（やりたい人が挙手）を導入してはどうか ・ PTA役員が交代しても議論が引き継がれるようにする

4 資料編　中学校区別模造紙のまとめ

各模造紙の右下に記載している内容は、各中学校区のテーブルの様子や出された主な意見を事務局で整理したものになります。

【掲載順】

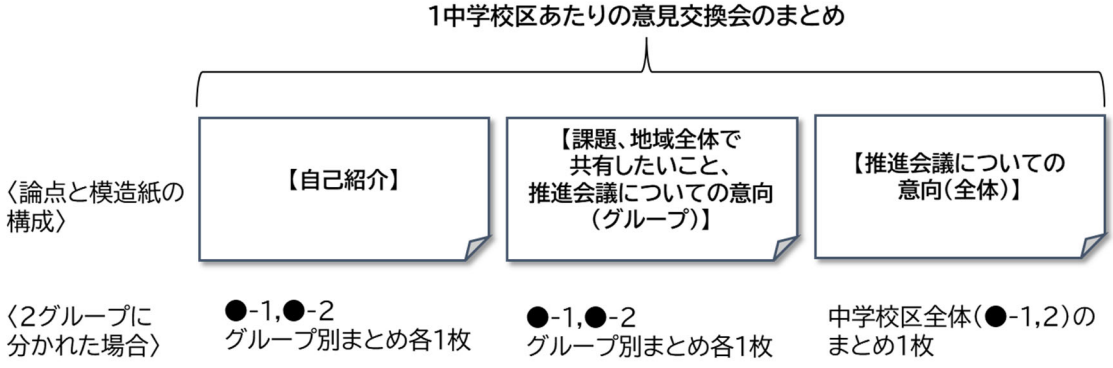
No	校区	ページ
01	第一中学校区	45
02	第二中学校区	47
03	第四中学校区	49
04	第五中学校区	52
05	第六中学校区	54
06	第七中学校区	56
07	ひよどり山中学校区	58
08	甲ノ原中学校区	60
09	石川中学校区	64
10	横山中学校区	66
11	館中学校区	68
12	椚田中学校区	70
13	元八王子中学校区	73
14	四谷中学校区	75
15	横川中学校区	77
16	城山中学校区	80
17	恩方中学校区	83

No	校区	ページ
18	楢原中学校区	86
19	加住中学校区	89
20	由井中学校区	93
21	打越中学校区	95
22	七国中学校区	97
23	浅川中学校区	99
24	陵南中学校区	102
25	由木中学校区	104
26	松が谷中学校区	107
27	中山中学校区	109
28	宮上中学校区	111
29	別所中学校区	113
30	上柚木中学校区	115
31	松木中学校区	117
32	鑓水中学校区	119
33	いずみの森義務教育学校区	121

【掲載の構成】

3つの論点ごとに1枚ずつで構成しています。

ただし、人数が多く2グループに分けた中学校区は、グループごとに意見交換を行い、最後に2グループあわせて推進会議の設置に対する意向を確認し、とりまとめています。



■第一中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 住民協 → 市民センターまつり（中止）／地域の行事／大和田4丁目新和会
- 学運協 → PTA→学校サポートメンバー／保護司／NPO理事 子ども食堂／大人の問題が子どもに影響 → 大人が元気になる必要ある／手仕事の大切さ伝えたい
- 青少対 → 放課後子ども教室 小中学生対象／コロナ禍で活動休止が続く／学習スペース 居場所づくり／クリーン活動で地域と連携
- 公募 → 広報から情報を得た／大和田在住 第一中出身／子ども会会長だった
- 市内企業に勤務 → 八王子市と連携協定 → 社会課題の解決を目指している
- DXへのシフト → 介護現場のICT化促進 → グループホームでの実証実験
- 教育委員会との連携 → 放課後の充実 陸上の授業

●住民協議会、学校運営協議会、青少年対策地区委員会の参加者のほか、広報を見て応募した方がいた。

●小・中学生を対象とした活動や大人が子どもに与える影響など、子どもを中心とした話題が多く出された。

●市内企業と八王子市との連携協定の話題から、社会課題の解決、DX・ICT化の促進といった地域団体だけでは語られにくい新たな視点からの意見もあった。

■第一中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

課題

- コロナの影響：活動できずに担当が代わり再開できない → 新たな動きにつながる可能性もある
- 学校・放課後の生活：マスクありきの学校生活・黙食／学校の施設を使えない／学校の部活動が成り立たない／他校との部活動の合同実施／子ども会の減少／習い事で忙しい
- 人材不足：少子高齢化／会議に出てくる人が同じ／高齢者による価値観の押し付け
- 町会：町会に加入するメリットが分からない → 地域の防犯人脈づくり
- 市民センター：市民センターの老朽化／パソコンルームがない

新しい動き

- コロナでも活動が再開している／修学旅行 合唱コンクール／放課後子ども教室、校庭開放
- 月1回、包括でスマホ教室を開催／社協による防災の取組

必要なこと 今後の可能性

- 様々な体験を通して学ぶことが成長に不可欠
- 子どもとシニアの交流の場／子ども世代が高齢者に教える／高齢者は手仕事・昔の知恵を教える／大学生に教えて欲しい／デジタル社会での学び・暮らし
- 中間の現役世代（40～60代）が大事 → 各世代をつなぐ役割を果たす
- 楽しくできることを大人が示す／中にいる人が声を出すしかない
- 交流が大事／若い世代や多様性の理解
- 協力し合える体制づくり

●新型コロナウイルスの影響による課題として、地域活動の継承や学校生活の制限などが出たが、活動の再開や地域防災に関する新たな動きがあることが共有された。

●大和田市民センターは市内で最初に建設されており、老朽化が課題との意見があった。

●子どもの成長における体験の重要性やデジタル化社会への対応、世代間の交流の必要性があげられた。また、各世代がそれぞれの役割を果たし、協力し合える体制づくりについて話された。

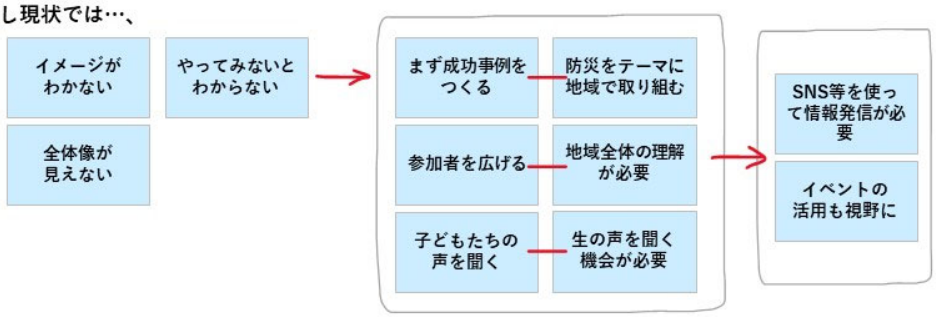
■第一中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 全員（4名）

ただし現状では…、



●推進会議設置について、参加者全員が賛成だった。ただし、推進会議のイメージや全体像が見えないという意見があった。

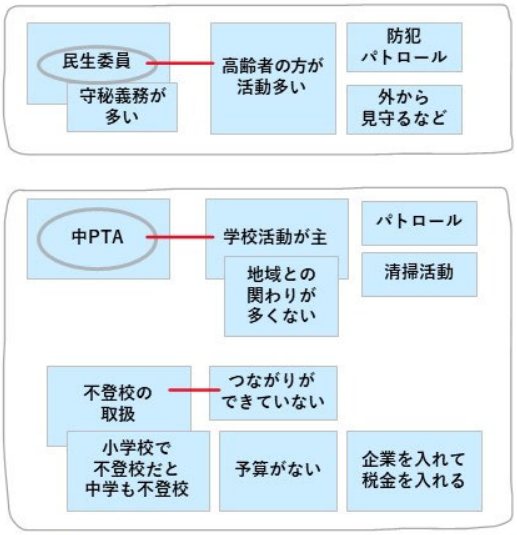
●今回は参加者が少なかったこともあり、参加者を広げる必要性や、未来を語るのであれば子どもの参加が必要という意見が出た。

●例えば「防災」をテーマに地域全体で取り組む、SNSやイベントを活用するなど、具体的な活動イメージに関するアイデアも出された。

■第二中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会





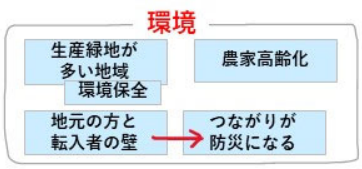
●複数の団体・活動を兼務されている方がほとんどで、活動されている分野も多岐にわたっていた。

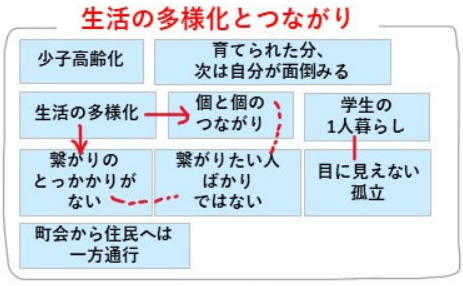
●情報共有・質問の時間では、フリースクールの情報発信についての質問の他に、不登校の児童・生徒への支援について意見交換が行われた。

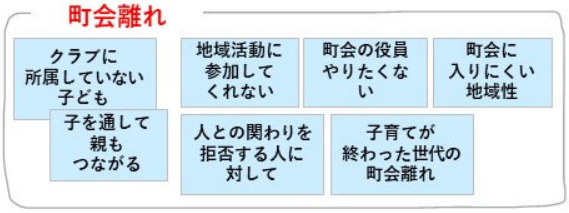
■第二中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

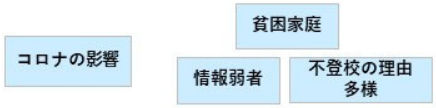
令和4年度 地域づくり意見交換会











●課題としては、住民が多く住んでいるにもかかわらず、コミュニティの場でもある公園がないことについて、意見が交わされた。

●ハード整備に関する区画整理や狭隘道路等に関する意見が挙がっていた。

●不登校や貧困家庭についての課題に加え、生活の多様化に伴い、繋がりの希薄化が課題として考えられるが、一方で繋がりたくない人にも考慮する必要があることについて意見が出ていた。

■第二中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 5名　　保留 → 2名

地域づくり推進会議

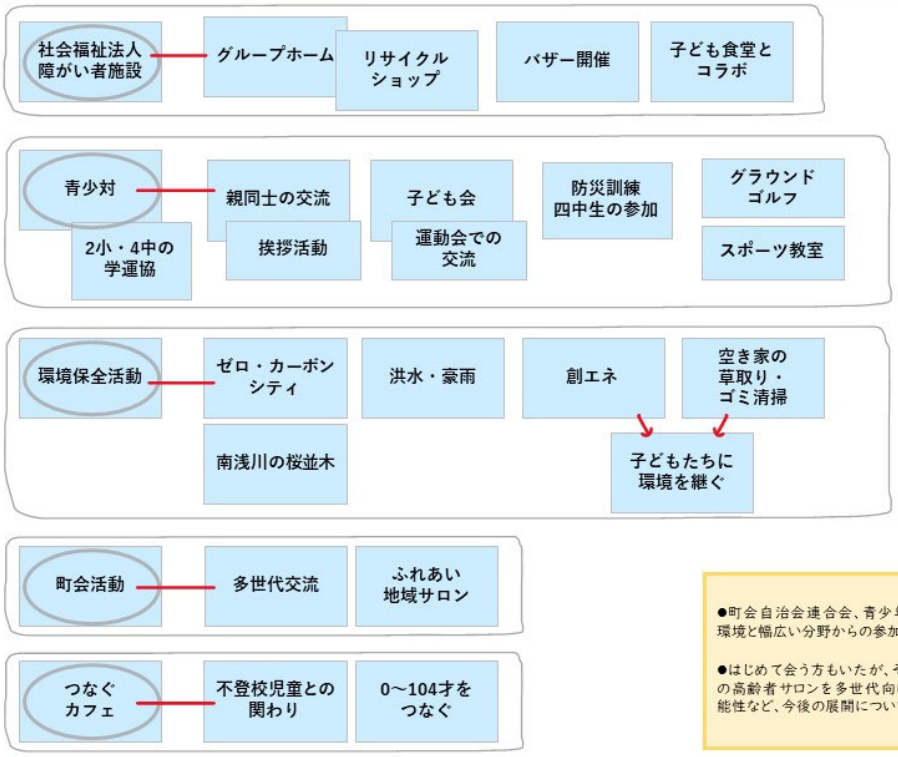
市に予算組んでもらえる？

●推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●保留の理由として、推進会議体を立ち上げることについて、なぜ立ち上げるのか、何を検討していくのか、メンバー構成はどうなるのかなど、疑問点が多いことが挙げられた。

■第四中学校区（A-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

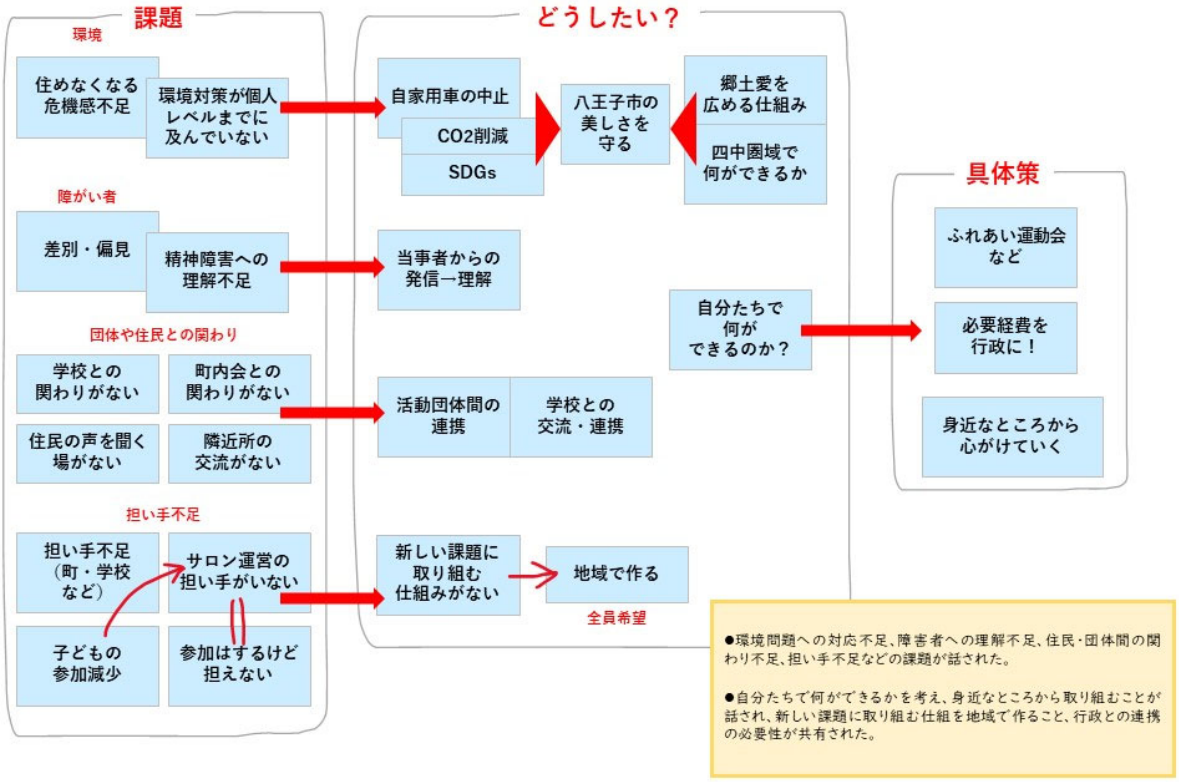


●町会自治会連合会、青少年対策地区委員会のほか、NPO、福祉、環境と幅広い分野からの参加があった。

●はじめて会う方もいたが、それぞれの活動内容を共有した他、町会の高齢者サロンを多世代向けに実施したり、通所施設との連携の可能性など、今後の展開についても話された。

■第四中学校区（A-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

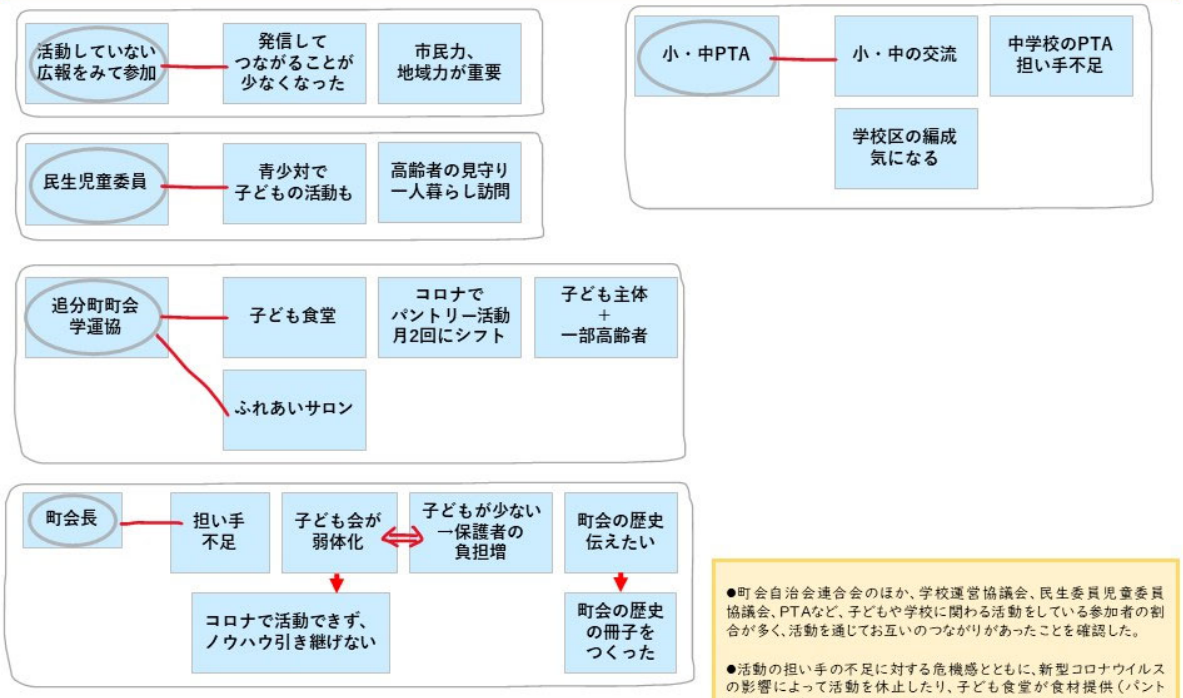


●環境問題への対応不足、障害者への理解不足、住民・団体間の関わり不足、担い手不足などの課題が話された。

●自分たちで何ができるかを考え、身近なところから取り組むことが話され、新しい課題に取り組む仕組を地域で作ること、行政との連携の必要性が共有された。

■第四中学校区（A-2）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

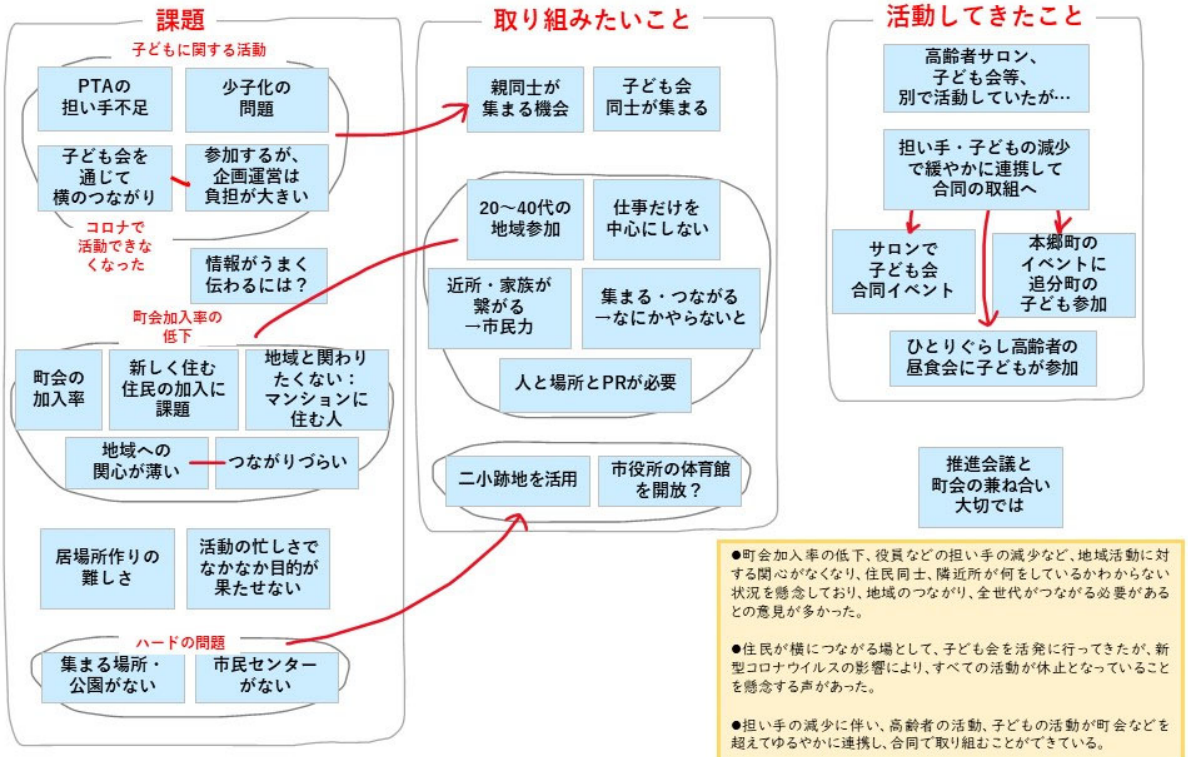


●町会自治会連合会のほか、学校運営協議会、民生委員児童委員協議会、PTAなど、子どもや学校に関わる活動をしている参加者の割合が多く、活動を通じてお互いのつながりがあったことを確認した。

●活動の担い手の不足に対する危機感とともに、新型コロナウイルスの影響によって活動を休止したり、子ども食堂が食材提供（パントリー）に変わって本来のねらいと異なる活動になっている状況などを共有した。

■第四中学校区（A-2）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●町会加入率の低下、役員などの担い手の減少など、地域活動に対する関心がなくなり、住民同士、隣近所が何をしているかわからない状況を懸念しており、地域のつながり、全世代がつながる必要があるとの意見が多かった。

●住民が横につながる場として、子ども会を活発に行ってきたが、新型コロナウイルスの影響により、すべての活動が休止となっていることを懸念する声があった。

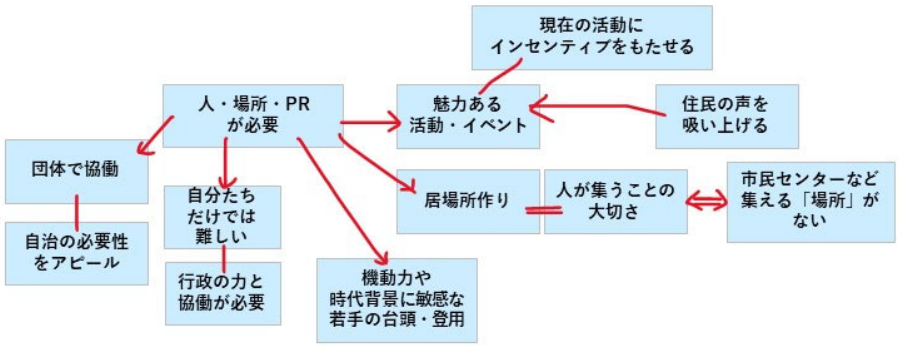
●担い手の減少に伴い、高齢者の活動、子どもの活動が町会などを超えてゆるやかに連携し、合同で取り組むことができている。

■第四中学校区（A－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 全員（10名）　ただし… 自治会との調整をしっかりやること



●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●ただし、町会との調整が必要との意見があった。

●集まる場所・居場所が必要、行政との協働や若い人の参加が必要、地域の人たちが集まれる魅力あるイベントをやりたい、などの意見があった。

■第五中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 青少対
  - NPO明神学童育成の会
  - 学運協 町会活動
  - 第五中運営協議会
  - 市文化連盟理事
  - お囃子連
  - コロナで活動できず
  - 中学生の発表の場が無く残念
  - 今年度から少しずつ再開 クリーン活動、ウォークラリー等
- 環境
  - 地球温暖化防止活動推進員
  - 環境市民会議
  - 災害ボランティアリーダー
  - 町会活動
  - マンション理事
  - 住民との付き合い薄い
  - 子どもの川の学習支援
  - 百草園歴史調査
- 中PTA
  - 教育活動のサポート
  - 学校活動 コロナの影響
  - PTA活動内容の見直し
  - 担い手がいない
  - 保護者の知見を上げる
  - 高校見学会
  - 地域との連携が足りない
  - 効率化 デジタル化
- 福祉ボランティア
  - 高齢者サロン あったかサロン
  - 若い世代の参加もOK
  - 手芸サークル
  - 町会 リサイクル委員
  - コロナでうつ・体調不良の方が増えた
  - サロンで顔見知りができれば
- 学運協
  - 放課後子ども教室
  - 授業になじめない子の見守り
  - 子ども会が無くなった
  - なかよし公園 花植え活動
- 青年会議所
  - 長房学校運営協議会
  - 地域・学校の役割を担うとコミュニケーションできる
  - コミュニケーションが大切
  - 町会長7年一相談役
  - レクリエーション協会リーダー育成
  - 子どもが川に親しめるように

●青少年対策地区委員会、PTA、学校運営協議会といった学校・教育関係、高齢者福祉や環境・防災分野で活動する方が参加した。

●子ども会が無くなったこと、新型コロナウイルスの影響により中学生の発表の場が無くなったこと、子どもの学習支援や自然と親しむことなど、子どもに関する話題が多く出された。

■第五中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

郷土愛不足
- 町会に参加しない親世代 一顔の見えない地域
- 地域への愛着不足
- 町会の活動がわからない

担い手不足
- どの会議も同じ人
- 町会に属さない
- 参加者が減少
- 活動が衰退
- PTA役員のなり手が少ない

高齢化
- 現役時代の肩書が邪魔
- プライドが高く人の話を聞かない
- まとまりが崩れる

地域性
- 同じ中学校区でも地域性・空気感が違う
- 自由学区の仕組みが課題解決の妨げに
- 公園がない
- 多世代が自然と集まれる所

達成感不足
- 作業量が多く負担が大きい
- 心のインセンティブ不足
- 楽しみがないと続かない

学校・子ども
- 地域、学校に対する親の無関心
- 自分だけ良ければいい保護者
- 地域のつながりなし
- 親の無関心
- 学校に地域は協力するが、肝心の親が…
- 子供と先生の関係がわからない

個人情報の壁
- 過度な個人情報保護
- 問題が起きた時に対処が困難

核家族化の影響
- 当たり前のことができない、学習支援が必要な子どもが増えた

活動の制限 つながりの希薄化
- コロナで学校に通うことも制限
- コロナでサロン活動ができない
- 高齢者への予算が少ない
- 世代間交流なし
- 楽しみ作りも限界
- 親が学校に来る機会も奪われている
- 学校（先生）との交流が難しくなった
- 余計な警戒
- コミュニケーション不足
- つながりの希薄化
- 昔からのなじみの関係が消滅
- 顔が見えないことが色々なことに悪影響

つながりをつくる
- 人のつながりが解決につながる
- 子どもの発表会に親を呼ぶ
- ターゲットを絞らない
- 多世代交流
- 話し合いの機会
- 若い世代が興味を持てる活動を！

アピールする
- やってみると楽しい
- 健康になれる（サロン）

●担い手・郷土愛不足、親世代の学校・地域への無関心、新型コロナウイルスの影響、高齢者支援の予算不足などの課題が出された。

●地域内のつながりをつくること、若い世代が興味を持てる活動やそれをアピールすることの重要性が話された。

■第五中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 5名　　保留 → 1名

総花的な議論で終わってはダメ

推進会議＝つながる場

- まずやってみてはどうか
- 地域の横のつながりをつくる機会が必要
- 推進会議には分科会のような構成が必要
  - テーマを絞った具体的な取組
- 子どもも参加する会議にする
  - 将来を語るには子どもの目線も必要

→ 多世代で地域の魅力探しをするワークショップ → マップづくり

●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●保留だった方からは、総花的ではなく、早く具体的な議論・取組に入るべき、という意見だった。

●子どもが推進会議に参加する必要性が話され、多世代で地域の魅力探しをするワークショップを開催し、それを地域資源マップにするアイデアが出された。

■第六中学校区（B）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 町自連
  - 町会自治会連合会副会長
  - ゴミ減量 川の清掃
  - 健康作り協議会
  - 80-50の問題支援
  - 八王子祭り
  - 食育フェス
- 小PTA
  - PTA会長
  - 現役で働いている
  - 八王子30年在住
- 環境
  - 温暖化防止
  - 環境ボランティア
  - 環境保全労働
  - イベント等後援
- 住民協
  - 幅広いエリアを担当
  - シニアクラブ副会長
  - 芸能大会・カラオケ大会 実施
  - 多世代との交流
- 学運協
  - 六中の学運協所属
  - 主任児童員
  - 子家センと連携している
  - 子どもと家庭のフォロー
  - 子どもの支援・見守り全般をしている
  - 八王子祭り実行委員
- 青少対
  - 生まれも育ちも八王子
  - 学校中心に子どもたちの支援
  - 保護司
  - 3小6中PTA会長をしていた
  - PTA・学運協・町会理事を経験している
  - 中町在住一町会心配
  - 住民が少なく、子どもがいないのが悩み
- 障害
  - 知的障害の通所施設
  - ふれあいお助け隊（ふれあいネットワーク）
  - デジタル推進担当（今年から）
  - 誰もが住みやすい地域づくりを目指す
- 障害
  - 生活支援員
  - 精神障害の方の支援
  - 引きこもりの方の支援している
  - 多彩なプログラムを実施
  - 利用者のニーズに合ったプログラム提案
  - 八王子はやわらかい街で好き

●町会自治会連合会、民生委員児童委員協議会、青少年対策地区委員会、PTA、学校運営協議会といった地域に根付いた活動をする参加者の他、障害者支援や環境活動などにあたる参加者が複数名いた。

●参加者の平均年齢層は高く、現役世代が少ないため、参加者からは、情報に偏りがあるのではないかという意見があった。

■第六中学校区（B）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

少子高齢化・子どもに関すること

- PTAとしての活動減
  - 少子高齢化
  - 保護者減少
- PTAと教員の活動時間が合わない
  - 協働世代が多く、学校との関わりが薄い
- 少子高齢化が課題
  - もっと子供を増やす
  - 保護者も少ない ← 単身者が多い
- 問題を抱える子ども家庭が増加
  - 母子家庭の支援が必要
    - 子どもだけ土日休み一安心して過ごしにくい
    - 子どもたちが日中いる場所がない
    - ↔ 子ども食堂もあるがみんなが利用できてない

環境問題への意識

- 環境問題を自分のことと思っていない（未来のため）
  - 市民に環境問題が浸透しない
    - 市民に自分事だと気づかせて改善に繋げたい

街の活気・交流

- 街に活気がない
  - 活気を上げるために良い感じのお店がない
    - 情報発信の仕方が課題
    - インフルエンサーが必要
- 催し物への参加が少ない → 人と人とのふれあい・助け合いのできる場が必要

障がい者問題

- 交通の便が悪い
  - 障がいのある方が無料でバスに乗れない
  - 障がいのある方への補償が不充分
- 障がい者問題
  - 地域に理解を広げる

貧困で苦しんでいる人を街でサポートしていきたい

見守り活動

- 困っている人をタイムリーに把握できない
- みんなの目で病気や事故を未然に防ぐシステムがない
- 見守りを増やすためにサークルをつくった
  - 地域での見守り活動
  - 問題に対していかに早く対応するか（発見）
- 夜は危ない
  - 治安が悪いわけではないが…

●環境問題や少子高齢化、商店街の衰退など比較的大きな視点からの意見が話された。

●地域視点では、障がい者や若者の居場所が無いこと、客引きがいて、子どもが安心できるような環境が無いこと、8050問題などを抱える家庭が顕在化されないことなど、「少数の生きづらさ」、「人とひとの関わりの薄さ」といった意見があった。

●活気があることを、商店やデパートなどの商業面からとらえる意見と、必ずしも経済的なことだけではないとの意見があった。

●町会がマンションデベロッパーと協定を結び、住人の町会参加やマンションの家賃にお祭りを支える資金負担を入れていることなど、地域活動の関わり方の工夫について共有された。

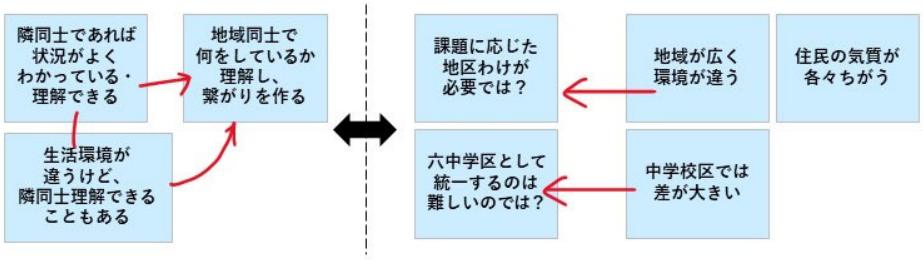
■第六中学校区（B）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 5名　　保留 → 3名

- イメージが湧かない
- もっと意見の吸い上げを



- 空き マンション・アパートの活用
- 多世代の方に参加してもらい話し合いがしたい

●推進会議設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●保留の方からは推進会議のイメージが分からないとの意見があった。

●意見交換会の参加者が偏っており、もっと広範に聞くべき、第六中学校区は広く、中学校区内でも環境や課題が多様であるため、1つの単位にすることが難しいとの意見があった。一方で、隣接しているからこそわかること、助け合えることもある、との意見も聞かれた。

●自分の地域に目は向けるものの、隣接地域などは別との意見もあり、課題別に地域割りをする必要もあるという声も聞かれた。

■第七中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 七中PTA会長
- 青少年指導員
- 学校と地域のつながりを深めたい
- 青年会議所
- 青少年育成
- キャリア教育
- 南大沢でこども屋台選手権
- 環境市民会議
- 東京都サポートレンジャー
- ホタルの再生
- 小学校1・4・5年生への自然教育
- 町会長10年目
- 担い手不足（町会役員等）
- 見守り活動
- あいさつ運動
- 防犯・防災に力を入れている
- 公募で参加
- 八王子歴26年
- 会社員で都内へ通勤
- 子どもが大きくなり学校・地域との関わり無い
- 地域の皆さんの活動すばらしい
- 公募で参加
- 地域の活動の情報が見えてないところがある
- 民生委員
- 児童委員
- 子どもから大人まで町のコンシェルジュ
- 高齢者向けサロン活動
- 民生委員は町会に1人、町会長から任命
- 市民と市役所のつなぎ役
- あいさつ運動
- クリーン大作戦
- 音楽会
- 青少対・青少年育成指導員
- 子どもたちの健全育成
- 各団体の活動範囲が重なっていない
- 民生委員
- 児童委員
- ふれあいサロン
- 1人暮らしの高齢者調査
- 町会に入っていなくとも支援している
- 不登校の子ども支援
- 2小と5小であいさつ運動
- 10数名で活動

●参加者の半数以上が令和3年度のワークショップから継続して参加。子どもを対象とした活動が多く紹介され、子どもへのあいさつ運動は複数の団体で行われていた。

●地域で活動する団体の周知、情報へのアクセスの仕方について質問があり、民生委員を例にしくみや活動の周知について意見交換が行われた。また、分野により対象とする地域の範囲が違うため、活動しづらいとの指摘があった。

■第七中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

PTAの課題

- 参加が当たり前ではなくなっている
- 学校行事に地域の関わりがうすい
- 役員の不足→活動を限定（月1回）
- 挨拶が不審者メールになって回ってくる
- やってよかったとなるが信じてもらえない
- 中年世代が自分の子以外に声をかけづらい
- 補欠をたくさんつくって対応
- 顔の見える関係が大事

町会・自治会の課題

- 役員だけでなく区長のなり手も確保が難しい
- となり近所の家族構成がわからない
- 町会に入るメリットは？と言われる
- 賃貸マンションには防災訓練も断られる

担い手不足・情報共有

- 決まった人に役割が重複し負担
- 情報がないと助けに行けない
- 地域防犯リーダーの活動に来る人が少ない
- どうやったら個人情報を共有できる？
- 範囲を広げまとめて見える化
- 警察も民生委員を知らない
- 地域での情報共有（コミュニティカレンダー）
- 民生委員をもっとPR！

地域・多世代のつながり

- 地域で協力して子どもを守る
- いろんな繋がりを少しずつ組み合わせる
- 地域の人が学校に入れるコミュニティがあれば
- 高齢者の力を借りて子どもを見守り
- 老人・子どもの別なく多世代が関わりあえる場

自由に集える場

- 子どもたちが自由に集える広場ほしい
- コロナで高齢者が家に閉じこもり認知症が悪化
- 町なかには特に場所がない
- 高齢者が自由に集える場所がほしい
- 誰でもOKの場があったらいいな
- サロンにもっと人が来てほしい

若者への教育

- 教職員の負担が増えている
- キャリア教育→地域教育に関心
- 個人主義＝メリットがないとやらない
- 子どもや20代は実際どう思ってる？

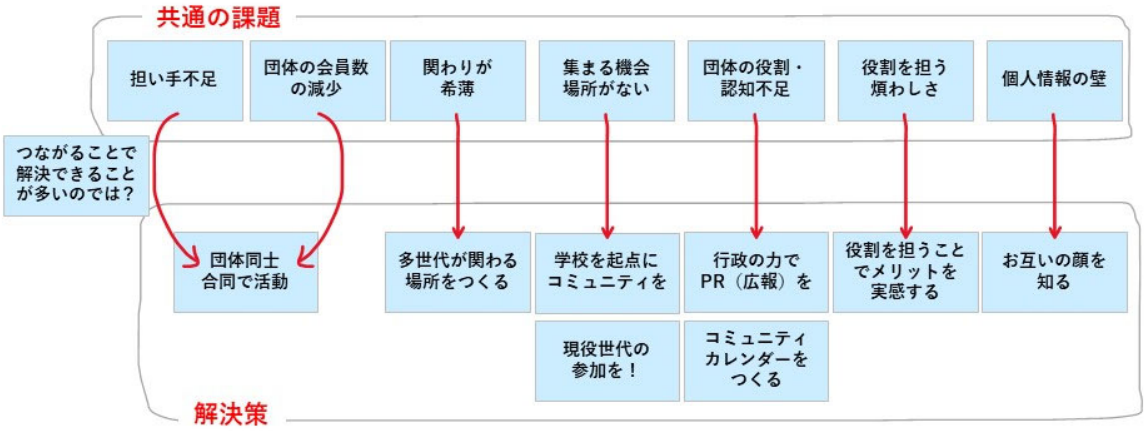
- 子どもの生の声を推進会議に取り入れたら？
- 子ども会議で子どもの考えを聞けば？
- 川の学習を地域で編成しては？
- Webサイトで意見を出しあえば？

●PTA、町会自治会連合会などは、共通して担い手不足が課題となっている。

●高齢者、子どもが自由に集える場所が不足しているとの課題があり、地域内で多世代でつながることが重要との意見があった。

■第七中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



推進会議設置について

賛成 → 全員（8名）

※ただし、進める際には慎重にした方がよいとの意見もあった

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●現役世代など多世代が関わり、長期的な視点で地域を考える場であるため、特に子どもたちの意見を取り入れるべきという意見が多く挙げられた。

■ひよどり山中学校区(C)【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 町自連
  - 富士見町自治会
  - 前職コミュニティーづくり
  - 八王子市の中に団体が多いと感じる
- 民児協
  - 民生委員 11年
  - どんな活動しているのか知らなかった
  - 高齢者にやさしい社会（特にひとり暮らし）
  - これからは健康な方がどうやって社会とつながるか
  - 民生委員の定年はいるのか？
  - 75歳以上の高齢者の家庭訪問
- 小PTA
  - 暁町子ども会
  - 第五小学校PTA会長をしていた
  - 給食センターの審査員
- 住民協
  - 子ども会
  - PTA
- 環境
  - 環境市民会議のリーダー養成講座受講（町内会の紹介）
  - 29名いて市内の河川の水質を見ている
  - 大和田地区は下水道が設置されている
  - ホタルを育てる会 ―6月にホタルを見る会を開催
  - ガサガサ会 一鮎がたくさんとれた（6月頃開催）
  - 奥の方は浄化槽
  - 浄化槽がない地区もあり、その辺は川の水質が汚れている

●町会自治会連合会、住民協議会、民生委員児童委員協議会、環境市民会議、PTAから参加していた。

●質疑応答の際には、主に環境市民会議の方の活動について、他の参加者の関心が高い様子が伺えた。

■ひよどり山中学校区(C)【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

活動上の課題

参加者・なり手
- 町会の参加者少ない
- 役員のなり手が減少している
- 同好会で人集めをはじめている
- 行事の参加者にかたよりがある
- 中間層や子どもが減っている
- 1人1人がたくさんの役を担っている
- 子ども会PTA役員のなり手不足
- 町会でHPを作ったが、まだ活用できていない

団体の位置づけ
- 似たようなグループがたくさんある
- 似たような名前や活動の組織や団体が増えている
- はちまるサポートなどの位置づけがよくわからない

子育てへの支援
- 民生委員活動はよくやっている
- 高齢者にやさしいがここまでで良い
- これ以上やるなら子育てに力を入れてほしい
- 民生委員の仕事の8割が対高齢者になっている

コロナ後の活動再開に向けて
- コロナで活動する場所がない
- ホームグラウンドでの活動も制限が続いている
- ルールでしばられている
- 公園施設の使用ルールについて
- 団体や利用目的を考慮してほしい
- 組織の活動を支える市全体としてのビジョンが必要

その他課題
- 森林地帯を保存する必要
- 森林地帯を保存してもらいたい
- 落葉樹を植えてほしい
- 交通が弱み
- 移動販売が来てもそこまで行けない
- 様々な状況の子どもがいる
- 闇サイトの監視をする必要（青少年のため）

今後の方向性
- これからは健康な高齢者にどう活動してもらうか
- 課題の整理の仕方
- 若い世代にかける予算が重要
- 要望の受皿が必要

地域の強み
- 日本ほどいい国はない（海外に行った経験から）
- 八王子は自然も良く利便性も良い

子どもの安全
- 子どもが参加する場にはPTA・先生も一緒に見てくれる
- 地域の人も参加してくる

- コロナで在宅の方が増えている
- 人材が増えている

自然
- 八王子にしかない自然を生かした活動・世代交流
- 里山（自然体験）
  - ・樹拓
  - ・川散策
  - ・芋ほり
- 自然にふれると子どもがイキイキする

環境活動
- 環境活動に参加してもらうため、紙芝居形式で説明すると子どもに伝わる
- 環境市民会議に参加してもらうと地域にも伝わる

●活動上の課題として、八王子市内には類似した活動をしている団体が複数ある一方で、各団体の活動などを共有する機会がないこと、また、活動の担い手不足や、一人が複数の活動の担い手になっているといった点が挙げられた。また、高齢者に向けた支援は手厚い一方で、子どもや若者向けの支援が不足しているのではないか、と言った意見が出された。

●一部の参加者の海外経験等から、日本や八王子市の自然や生活環境のすばらしさ、暮らしやすさといった強みについての意見交換がされていた。

●ファシリテーターからの投げかけを待つことなく、参加者同士で意見を交わすなど、なごやかに交流する様子がみられた。

■ひよどり山中学校区(C)【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置は必要

- 市も含めた推進会議ができると良い（役割を担えるなら）
- 今の状況を変えていくためには必要なのでは？（役割を担えるのであれば…）
- やってみて行政に反映させてもらいたい
- それぞれの専門職団体がそれぞれ活動している → まとめるプラットフォームが必要
- 団体が何個あるのか？ → 集まる場が必要

推進会議設置のあり方

賛成 → 全員（5名）

- 推進員を集める前にどんな団体、どの範囲かを決める必要がある
  - 推進会議に中学校区が合っているのか？
    - 中学校区が適したエリアなのかという問題もある
  - すでにある団体の意見を吸い上げ、別の団体としての位置づけ必要
- 推進会議であらゆる課題に対応するためあらゆる人に参加してもらう必要 → 中学校区の中に住んでいる人の意見でないと意味がない
- 推進会議（プラットフォーム）としての受け皿のあり方が重要 → 推進会議にどう人材を揃えるか
- すでにある組織と並列でない組織にする必要がある

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●一方で、推進会議が既存の団体と並列的な組織にならないように、会議の立ち上げに向けて地域の活動団体の代表者等が話し合いを重ね、会議の役割や機能・目的を明確にする必要があることが指摘された。

●一部の参加者からは、地域づくりを進める上で中学校区が適したエリアなのか、疑問視する意見も出された。

■甲ノ原中学校区(B-1)【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 小PTA
  - 小学校に関すること
  - 清水小を核とした地域づくり
  - 地域とともにある小学校運営
    ・放課後デイ
    ・コーディネーター育成
- 町会長
  - 生活のインフラ全般を運営
  - 町会活動
    ・防犯、防災
    ・清掃、募金活動など
- 青少対
  - 青少年の健全育成に関すること
- 防災隊長
  - クリーン作戦で街の美化活動
  - 老人会定例会
    俳句会 敬老会
- NPO活動
  - 生活支援団体説明・話し合い
- 保育園園長
  - 保育園運営全般
  - 保育園と地域のつながりを作っていきたい
  - なかなか地域に出ていけないのが現状
  - 保育園の合唱DVDをいただいている（対面はしていない）
    - 高齢者嬉しくて涙
- 甲ノ原中PTA
- みつい子供会
- 高齢者施設で仕事
  - 子どもを対象としたさまざまなイベント

●町会自治会連合会、青少年対策地区委員会、PTA、環境活動、保育施設など、生活と子育てに関わる参加者が多かった。町会のように防災から募金活動まで広範な取組を行う団体、個人として複数の活動や団体に関わる参加者もいた。

●それぞれの活動において、横のつながりや連携を意識して取り組まれている状況ではないという意見があった。

●保育園など、新型コロナウイルスの影響で積極的に外に出て地域とつながりを持つことが難しい施設があることが分かったが、どうすればつながりが持てるかについて悩んでいることが分かった。

■甲ノ原中学校区(B-1)【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

コロナによる課題

今の短期的影響
- 自治会行事（地域行事）への参加者減少
- 子どもと高齢者（地域）との交流ができなくなった
- ボランティア活動への参加に影響大
- パトロール活動ができなくなった

理由
- コロナ気にする人は気にする…
- 行事内容により参加する層が異なる
- 活動したくても会場が使えない

課題
- 行事の開催方法に工夫が必要となっている

工夫
- 分散するよう屋外で実施
- 交流の代替となるものを活用（DVDで配布）
- オンライン化
- お祭りの人数制限や入替制→工夫して開催できた
- 開催主体により内容・やり方を変える
- 清掃会・音楽会など一人数制限・距離の取り方

地域全体の課題

高齢化（人手不足）
- 老人が増えているが老人会活動に参加する人が少ない
- 自主防災メンバーの高齢化（初期消火できる！？）
- ひとり暮らしの見回りする人手が足りない

地域に関わろうという気持ち・人・活動づくり
- 自治会加入者減少
- 「地域づくり」について住民への周知が足りない
- 子どもが減っている

課題
- 地域について考えていることをフィードバックする方法はあるが…住民は興味あるのかな？
- 「やらされる」ではなく「自分だからやれる！」と思える活動参加

アイデア
- （ボランティア増のために）地域活動に参加するメリットを感じられるように
- 甲ノ原地区の特色を活かした活動を子どもたちと！
- 地域活動を住民が可視化できるようにしたい
- 集まれる場所スペースがほしい
- 甲ノ原地区の歴史が共有できる

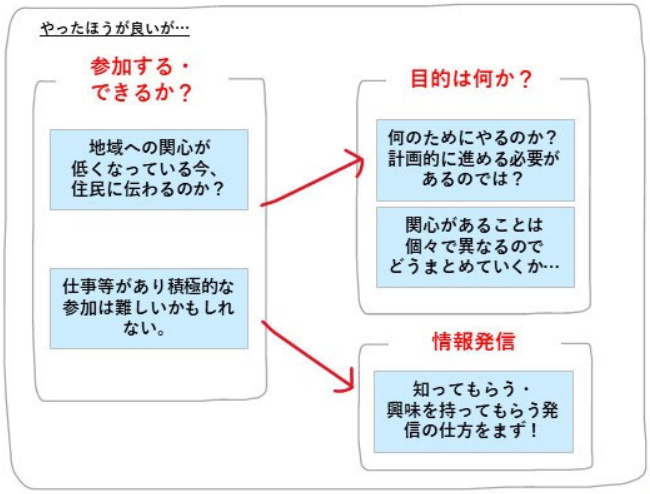
●新型コロナウイルスの影響によって従来できていた地域活動ができなくなっている。工夫をして対応している様子がうかがえたが、再開が難しいものもあるなど、現在も抱えている悩み・問題についての意見が多かった。

●地域に関わろうという主体的動機を持った人材や住民を巻き込むことが必要と認識しており、活動を可視化して、活動内容とメリットを分かり易くすることが必要との意見が挙がった。

●活動の様子が目に見える、集まれる「大きな場所（施設・公園）」が必要との意見が挙がった。

■甲ノ原中学校区(B-1)【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

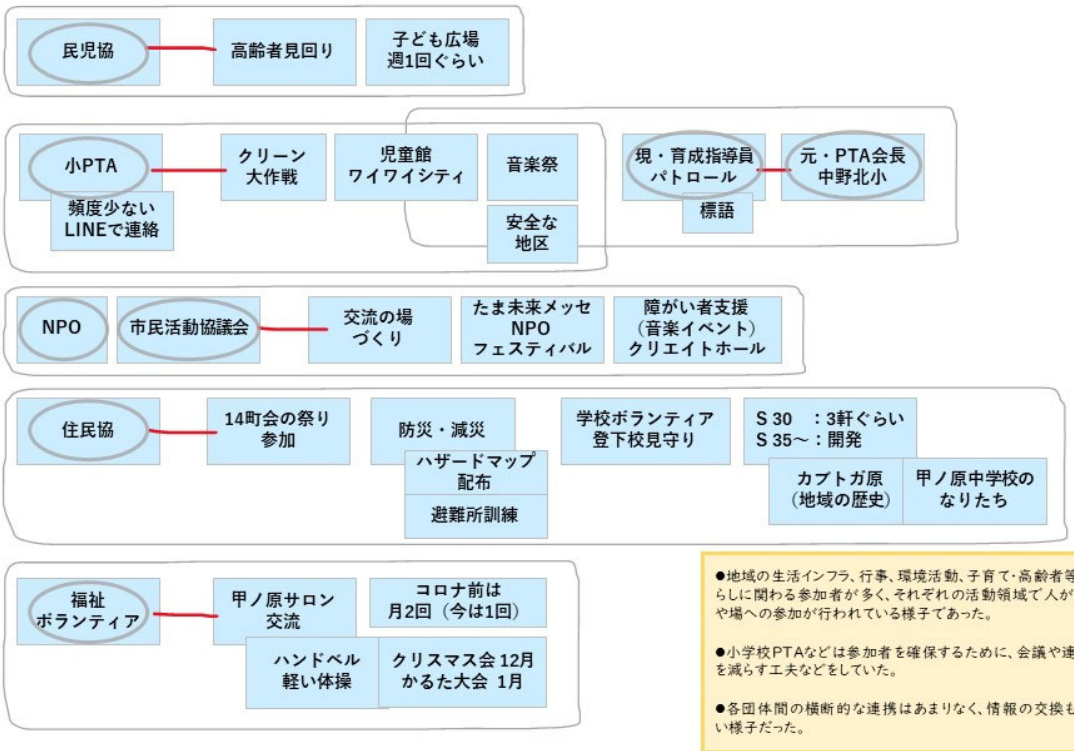


●推進会議の設置については、「やったほうが良い」という見解がグループとして出された。ただし、現状では「住民の関心の低さ」「仕事などの繁忙」があり、参加者が集まるのか不安視する意見もあった。

●推進会議の「目的を明確にする」こと、興味を持ってもらうよう知ってもらう「情報発信」をすることが必要という意見が出された。

■甲ノ原中学校区(B-2)【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会



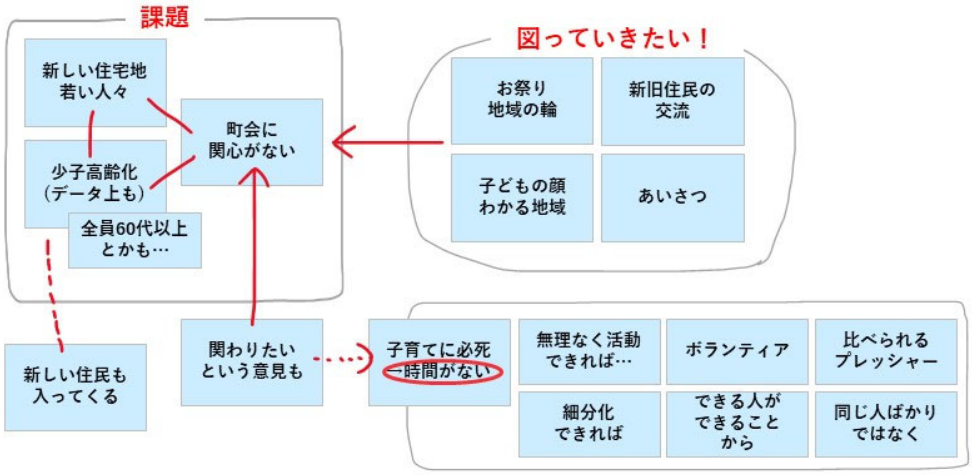
●地域の生活インフラ、行事、環境活動、子育て・高齢者等支援など暮らしに関わる参加者が多く、それぞれの活動領域で人が集う場づくりや場への参加が行われている様子であった。

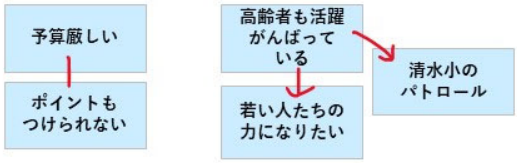
●小学校PTAなどは参加者を確保するために、会議や連絡の負担感を減らす工夫などをしていた。

●各団体間の横断的な連携はあまりなく、情報の交換も十分ではない様子だった。

■甲ノ原中学校区(B-2)【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会





●子育て世代であるPTAの参加者のから地域参加に対する発言が活発だった。

●活動の担い手について、新しい住民の関わりが課題と認識している。関わりが薄い背景には、活動に関心がないこと、現状では関わり方が難しいこと等が理由としてあげられた。

●新住民と従来の住民が関わりながら地域に関心を持つきっかけづくりや、参加しやすい工夫といった、新しい住民目線での仕掛けづくり、仕組みづくりの必要性が指摘された。

■甲ノ原中学校区(B-2)【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



情報のマッチアップ（需要と供給）を図っていければ、新たな取組につなげられるかも

地域づくり推進会議でどのような取組ができるか

頻度は？	毎月は、負担になりそう
関わり方	集まるだけでなく、リモートを活用するとか
何が変わる？	今はまだ課題を出しあっている段階

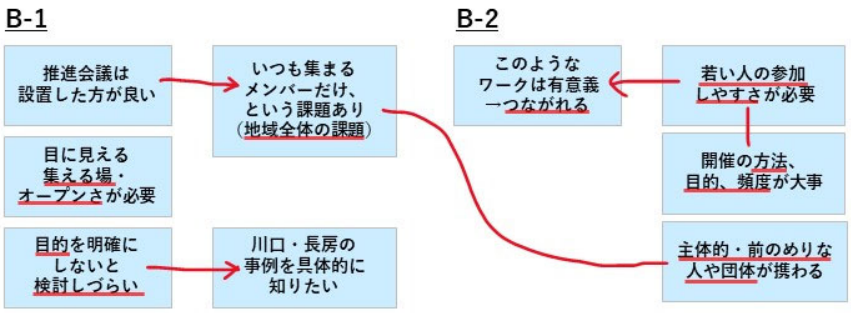
●推進会議の設置については、新たな取組につながる可能性があるというグループの見解が示された。

●そのためには情報発信、参加方法の工夫が必要で、YouTubeなどのメディアを活用した推進会議の可視化についても意見が出された。

●協賛金や助成金頼みになる活動資金の調達方法を問題視する声があった。また、活動について負担を減らすような工夫が必要との意見があった。

■甲ノ原中学校区（B－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



推進会議設置について

賛成 → 11名　　判断が難しい → 1名

（やろうとしていることがイメージしづらい）

※既存の会やワークショップとの違い・工夫が前提

一似たようなものは負担になるだけ

●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留する参加者もいた。

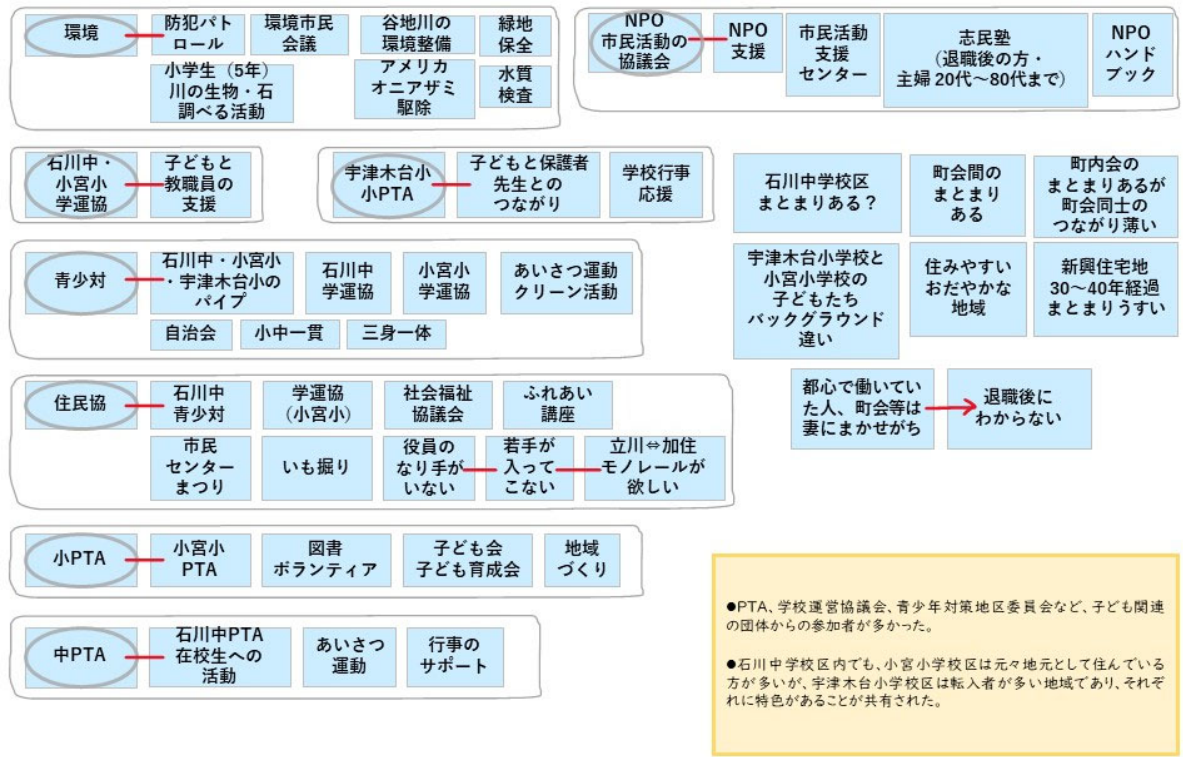
●「判断が難しい」という意見の参加者からは、推進会議が一体どのようなもので、何をしようとするものかイメージできない、という声があった。

●先行する地域の取組の様子を知りたいなど、取組や目的をより具体的にイメージしたいという意見もあった。

●準備する前提としては、既存の会やワークショップとの位置づけ、目的を明確に分けることが必要との指摘があった。また、若い人や地域に対して主体的な人材・団体の関わりが必要との意見があった。

■石川中学校区（B）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

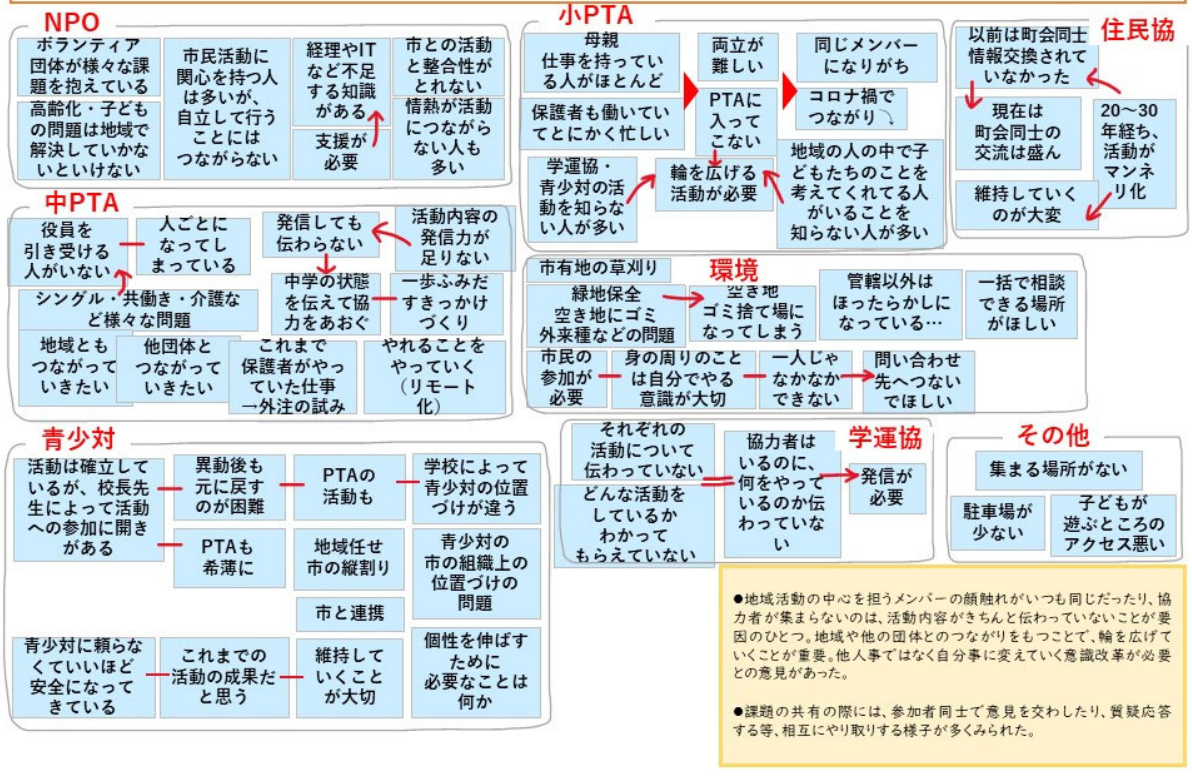


●PTA、学校運営協議会、青少年対策地区委員会など、子ども関連の団体からの参加者が多かった。

●石川中学校区内でも、小宮小学校区は元々地元として住んでいる方が多いが、宇津木台小学校区は転入者が多い地域であり、それぞれに特色があることが共有された。

■石川中学校区（B）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

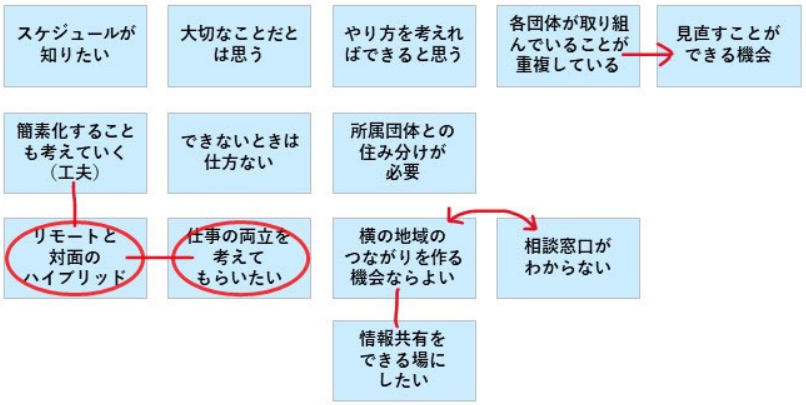


●地域活動の中心を担うメンバーの顔触れがいつも同じだったり、協力者が集まらないのは、活動内容がきちんと伝わっていないことが要因のひとつ。地域や他の団体とのつながりをもつことで、輪を広げていくことが重要。他人事ではなく自分事に変えていく意識改革が必要との意見があった。

●課題の共有の際には、参加者同士で意見を交わしたり、質疑応答する等、相互にやり取りする様子が多くみられた。

■石川中学校区（B）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



推進会議設置について

賛成 → 全員（7名） 満場一致

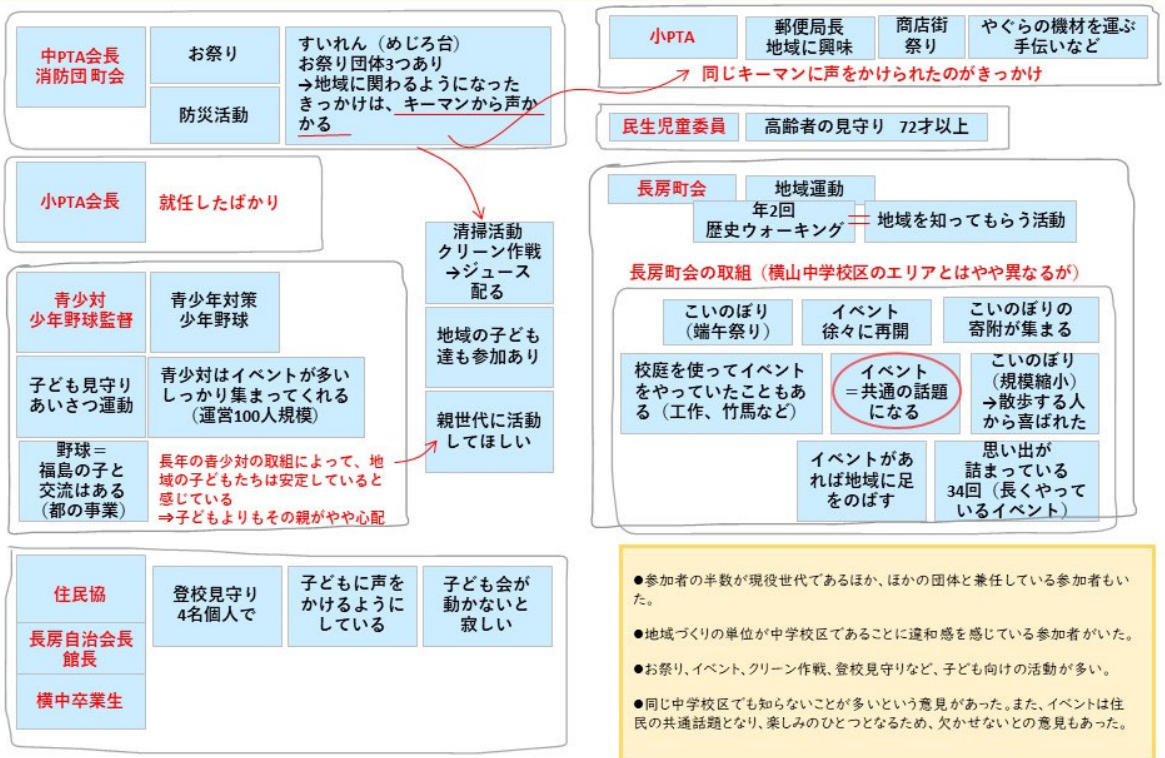
- 開催頻度を見ると大変そう
- 位置づけをはっきりさせてほしい
- 兼務などが負担
- 時間などを考えてもらいたい

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●ただし、開催にあたっては、リモートを併用する等、参加しやすい体制の構築を検討することや、現在の所属団体と協議内容が重複することがないよう棲み分けをはっきりすることが必要との意見があった。また、会議体としての位置づけをはっきりさせてほしいとの意見もあった。

■横山中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●参加者の半数が現役世代であるほか、ほかの団体と兼任している参加者もいた。

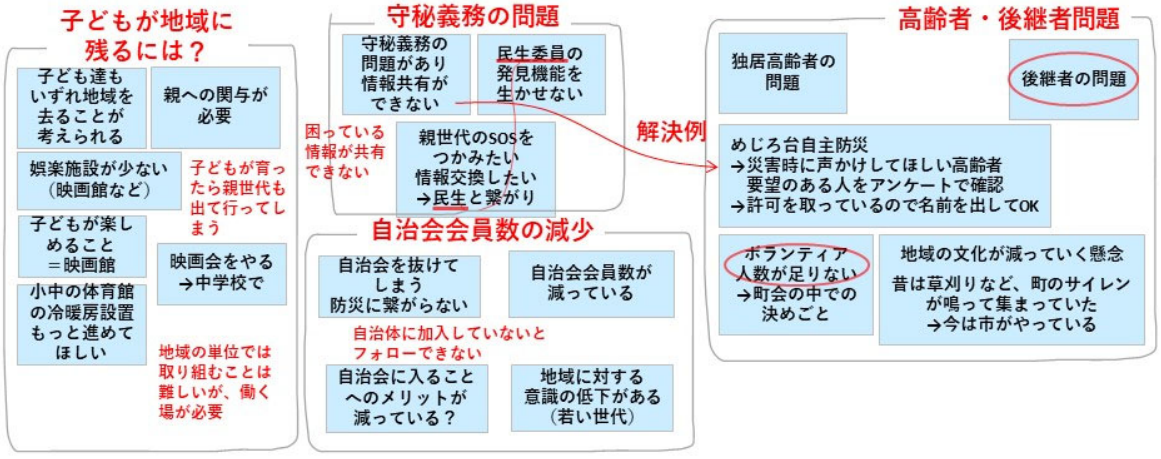
●地域づくりの単位が中学校区であることに違和感を感じている参加者がいた。

●お祭り、イベント、クリーン作戦、登校見守りなど、子ども向けの活動が多い。

●同じ中学校区でも知らないことが多いという意見があった。また、イベントは住民の共通話題となり、楽しみのひとつとなるため、欠かせないとの意見もあった。

■横山中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



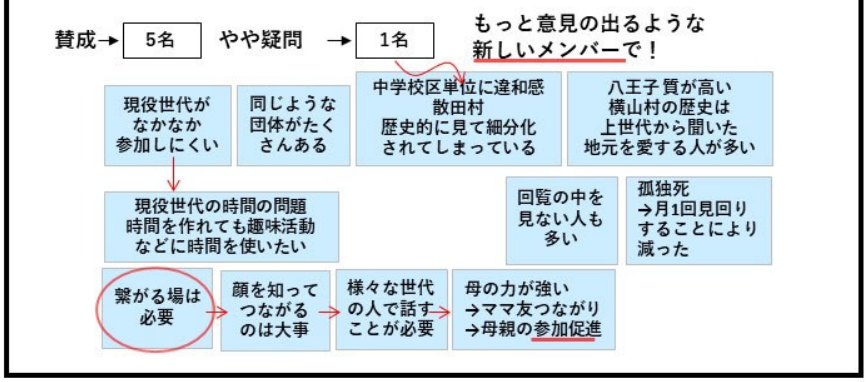
●めじろ台の自主防災の取組（声かけ名簿）に強い関心がある。

●子ども向けの取組はある程度充実しているという自負があるが、親世代の巻き込みが課題となっている。

■横山中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

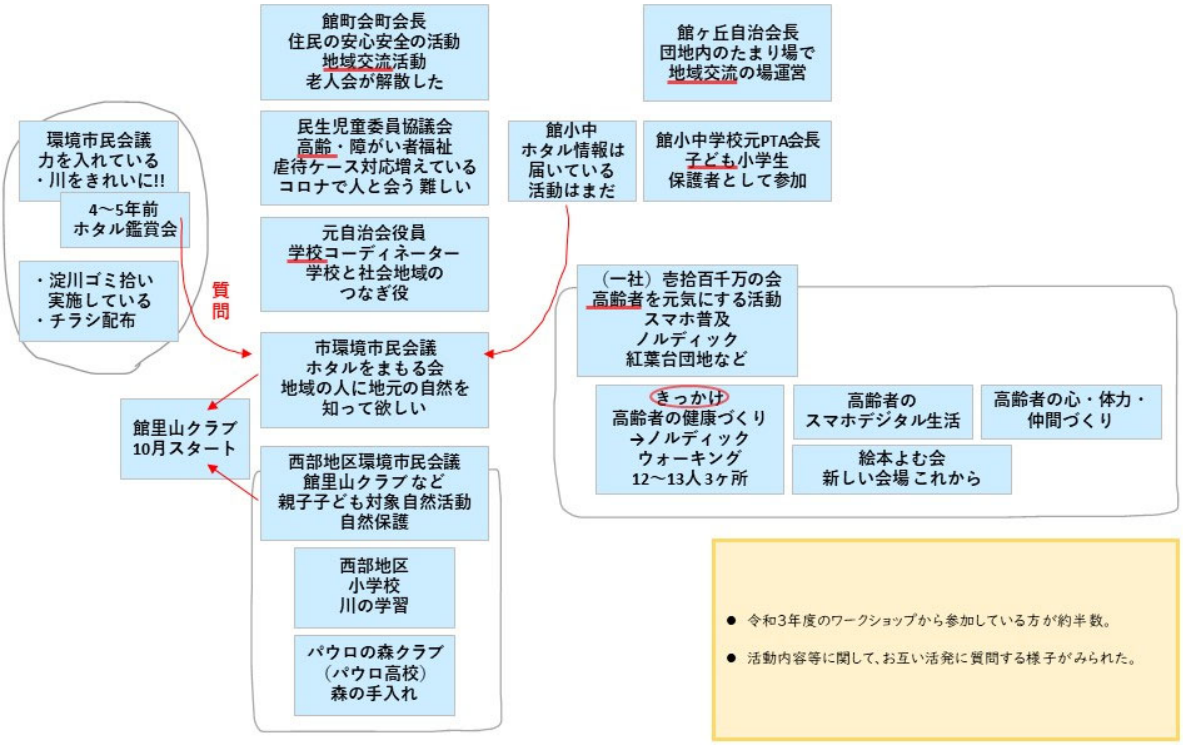


●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●フットワークの軽いメンバー（情報通な母親など）の参加が必要という意見があった。

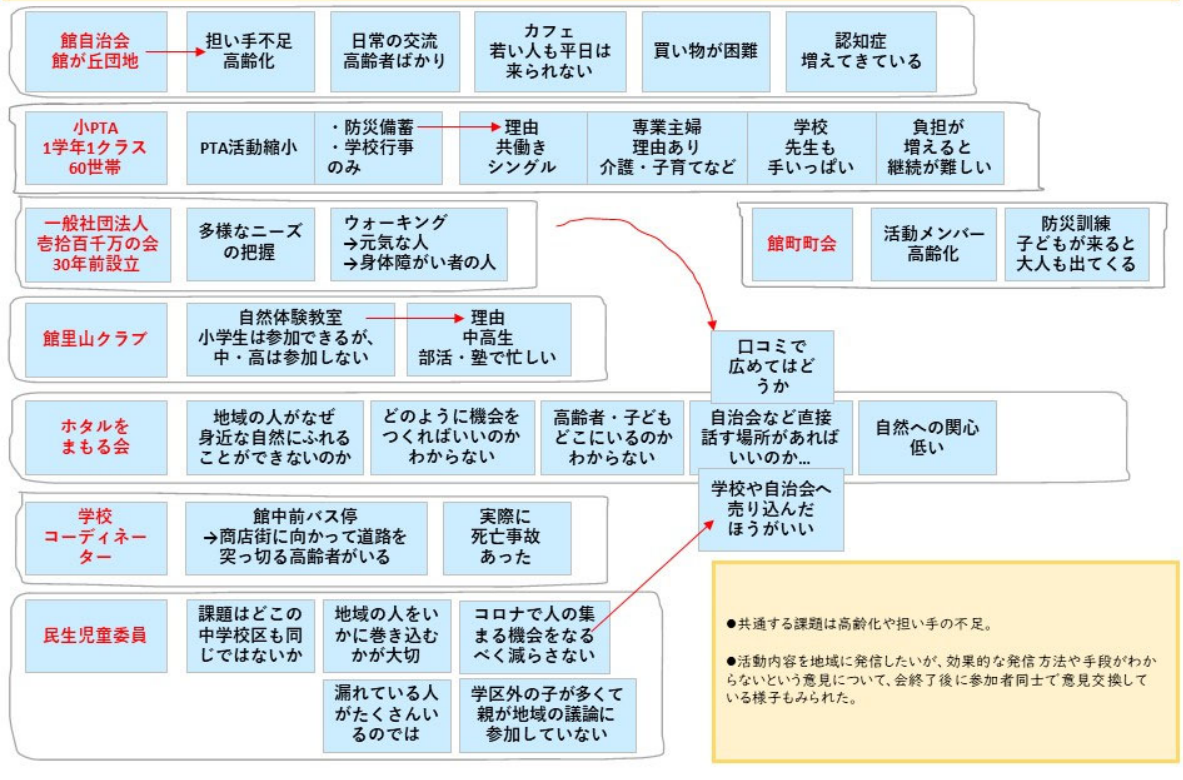
■館中学校区（C）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会



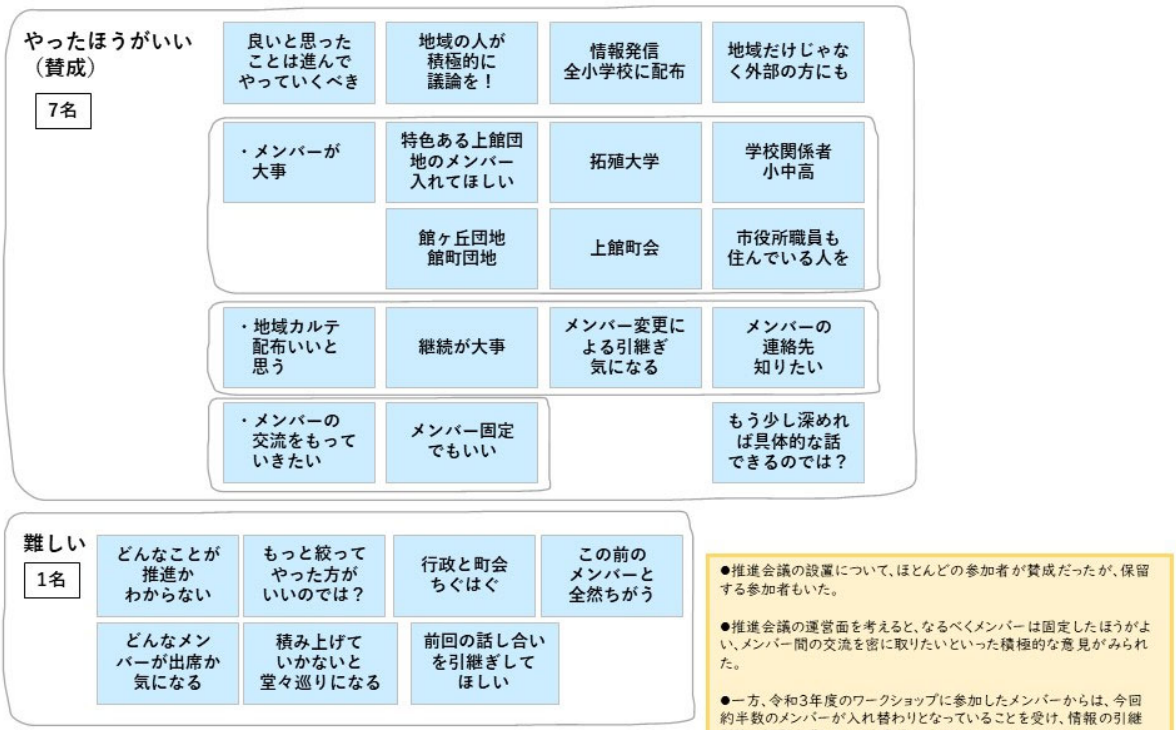
■館中学校区（C）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



■館中学校区（C）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



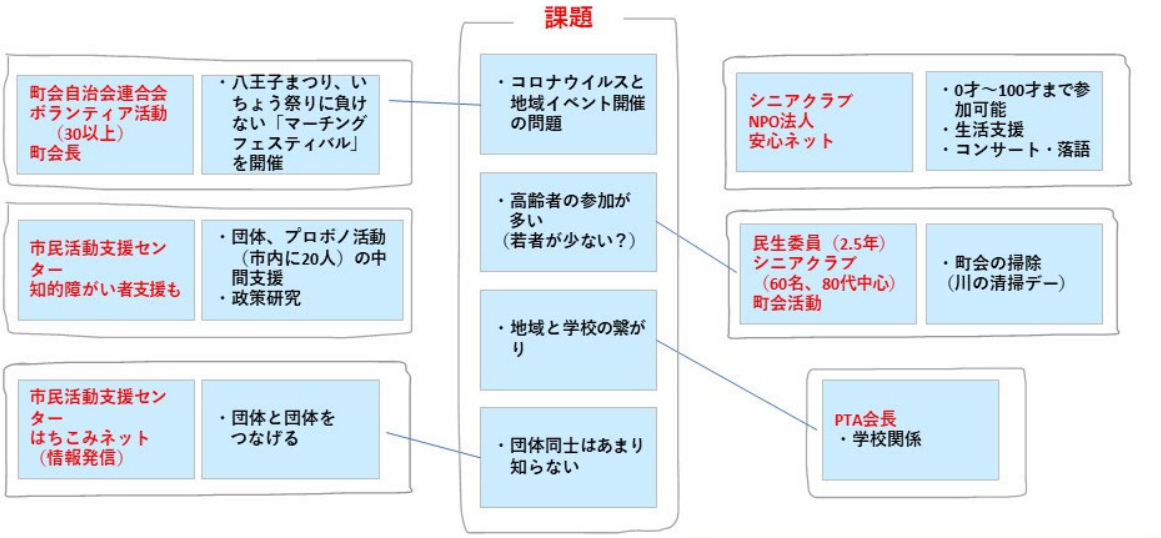
●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●推進会議の運営面を考えると、なるべくメンバーは固定したほうがよい、メンバー間の交流を密に取りたいといった積極的な意見がみられた。

●一方、令和3年度のワークショップに参加したメンバーからは、今回約半数のメンバーが入れ替わりとなっていることを受け、情報の引継ぎ等に課題を感じるという意見が出された。

■椚田中学校区（B-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会



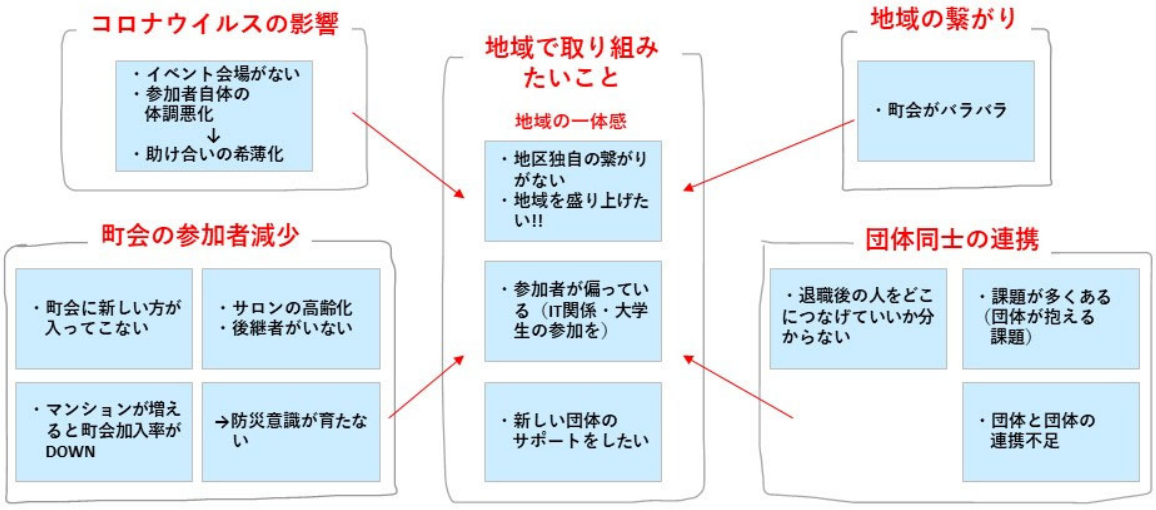
●シニアクラブは80代が中心。町会の活動（川の清掃）にも若者の参加は少ない。

●周辺には八王子を代表するお祭りがあるが、椚田中学校区にはないため、今後「マーチングフェスティバル」を市の代表的なお祭りとして育てていきたいとの意見があった。

●市内の団体同士はあまりお互いのことを知らない。それぞれをつなげることが必要との意見があった。

■椚田中学校区（B-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

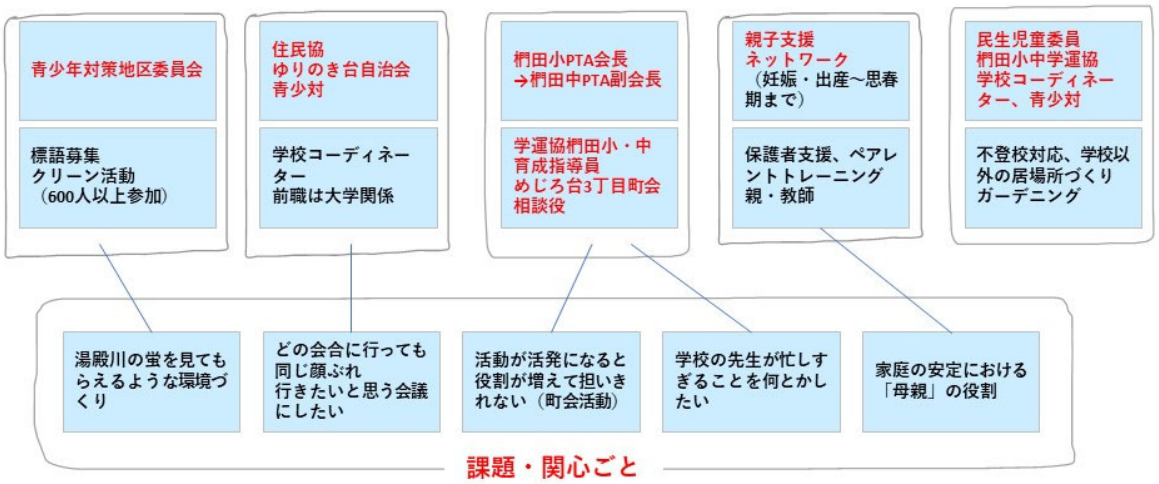


●町会加入者の減少や活動団体がバラバラで地域のつながりが希薄であることが、課題に挙がった。また、町会、団体間のつながりがなく、一体感がないとの指摘があった。

●町会など地域活動についても参加者が減少し、住民間のつながり、助け合いなどの地域力が低下していることを懸念する声がきかれた。

■椚田中学校区（B-2）【自己紹介】

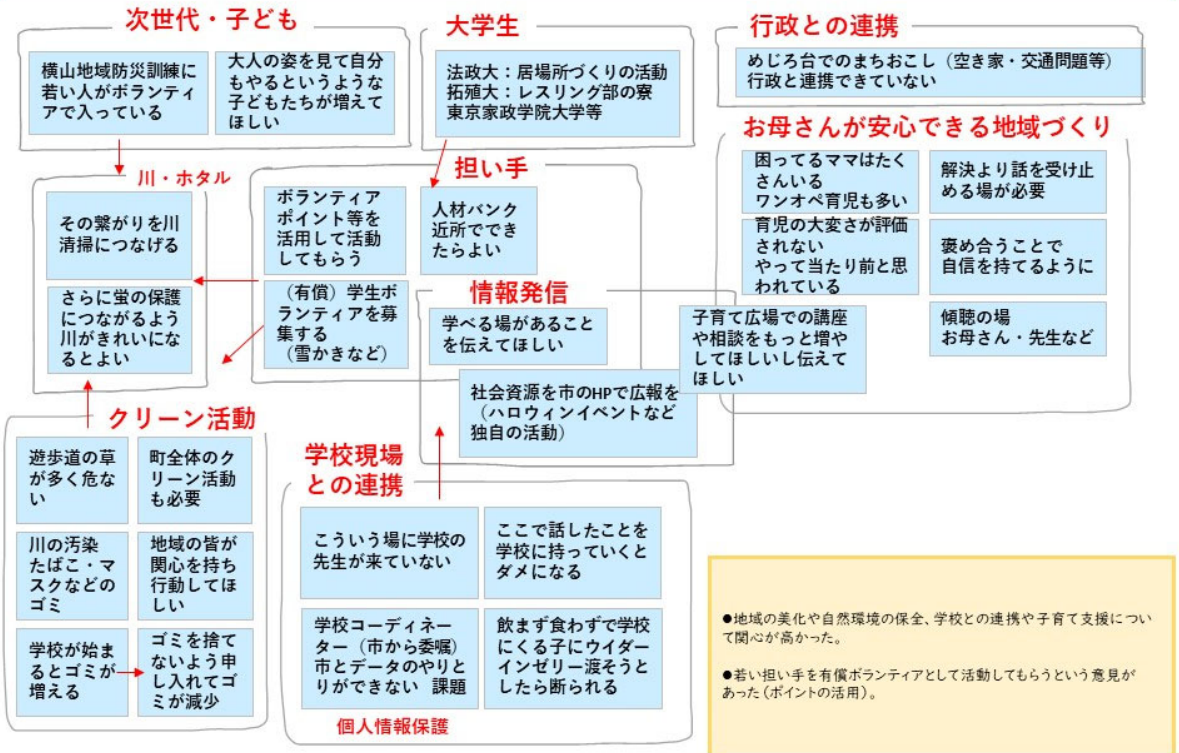
令和4年度（2022年度）地域づくり意見交換会



- ●湯殿川のホタルを大切にしていきたいとの声があった。
- ●複数の団体の役職を兼ねている人が多く、違う会議に同じ人が顔を合わせることになっている。
- ●町会活動を牽引してきた世代がいなくなり、少ない人数で以前と同じ活動ができなくなっている。
- ●学校の先生の忙しさ、家庭や親子についての関心も聞かれた。

■椚田中学校区（B-2）【課題、地域全体で共有したいこと、推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



- ●地域の美化や自然環境の保全、学校との連携や子育て支援について関心が高かった。
- ●若い担い手を有償ボランティアとして活動してもらうという意見があった（ポイントの活用）。

■椚田中学校区（B－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

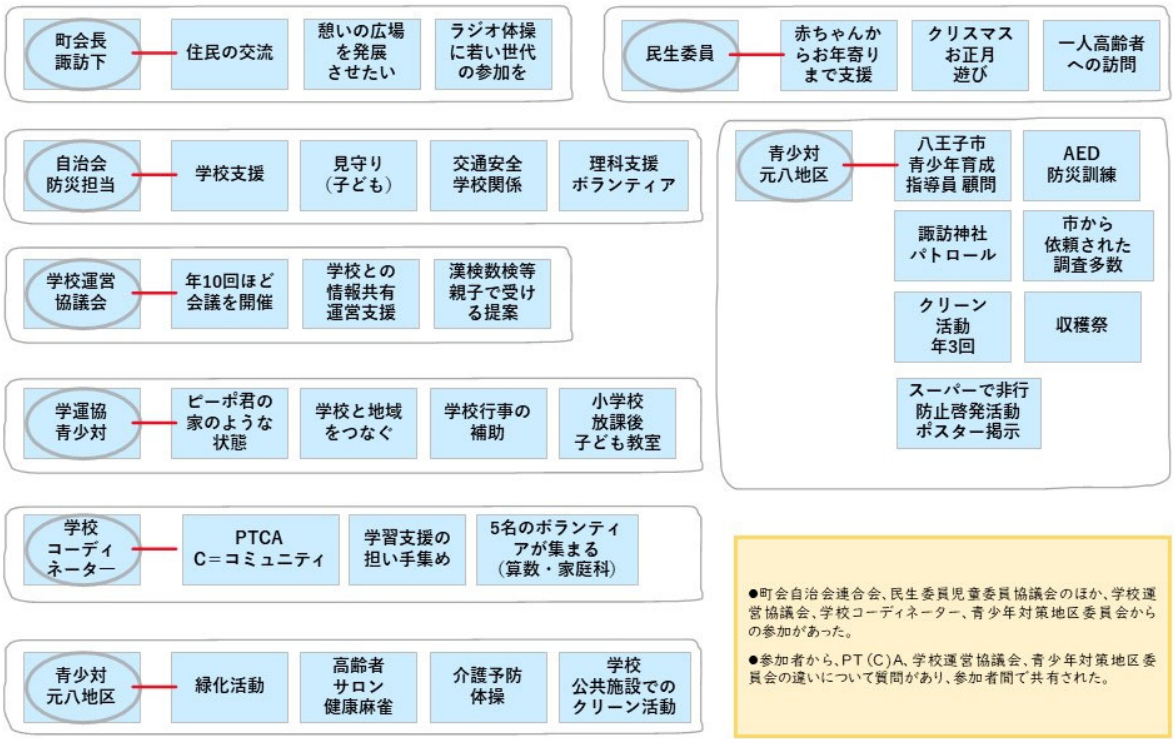
賛成 → 10名　　分からない（設置には前向き） → 1名

●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●地域の一体感づくりに取り組みたいとの意向があった。

■元八王子中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

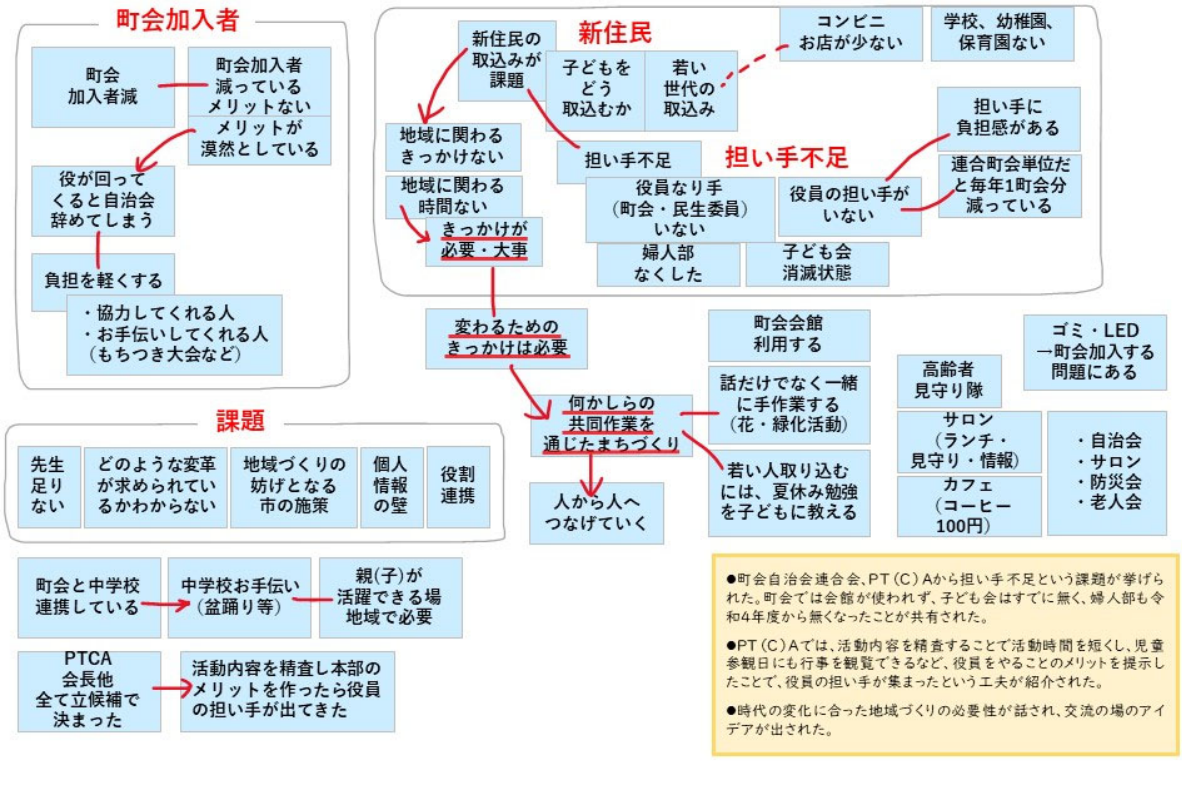


●町会自治会連合会、民生委員児童委員協議会のほか、学校運営協議会、学校コーディネーター、青少年対策地区委員会からの参加があった。

●参加者から、PT（C）A、学校運営協議会、青少年対策地区委員会の違いについて質問があり、参加者間で共有された。

■元八王子中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●町会自治会連合会、PT（C）Aから担い手不足という課題が挙げられた。町会では会館が使われず、子ども会はすでに無く、婦人部も令和4年度から無くなったことが共有された。

●PT（C）Aでは、活動内容を精査することで活動時間を短くし、児童参観日にも行事を観覧できるなど、役員をやることのメリットを提示したことで、役員の担い手が集まったという工夫が紹介された。

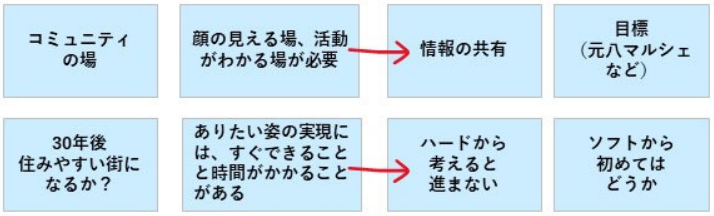
●時代の変化に合った地域づくりの必要性が話され、交流の場のアイデアが出された。

■元八王子中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

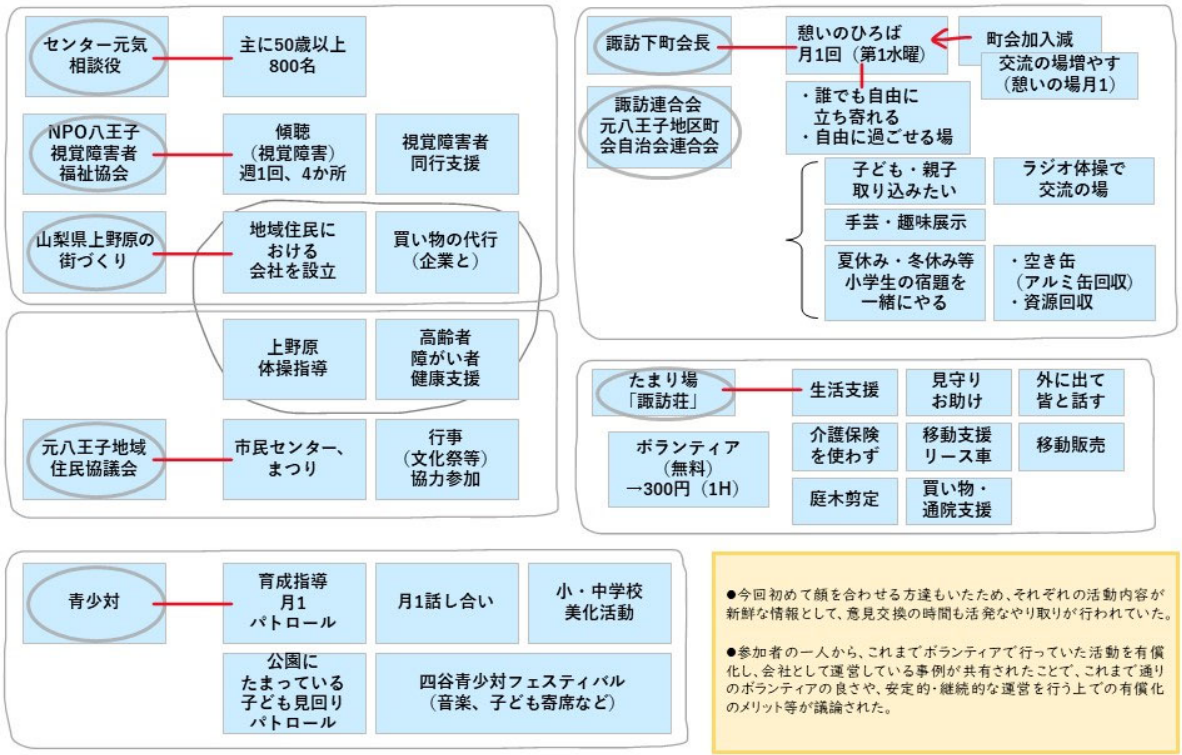
賛成 → 全員（8名）



- ●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。
- ●情報共有の重要性から推進会議への期待が共有された。
- ●ありたい姿の実現のため、時間がかかるハードではなくソフトから始めるといった意見が出た。

■四谷中学校区（C）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

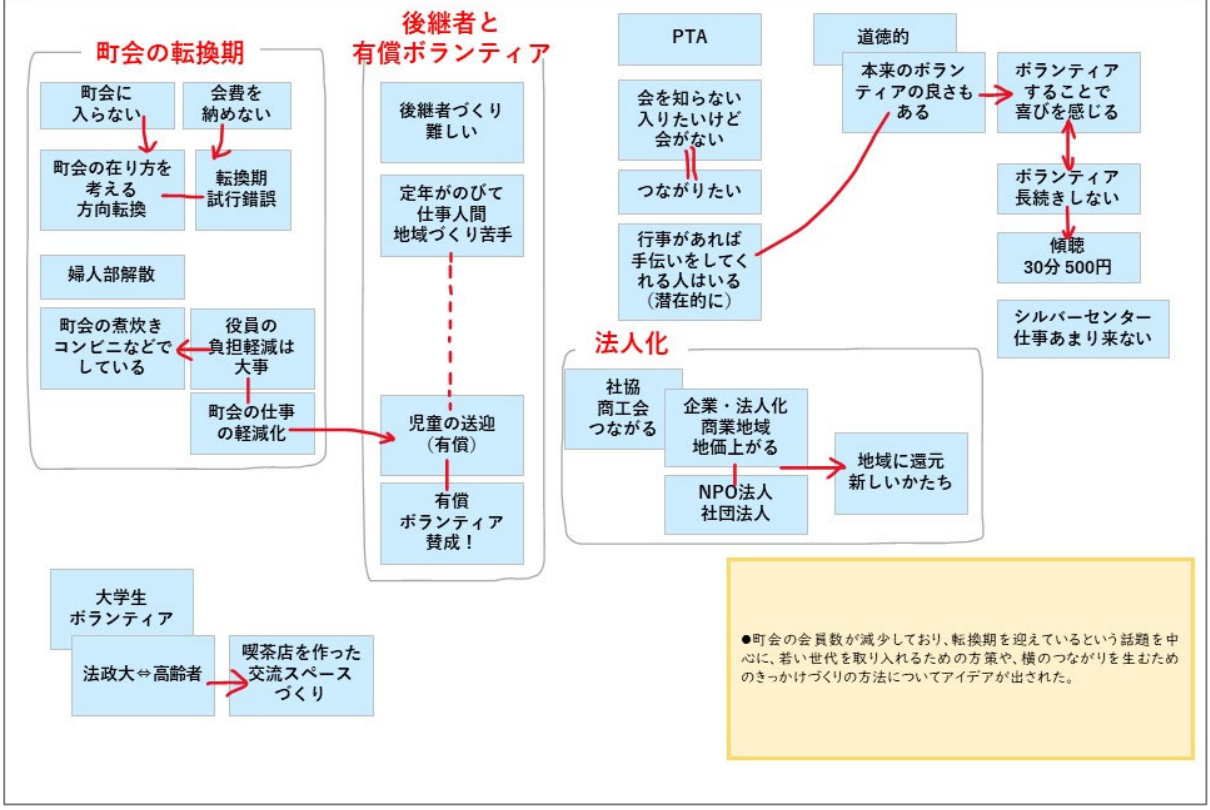


●今回初めて顔を合わせる方達もいたため、それぞれの活動内容が新鮮な情報として、意見交換の時間も活発なやり取りが行われていた。

●参加者の一人から、これまでボランティアで行っていた活動を有償化し、会社として運営している事例が共有されたことで、これまで通りのボランティアの良さや、安定的・継続的な運営を行う上での有償化のメリット等が議論された。

■四谷中学校区（C）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●町会の会員数が減少しており、転換期を迎えているという話題を中心に、若い世代を取り入れるための方策や、横のつながりを生むためのきっかけづくりの方法についてアイデアが出された。

■四谷中学校区（C）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 全員（5名）

必要

きっかけづくりありがたい場

柔軟な意見を聞ける場一大事

新しい方法を知る

無駄

八王子市役所の中でもっとしっかりやってもらいたい

未来デザイン室がやることではないのでは？

会議としては必要だと思う

今後の取り組みについて

まだ元気な高齢者が老人ホームに入る

信頼できる見守り場所を提供したい

子どもらに信頼される近所づくり

つばめ塾

無料塾

子ども食堂

食事会（家族で参加）など入りやすいイベントをしてはどうか

親子・高齢者が交流できるお茶飲み、食事会

横のつながりが生まれる場所・情報が必要

若い人たちを取り込んでほしい

小学校・幼稚園の親（若い世代）を入れたワーク

お互いに発展できる仕組みが大事

コミュニケーション地域⇔学生

暇な人がいない（働いている）

高齢化マンネリ

相談できる場所を紹介できる窓口づくり

広報必要

勉強会のグループづくり必要

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●市の運営体制についての疑問は出たものの、各団体とも今が今後の運営に向けての転換期であるという共通の課題認識があり、新たな意見を取り入れる場・きっかけが必要という意見があった。

■横川中学校区（B-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

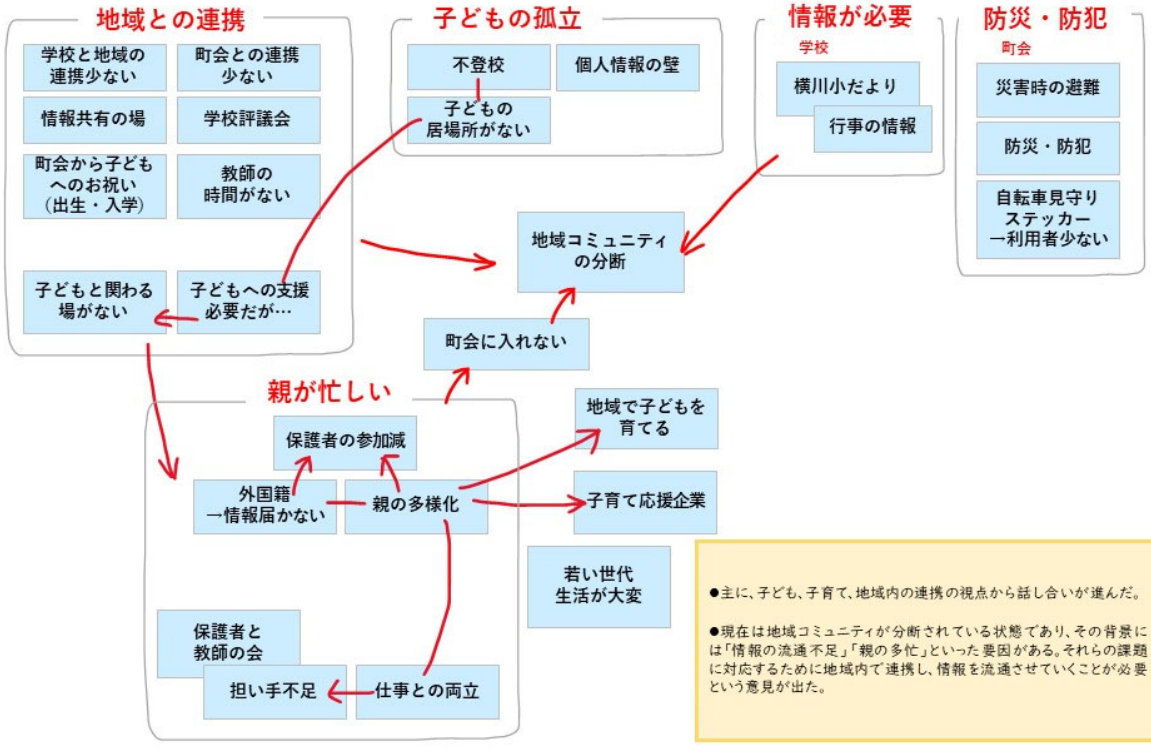


●町会自治会連合会、PTA・子育て関連の参加者が多く集まり、コミュニティと子どもの話題が共通して出された。

●毎回同じようなメンバーで一から話し合うことについての疑問が投げかけられた。

■横川中学校区（B-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●主に、子ども、子育て、地域内の連携の視点から話し合いが進んだ。

●現在は地域コミュニティが分断されている状態であり、その背景には「情報の流通不足」「親の多忙」といった要因がある。それらの課題に対応するために地域内で連携し、情報を流通させていくことが必要という意見が出た。

■横川中学校区（B-1）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

必要

- 他の団体とのつながる場 → 情報共有
- 情報共有 → 活動の場
- 新たな参加者も必要

●推進会議の設置について、情報共有や活動の場づくり、新たな参加者の受け皿を作ることとなり「つながる場」として必要だという見解でまとまった。

■横川中学校区（B-2）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

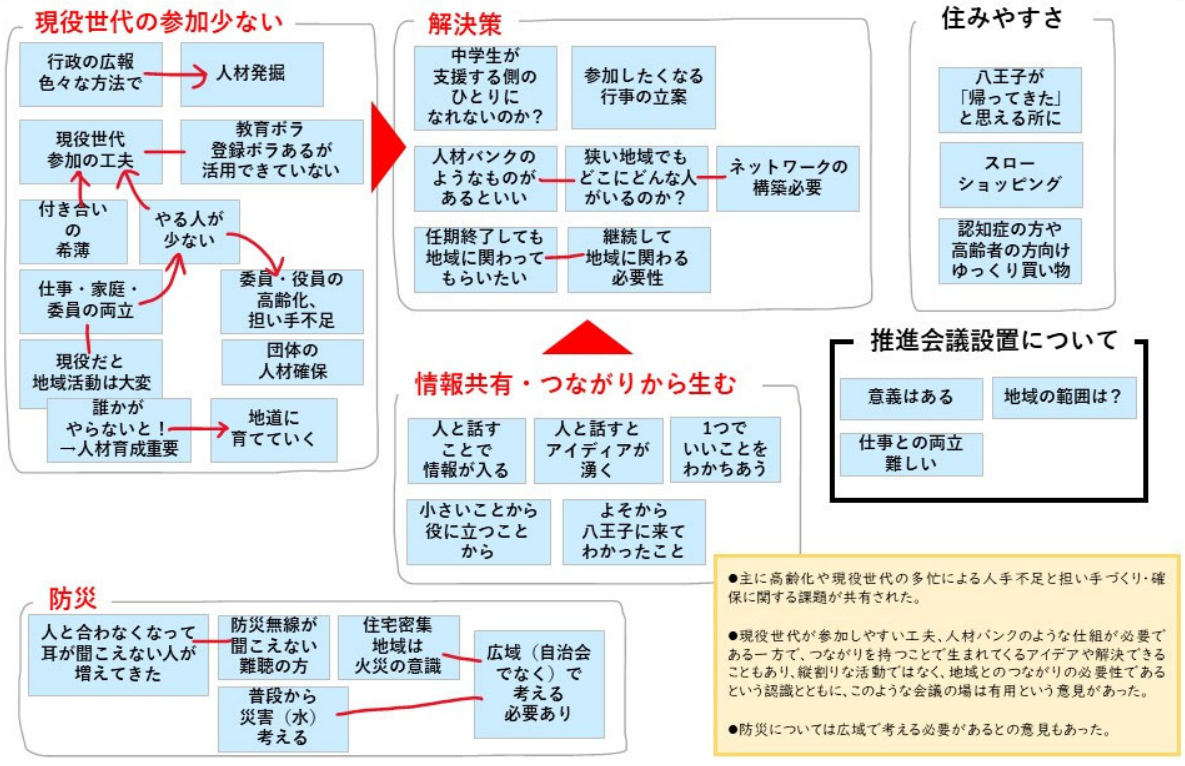
- 民児協 → 災害の防災訓練（平常時・緊急時両方） / 防災士の資格を持っている / 千本木町会で見守り隊活動中 → 高齢者の御用聞き / ・クーラーの調子が悪い ・電球の交換 / 要約筆記者 / 学校と町会との関りが少ない → 情報共有する / 兼任者で連携 / 実行していく
- 青少対 → 市民ボッチャ大会 / 育成指導員 / スポーツ推進員 / 青少年健全育成 / 小中PTA事業に協賛 / 子どもたちへの思いが活動の原点 / 横川出身
- 福祉ボランティア → スマホを持ちよってIT研修会 / 安保確認の活動（スマホの操作確認とか） / 手打ちそば手作りパンの作製 / ふれあいいきいきサロンピクニックハウスの運営 / 横川に住んで40年ぐらい → 横川にふるさと意識
- 環境 → 地球温暖化活動の環境カウンセラー / 小学校でのカウンセラー / 環境に関する課題 →子どもの理解 / 防災・平時の備え / 危機感、心の準備が必要。子どもたちへの危機管理は重要 / 地域の人々の力で子どもたちの将来考える
- 公募 → 空き家購入してサロン（毎日） / 助成受けた / 病気の人の送り迎え / つながりのない子ども多い
  - 積極的にサロンに来てもらいたい → 子どもに来てもらいたい ← サロンに子どもイベント →来ない
  - 子ども会作りたい
  - 高齢者向けスマホ教室
  - 写経など →活動拡大させたい

●防災、子育て、福祉、環境などそれぞれを軸に活動をしつつ、さまざまな地域活動の兼任をしているメンバーが集まっていた。

●購入した空き家を活用し、住民が運営に参加するサロンを実践する方も参加していた。

■横川中学校区（B-2）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



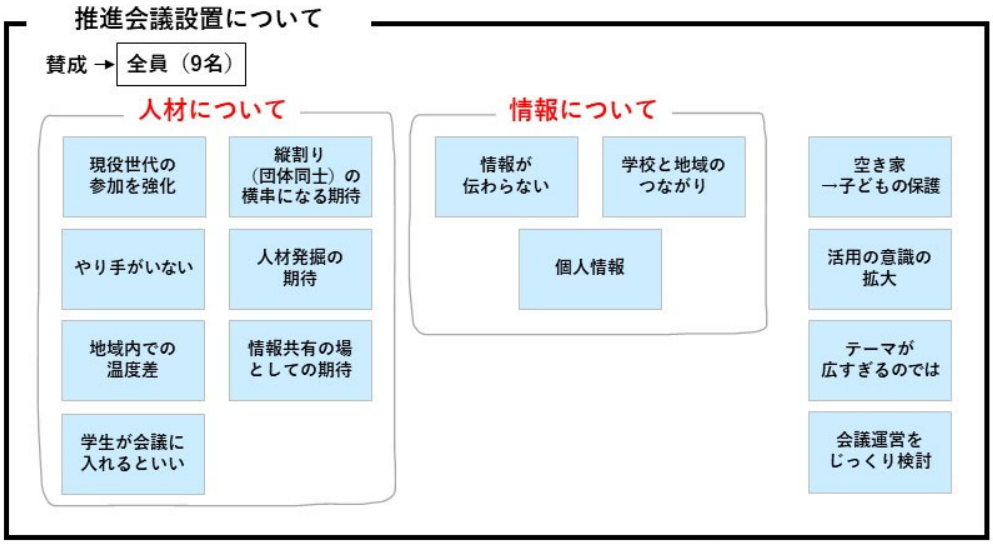
●主に高齢化や現役世代の多忙による人手不足と担い手づくり・確保に関する課題が共有された。

●現役世代が参加しやすい工夫、人材バンクのような仕組が必要である一方で、つながりを持つことで生まれてくるアイデアや解決できることもあり、縦割りな活動ではなく、地域とのつながりの必要性であるという認識とともに、このような会議の場は有用という意見があった。

●防災については広域で考える必要があるとの意見もあった。

■横川中学校区（B－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●推進会議を設置することで、情報の流通と人・地域・活動のつながりができ、人材発掘につながることが促進されることへの期待がみられた。

●参加者については、より若い世代を取り込んでいく必要がある。地域づくりという活動テーマが広すぎるのでは、などの声があり、どのような会議にしていくかの検討が大切との声も聞かれた。

■城山中学校区（B-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

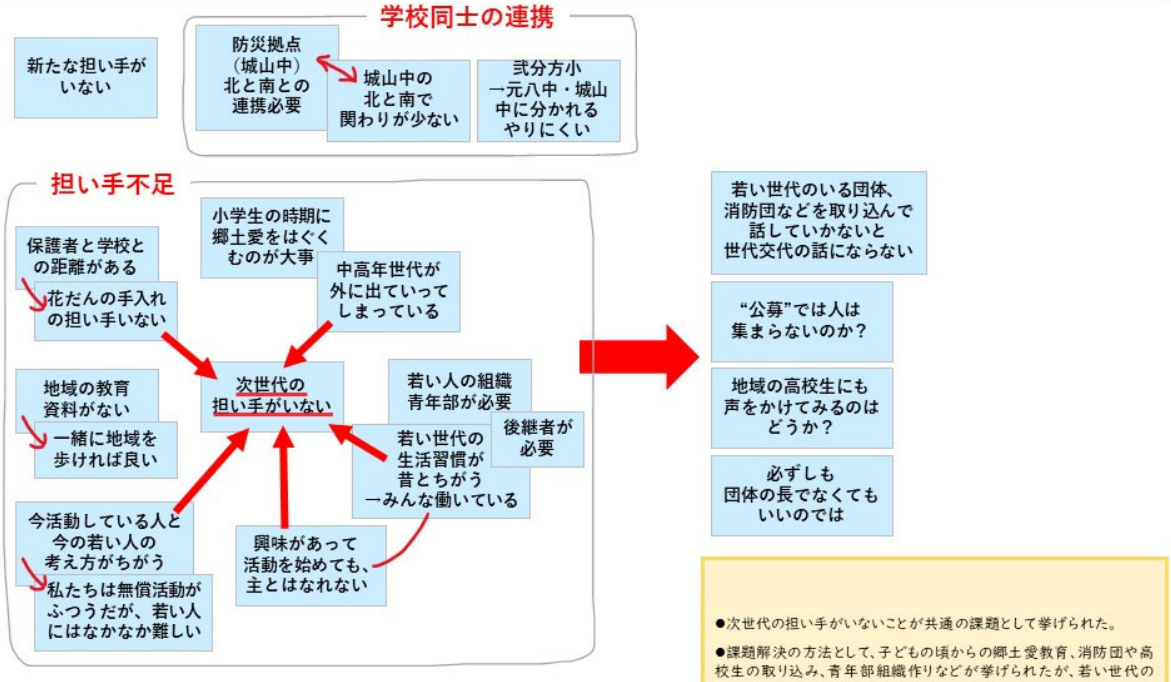


●学校運営協議会、中学校PTA、子ども関連のNPOや、「夕やけ小やけのふれあいの里」で工作教室に取り組んでいる方など、子どもに関わる参加者が多かった。

●住民協議会で地域マップやもとはちおうじ八十八景マップなどを作成した参加者がおり、実際持参して他の参加者が関心を持っていた。

■城山中学校区（B-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●次世代の担い手がいないことが共通の課題として挙げられた。

●課題解決の方法として、子どもの頃からの郷土愛教育、消防団や高校生の取り込み、青年部組織作りなどが挙げられたが、若い世代の生活習慣、考え方が以前と違うという意見も見られた。

■城山中学校区（B-2）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 住民協
  - 八王子に住んで55年
  - つつじヶ丘自治会 他
  - 北条 氏照まつり 会長
    - 氏照まつり今年から御主殿で
      - 多くの方が来場
  - 実行しても人が集まらないことの不安
    - コロナの影響大きい
- 民児協
  - 生まれも育ちも元八
  - 農家育ち
  - 民生委員を20年
  - 身近な相談役
  - 年配の方を訪問
- 小PTA
  - 城山小学校サポートコーディネーター
  - お母さんたちのサポートを
  - 子どもは城山小城山中出身
  - 子どもが卒業しても活動継続
- 環境
  - 八王子に来て17年
  - グリーンタウン自治会
  - 環境配慮事業者向け
  - 地球温暖化関連の活動省資源
  - 出前講座も
- 公募
  - 小・中合同PTA
  - 花だんの活動
  - 拓かれた学校を目指す

●地域行事を担う住民協議会や高齢者を支える民生委員、環境活動、PTA、コーディネーターといった子ども教育に関わる方が参加した。

■城山中学校区（B-2）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

地域交流の芽

- 青少対・学運協を利用して顔つなぎ→前向き反対
- 団地で毎月掃除に出て顔合わせるようにしている
- 小さいことから輪を広げる
- コミュニケーション行事（もちつき）工夫して再開した
- 住民協に青年部を作る予定

子育てと地域の協力

- 地域の人と協力できると変わるのでは
- 学校と地域の繋がり回復が目標
  - 子どもが地域に見守られている→力につながる
- コロナで、この2年、外部の人学校に入れない
- 他の家の子を叱るのはむずかしい
- 以前は…町会旅行、体操、相互子育て交流があった
  - 近所づきあいほとんどない
  - 交流・付き合いがなくなった
    - 交流の場がなくなっている→作る必要
  - 子どもの成長→環境の問題になっている
    - 住民の協力なくなっている
- サポーターなり手が少ない
- 育児がうまくできない親（忙しい、方法わからない）
  - 親が忙しい＝子どもに目が行き届かない

地域の人の認知・関心

- 地域の人と相談しながら進めたい→どうやって？
- 行事をどう伝承するか
- 関心をもってもらうには？
- 市民に省エネ・省資源をいかに知ってもらうか
- 若者への継承が問題
- 20代-50代忙しくても参加してほしい

●課題として、新型コロナウイルスの影響だけではなく、地域の中で住民同士や世代間の交流がなくなっていることが挙げられた。

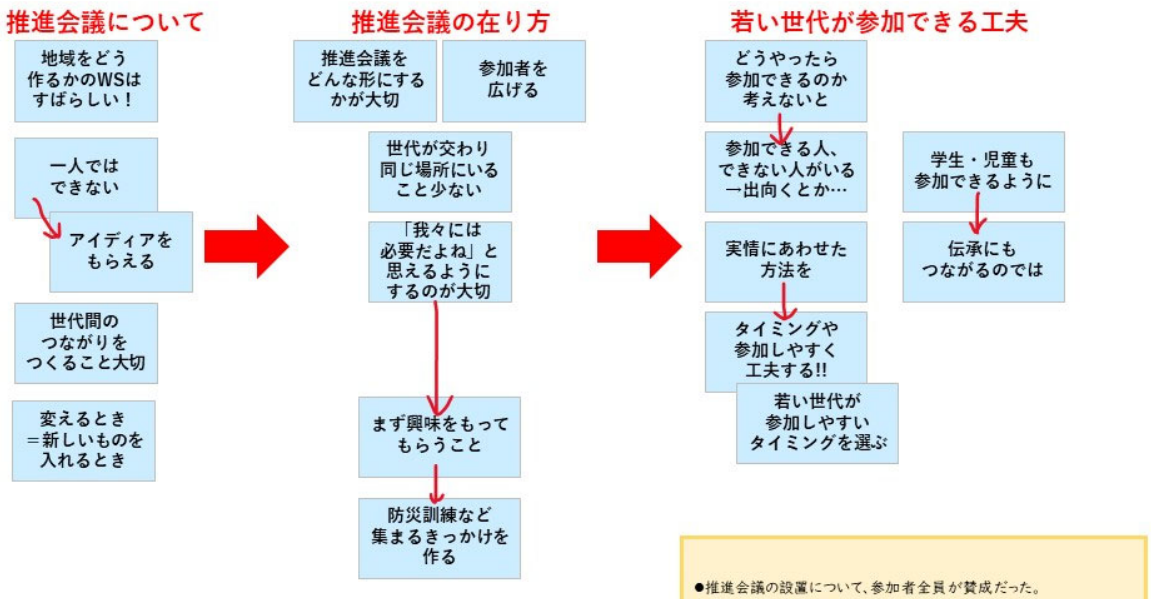
●課題による影響は、子どもたちの成長や子育て、地域行事の継承といった点に出てきており、人同士や学校と地域のつながりの回復、そのための場づくりが必要であるという意見があった。

●若い人や地域の人に地域の活動を知ってもらい、関心を持ってもらうことが必要という意見も出された。

●推進会議の設置についてはつながりができ、課題解決への期待もあることから前向きであった。ただし、参加者を広げるための方法については工夫が必要との意見があった。

■城山中学校区（B－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



推進会議設置について

賛成 → 全員（9名）

- 推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。
- つながりと課題解決への期待が聞かれた。
- 参加者については学生を入れていくことなど、地域の担い手の発掘と参画の必要性も聞かれた。

■恩方中学校区（C-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 恩二小PTA
  - 小学校児童保護者と主に関わる
  - 学校行事手伝い
  - クリーン活動
- 恩中学運協
  - 生徒・先生の課題解決支援
  - 恩中サポート
  - 子ども食堂
  - PTA会長制度廃止
  - 昭和のPTA→令和のPTAへの転換!!
- NPO恩方ベース
  - 今年1月に立ち上げ（上恩方）
  - 小津倶楽部と同じような活動
  - 活力を上げる活動
  - 空き家
  - 自然を活用したイベント
  - 初期メンバーの集め方
  - メンバーは口コミで
  - 役員の中に広いネットワークを持つ人がいる
- 恩方町自連
  - 耕作放棄地
  - 町会メンバー→小津倶楽部誕生 活動資金の関係でNPOへ
- NPO小津
  - 高齢化・過疎化対策
    - 子ども～高齢まで居場所・仲間づくり
    - 地域を元気にしよう
    - 小中高の校外活動支援
    - カレーが好きではない子が、古民家おもむろでは食べられた！
    - 高齢者の生活支援（介護予防教室等）
    - 地の木材等を活用した作品作り
    - 木工品の作品
    - 大人の遊び場 秘密基地
  - 正会員：40名越え ボランティア会員：80名 賛助会員：30名
- 民児協
  - 地域の困っている方々への相談支援

●約半数は青少年対策地区委員会、PTA等子ども関連の団体からの参加。その他、町会自治会連合会や民生委員児童委員、NPO法人小津倶楽部、恩方ベースといった恩方地域の地域振興に向けて活発な活動を行っている団体からの参加であった。

●特に、小津倶楽部は設立から約5年が経過し、地域外からの参加者も含めた活発な活動が継続されているとのことで、情報交換の時間には、設立当初からどのように人の輪が広がっていったか等、運営のノウハウ等が共有された。

■恩方中学校区（C-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

子どもたちの遊び場・居場所

- 子どもの遊び場が少ない
  - 市民センター
  - 公園
  - 放課後子ども教室
  - 夕やけこやけ
- 小田野中央公園にいると通報される → 居場所に変えるために → 小田野中央公園まちづくりの会

担い手不足

- 担い手不足
  - 地域の子どもが学区外の中学へ行ってしまう
    - 公共交通機関が少なく通学が難しい
      - 理由
        - ・部活（運動部）
        - ・“恩中”という名前
        - ・選択制になった
      - クラブチーム ⇔部活の連携
      - 部活動（バスケ）を頑張りたい子はどこの中学に通っているか聞かれることがある
    - 恩二小 特認校 →市内どこからでもOK
    - 恩方に入ってくる人も少ない
  - 地域の少子高齢化
  - 民生委員の次期候補者を探すのに苦労する
  - 学校に興味がある保護者多い
  - 恩二小へ通い田舎がいい →引っ越し

高齢化

高齢者への対策だけでなく…

- 恩方ベースでイベント →子どもたちへアピール
- 若い人たちを呼び込みたい

その他の課題

- 行政の縦割り
- 公共交通機関問題
- 災害がとても多い地域 → 災害対策 災害弱者の名簿作り
- 文化遺産 築何百年の自宅!!
- もったいない

空き家対策

- 農地付き空き家 家は買えるけど農地は買えない → 規制、法令緩和は？
- 地域に人が入ってこれるような基盤づくり
  - 子育て世代を地域に!!
- 市街化調整区域問題 → 空き家すぐ借りられない →空き家バンク
  - 移住してきてほしいけど…
- 借りやすく貸しやすい仕組み作り
- → 仲介役が必要 →行政、NPO!

●少子高齢化が進行している地域ということもあり、高齢者への支援も重要ではあるが、特に未来を担う子ども達が住み続けたいと思える環境づくりや、子育て世帯を呼び込むための方策を考えていくことが重要という視点で意見交換が行われた。

●地域の課題解決や移住促進の方策として、空き家を貸す方、借りる方双方のハードルを下げる仕組みづくりが必要との声も挙がった。

■恩方中学校区(C-1)【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

賛成

上恩方
8町会

NPO2つ
小津倶楽部
恩方ベース

→ 活動団体が
多くある

↓
集まれる状況はある

上恩方夏祭り

町会、PTA等
で活動

＋メンバー

→ 地域外で
上恩方が好きな
人は多い…

担い手が少ないけど、
地域外の興味のある
人に手伝ってもらう!!

●恩方地域には既に活発な地域活動を行う団体が存在し集まることはすぐにでもできる、地域外の恩方ファンにも協力してもらってはどうかといった意見が聞かれた。

■恩方中学校区(C-2)【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

青少対 — 市民
センター

育成指導員

地区の
パトロール

恩中PTA — 恩方中行事

地域の
イベント

会長制度をやめ、
4人の代表制へ

NPO法人
小津倶楽部 — 空き家手入れ
毎週土曜日
活動

市のイベント
参加

子ども会
伝統文化の継承

耕作放棄地の
活用

獅子舞たち
保存会
祭礼

獅子舞の参加
伝統文化の保
存

住民協 — 各団体の
橋渡し

市民
センター祭

●子育て関連、地域づくり関連の団体から参加があり、特定の分野に偏ることなく意見交換が行われた。

■恩方中学校区（C-2）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

PTAの担い手

- 子どもたちが忙しい!! →地域イベントにも参加ができない
- PTAの役員男女比 →圧倒的女性 イベントでは男性も数名
- PTAの保護者同士の横のつながりの希薄さ
- 仕事との両立が難しい
- 学校行事の参加難しい

良い点

- ネガティブ意見をなくしていく
- 数人でも良いので探していく
- 恩方地域で全てが完結できることをみんなに理解してほしい
- 中学校区、町自連…団体が恩方内で完結しているのが特徴
- 上の世代の方々からの圧力が無い！

子ども食堂

- 年々、減少している
- 子どもの出席人数が増えている！
- 親子で参加している

市民センター

- 空いているときに自習室にしたいが難しい問題がある
- 市民センターを子どもたちの自習スペースとして開放したい
- 学校を地域に開放しやすいように制度も変化している

その他の課題

- 先生が集まらない → 空き家を提供
- 小津町でトリミング経営 → お客さんが「小津町はいいところ」と言っている
- 古民家カフェ
- 害獣被害

スポーツ大会

- 子どもの参加
- 補助金が少ない →コロナ禍で少なくなった（青少対）

良い点

- 他団体の協力体制ができていて◎

団体の活動

- 自分が楽しみ、好きな時に参加する
- 多世代交流できる
- 活動を継続させる秘訣 ・強制しない ・自分が楽しむ
- 自分たちが楽しむ必要がある

●C-1チームと同様に、子ども、子育て世帯を取り巻く課題の共有や対応策への意見交換を中心に議論が行われた。

●その他、各団体の活動を活性化するための方策についても検討された。

■恩方中学校区（C-2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

賛成

- 横の連携に参加していない人たち・グループの参加を促したい
- 定期的に集まりサポートする
- 横のつながりはある
- 恩方地域は恵まれている
- 陶芸家、革細工など
- 地域カルテ「恩方」

反対

- 全団体が住民協と繋がっている →今更…なところもある → 定期的に意見交換をする場を、「新設」する必要性…？
- 子どもを見るコミュニティ →学校区 大人が見るコミュニティ →生活区 との差

●推進会議の設置について、今は連携できていない団体の参加を促すことができるということや、恩方地域の豊富な地域資源を活かしていくべきという意見があった。

●一方で、既に横のつながりができているにも関わらず、新たな会議体を新設することへの疑問、子どもの生活圏域である中学校区と大人の生活圏域には差があることが課題として共有された。

推進会議設置について

賛成 → 7名　　反対 → 2名

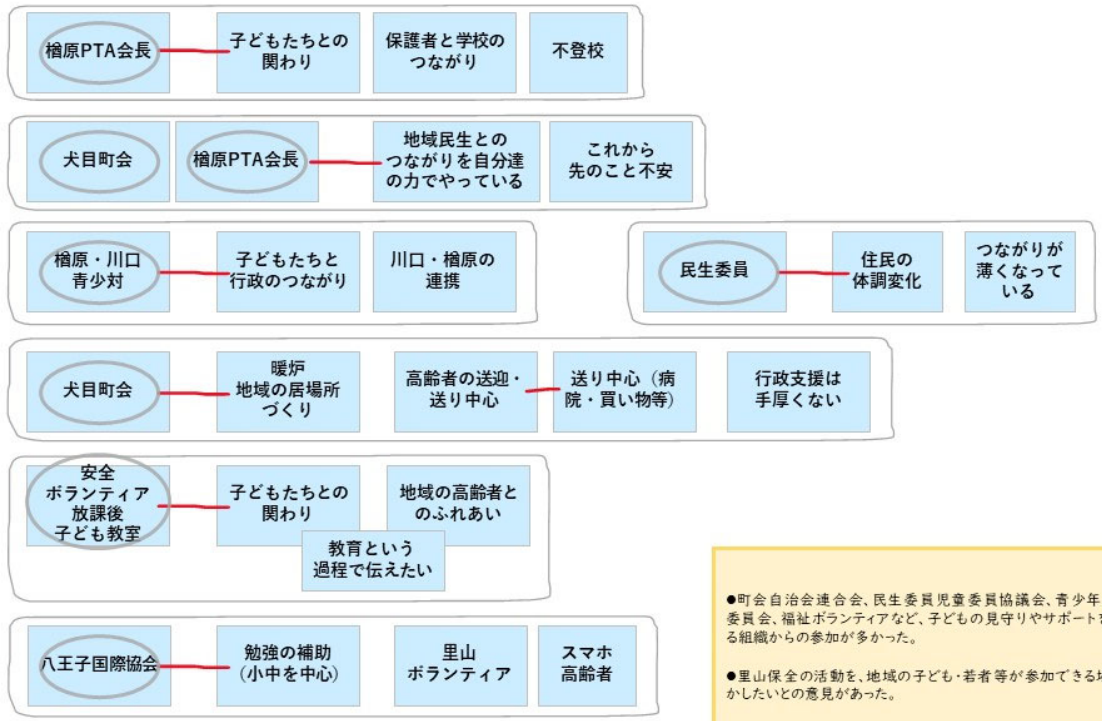
●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成である一方、反対意見の参加者もいた。

●賛成の理由としては、既に活発な活動を行っている団体のネットワークを活用して、すぐ始められる状況にあり、まずは始めてみることが重要という意見が出ていた。

●一方、既に活発な活動を行っているので新たな協議体は必要ない、これまでと変わらないのではないかという意見もあった。

■楢原中学校区（C-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

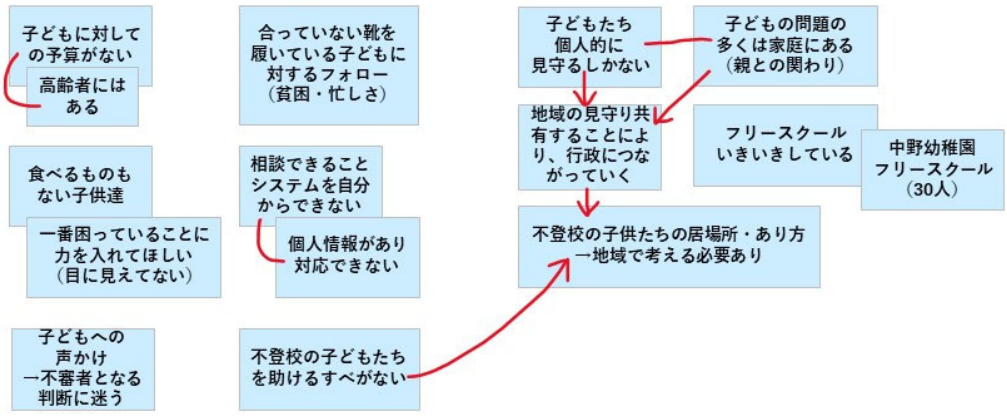


●町会自治会連合会、民生委員児童委員協議会、青少年対策地区委員会、福祉ボランティアなど、子どもの見守りやサポートを行っている組織からの参加が多かった。

●里山保全の活動を、地域の子ども・若者等が参加できる場として活かしたいとの意見があった。

■楢原中学校区（C-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



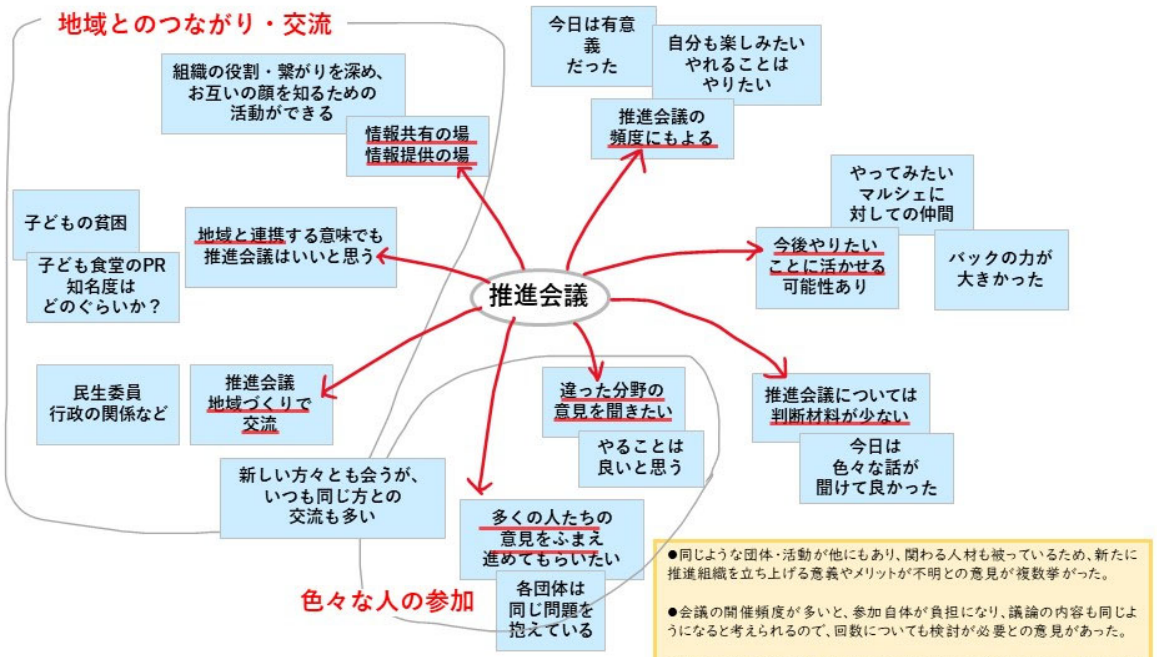
●子どもに関する活動に携わる参加者が多かったため、子どものサポートに関する話題が多く出た。行政支援が十分でないこと、不登校やひきこもりなどの子どもや家庭の状況が表れにくいため、問題を把握できず、地域で気になる子どもへの声掛けが不審者扱いされてしまう恐れがあるなど、相談機関や支援先につなげることが難しいとの意見が多く出された。

●支援を阻む背景として、個人情報保護の制約で情報が共有されにくいこと、子どもの多様性が認められにくいなどの意見があった。

●楢原にできたフリースクールの情報が共有され、地域に子どもの居場所となる活動の場があるとよい等の意見が出た。

■楢原中学校区(C-1)【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



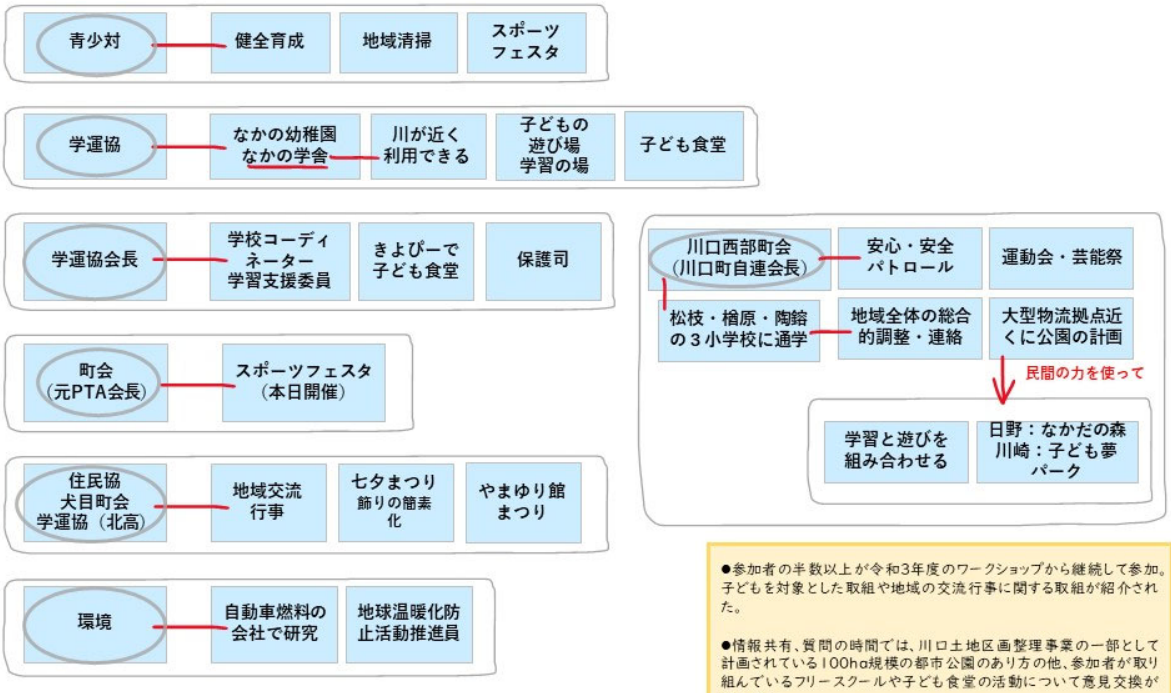
●同じような団体・活動が他にもあり、関わる人材も被っているため、新たに推進組織を立ち上げる意義やメリットが不明との意見が複数挙がった。

●会議の開催頻度が多いと、参加自体が負担になり、議論の内容も同じようになると考えられるので、回数についても検討が必要との意見があった。

●各団体とも同じような問題を抱えており、いつも集まる人とは違う人の意見が気づきになることもあるので、意見交換の場は意義があったとの評価が多かった。また、取り組みたいことがある場合、一緒に活動する仲間をつくる機会になるとの発言があった。

■楢原中学校区(C-2)【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

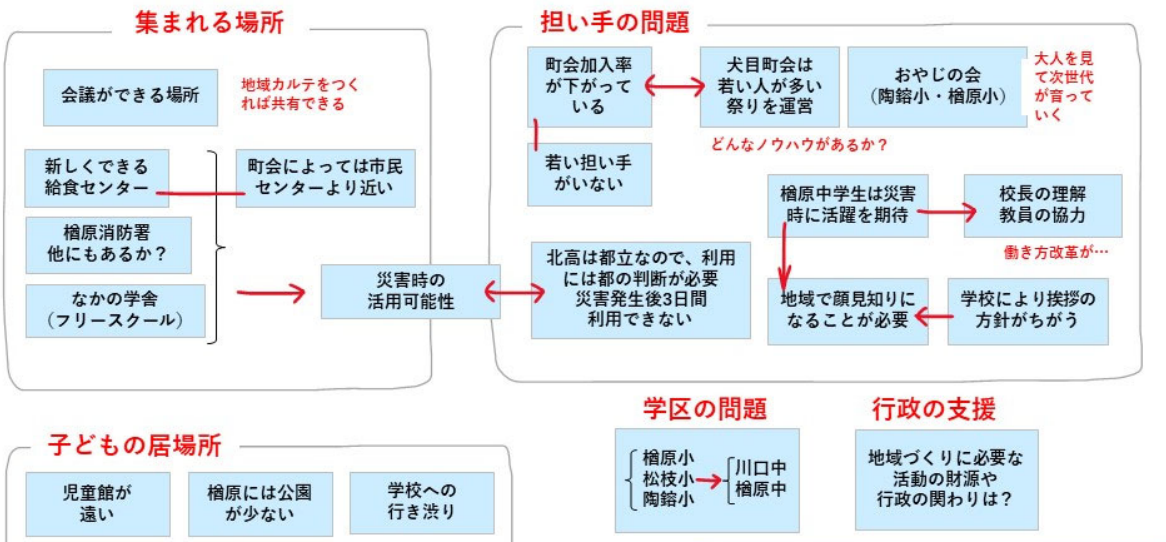


●参加者の半数以上が令和3年度のワークショップから継続して参加。子どもを対象とした取組や地域の交流行事に関する取組が紹介された。

●情報共有、質問の時間では、川口土地区画整理事業の一部として計画されている100ha規模の都市公園のあり方の他、参加者が取り組んでいるフリースクールや子ども食堂の活動について意見交換が行われた。

■楢原中学校区（C-2）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●地域で集まって会議をする場所が少ないこと、子どもの居場所が少ないこと、担い手不足・町会加入率が低いことなどが課題として挙がった。

●町会会館や市民センター以外にも地域づくりで利用可能なスペースがあること、若い担い手が多い町会もあることなどが共有された。また、楢原中学校の生徒は地域に住む若い担い手として活躍できるとの意見があった。

■楢原中学校区（C－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

C-1

・多く議論した点

- 子どものこと（貧困などの課題）
  - 行政は対応できるのか？一個人情報の扱いなど
  - 地域でできること＝居場所づくりなど学校との連携も

・推進会議について

- 会議の回数が多いと困る
- 同じ人が複数の活動を担っている
- お互いに情報共有できるのはよい

C-2

・多く議論した点

- 100haの都市公園のあり方 → 川口・楢原一緒に考えられる？（新しい動き）
- 楢原にフリースクールと子ども食堂がある → 上川口にもフリースクールができる？
- 楢原に給食センターができる → 地域の拠点として活用できる？
- 楢原中も防災など地域の要として
- 地域の若い担い手が不在 → 参加の掘り起こしを

（中学校区間の連携）

・推進会議について

- 人・場所・金の手当てに対する整理が必要

推進会議設置について

賛成 → 11名　　保留 → 3名（行政から示してほしい）

- 情報共有は意義あるが年1回で充実させる
- これまでの取組経緯の情報共有が必要
- 誰がメンバーになるのか精査が必要

●推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●判断が難しいと保留した参加者からは、情報共有と推進会議参加者の精査が必要との意見が挙がった。また、推進会議に対する行政の関与を事前に整理することの必要性も話された。

■加住中学校区（C-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 町自連
  - 安全安心まちづくり
  - 河川・道路等の管理
  - 防犯・防災・防犯灯・草刈り
  - 人と人との交流の場づくり
  - 一人暮らしが多い
- 学運協
  - PTA副会長
  - 小・中学校見守り
  - より良い学校づくり
- NPO
  - 市民協議会スタッフ
  - ハートフルフェスタ就労施設発表の場
  - マルベリー東京パイロットクラブ会長
- 小PTA
  - 学運協
  - パトロール
  - 防災訓練
  - ベルマーク活動
  - コロナ禍でできることは…
- 環境
  - 西部地区環境市民会議
  - 環境市民会議
  - 温暖化防止活動
  - 活動スタッフ不足・高齢化
  - 聖パウロ里山整備ボランティア
  - 館クリーンセンター館里山クラブ

●町会自治会連合会、PTA、学校運営協議会、環境活動、福祉系のNPO活動など、幅広い活動分野の方が参加した。

●活動範囲が加住中学校区に関わらず広く活動している参加者もおり、地元により関わるためのきっかけが欲しいと考えていた。

●高齢化の問題について話されたものの、全体的な話題としては、子ども関連の話題が多く挙がった。

■加住中学校区（C-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

子どもの遊び場

- 加住小中学校本校・分校の使い方が難しい
- 子どもの遊び場少ない
- 子ども食堂 学生が子どもに勉強を教えるなどしても…
- 学生の孤立も防げるか
- 地域の交流の場としても、加住地域にあったらよい
- 子ども食堂場所は？一加住小分校は？

里山・公園の活用

- 子ども～大人までのつながり必要
- 里山が資材置き場化している
- 里山あそび 子どもを引き入れる
- 森の中 子ども生き生きする
- 祭り・イベントするとつながりできるか？
- 里山手入れや と戸吹運動公園を利用できたら
- 地域の人を集めて運動公園もっと使う
- ドッグラン 一運動公園

滝山城跡・谷地川の整備

- 滝山城跡を環境整備し、観光地化する
- ゴミ雑草問題
- 城下町という視点
- 谷地川をきれいにする
- 谷地川 秋の川の清掃デーあり
- 春にはゴミ拾い

活動の縮小

- 丹木子ども会 担い手おらずなくなった
- 子どもがバラバラに登校
- 話をする場必要
- 部活 子ども少なくて活動なくなった
- 活動一事故のリスクある
- 親が熱心だと子どもがくる

地域の魅力

- 自然と歴史 里山魅力的
- 都心に出るにも近い
- 史跡あるのも魅力

- 住民協に若い人を引き入れたい
- 若い人と交流を深めたい

●加住中学校区は自然・歴史・史跡がありつつ都会に近いという立地的なメリットがあるという認識。一方で、地理的特性による生活への影響が大きいとの意見も多く出された。

●「子どもの成育・学習環境を増やす」「戸吹運動公園・里山の活用」「滝山城跡の活用」といった内容への意見が多く出された。戸吹運動公園にドッグランをつくるなど、既存の使い方にとどまらないアイデアもあった。

●地域には大学生も多いため、そのような若手を活動に引き込むことで交流を深め、担い手確保と学生の地域での孤立も防げるという意見も出された。

■加住中学校区（C-1）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について（C-1）

賛成

- 集まって話さないと何も進まない
- 進めていくことが必要
- 話をする場があるとよい
- 話し合いをして加住の魅力を生かしたい
- コラボ解決の場になる

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●集まって話さないと何も進まず、集まることで団体同士のコラボレーションや課題解決、地域の魅力活用につながるなど、プラットフォームとしての必要性が意見として出された。

■加住中学校区（C-2）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 住民協
  - 町会での交流
  - 広報誌の発行
  - 農家への社会科見学
- 小PTA
  - 戸吹の理事
  - 子ども会町内イベントへの参加
  - はちネコ
    - 保護猫
- 青少対
  - 住民協副会長
  - 滝山城址の発展イベント・清掃
  - 放課後子ども教室
  - コロナでイベントができない
  - シニアクラブ発展しない
  - 畑作業体験裏山整備一山遊び
- 中PTA
  - 小・中に関すること
  - 学校行事協力
  - パトロール
  - 登下校見守りベルマーク回収
  - 青少対朝のあいさつ
    - 顔の見える活動
- 福祉ボランティア
  - 学校コーディネーター
  - 環境への配慮
  - 土づくり
    - 裏山の枯葉や残食（米ぬか）などを使って土づくり
  - 日本の伝統文化
    - センターまつりへ児童・高齢者の作品出展
  - 地域との交流
    - 子どもと高齢者の交流
- 市史編纂地区の年表づくり

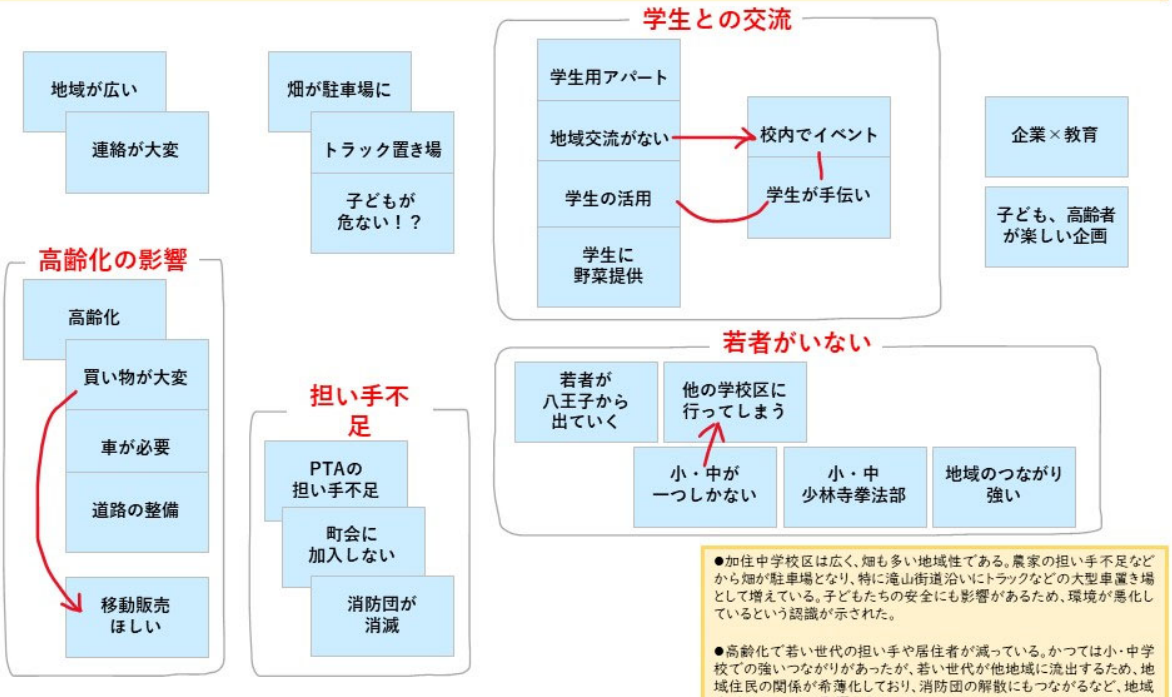
●住民協議会、青少年対策地区委員会、学校コーディネーター、PTAなど、主に子育て関連の活動をする参加者が多かった。

●中には自身の団体の活動について、意見交換会でより知ってもらいたい、活動のヒントが欲しいという参加者もおり、このような意見交換の場への期待感も伺えた。

●里山を整備した子どもたちの山遊びや、山の落ち葉などを使った子どもたちの土づくり活動など、里山を活かして子どもの活動に結びつけている参加者も複数おり、里山が加住地域の特徴である様子が伺えた。

■加住中学校区（C-2）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



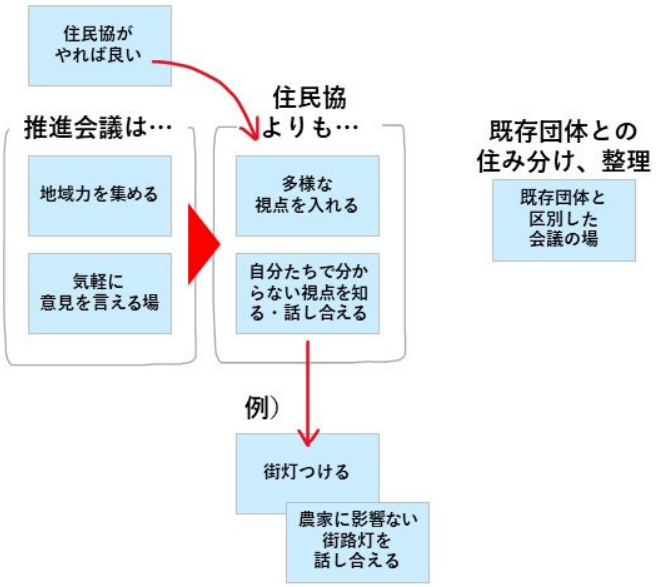
●加住中学校区は広く、畑も多い地域性である。農家の担い手不足などから畑が駐車場となり、特に滝山街道沿いにトラックなどの大型車置き場として増えている。子どもたちの安全にも影響があるため、環境が悪化しているという認識が示された。

●高齢化で若い世代の担い手や居住者が減っている。かつては小・中学校での強いつながりがあったが、若い世代が他地域に流出するため、地域住民の関係が希薄化しており、消防団の解散にもつながるなど、地域生活インフラへの影響も出ている。

●学生が多く居住する地域であり、学生にこちらから働きかけることでつながっていくことの必要性も聞かれた。

■加住中学校区（C-2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



既存団体との住み分け、整理

既存団体と区別した会議の場

●住民協議会などとの棲み分けをはっきりし、より広い・多様な視点から気軽に意見を述べることができる場である必要がある。

●様々な背景の住人がおり、推進会議のような場にそれぞれの立場からの事情を持ち寄ることで、よい解決策にもつながるのでは、と前向きな意向が示された。

■加住中学校区（C－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 全員（10名）

こんなことができる

- 地域の課題が話し合える
- 地域の課題を集める
- → 地域ニーズを聞ける場
- 横のつながり、コラボのためにも、会議あるとよい
- 自然・歴史・里山・滝山城址・都心に近い立地を生かす
- 地域のアピール
- 各団体の発表の場

既存団体との住み分け

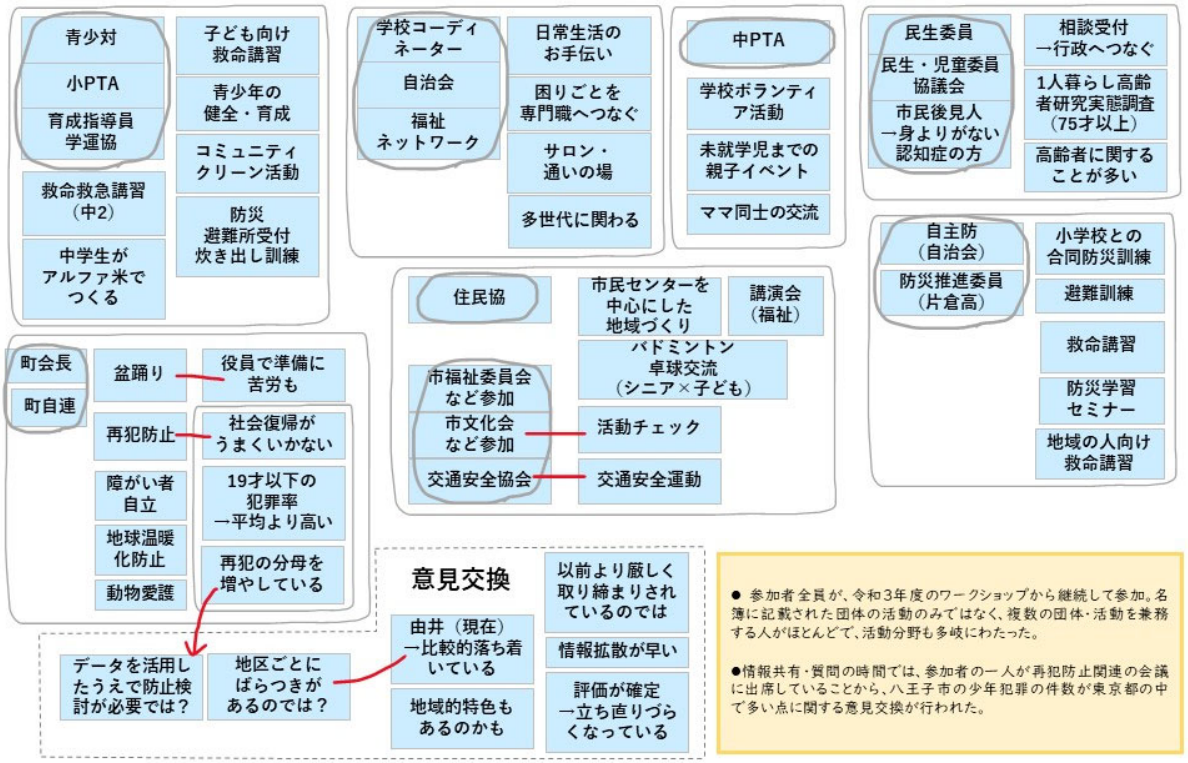
住民協の活用？

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●一部の参加者からは住民協議会の機能を強化していけばよいのではないかという声も聞かれたが、それら既存団体との棲み分けをしたうえであれば地域課題の話し合い、ニーズの収集、連携などが期待できる場になり得ると賛意が示された。

■由井中学校区（B）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

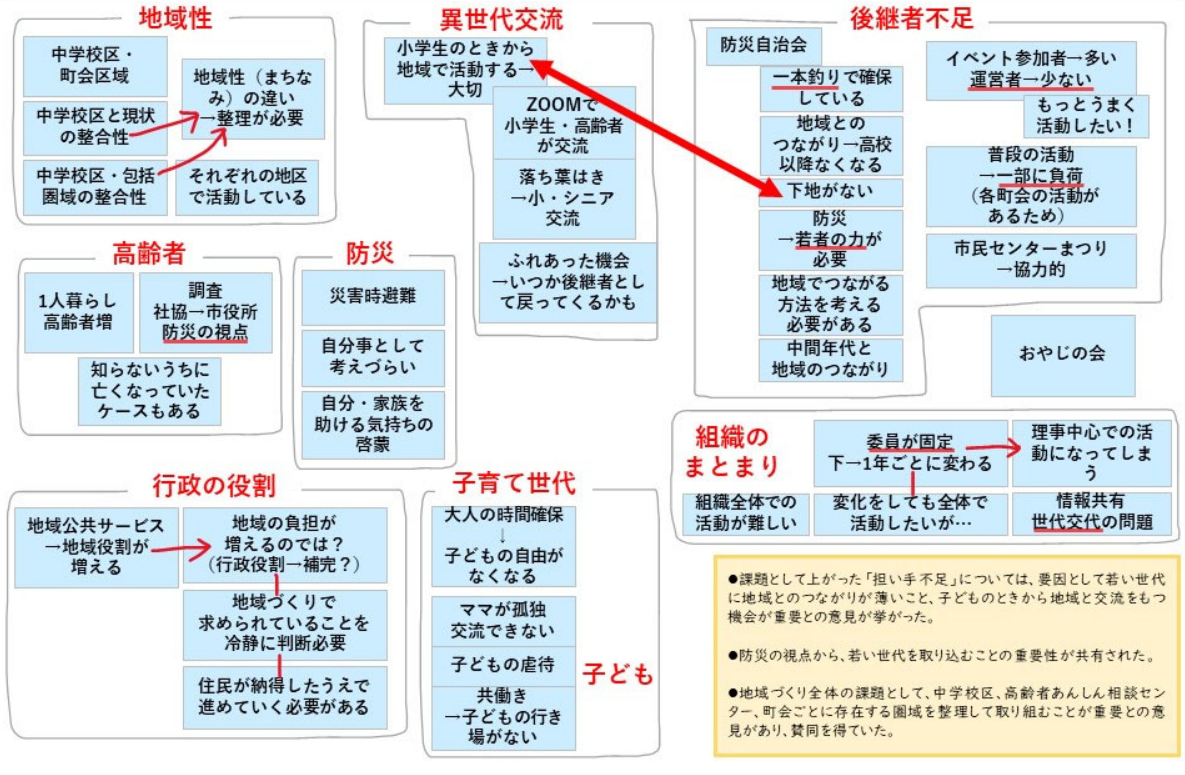


● 参加者全員が、令和3年度のワークショップから継続して参加。名簿に記載された団体の活動のみではなく、複数の団体・活動を兼務する人がほとんどで、活動分野も多岐にわたった。

●情報共有・質問の時間では、参加者の一人が再犯防止関連の会議に出席していることから、八王子市の少年犯罪の件数が東京都の中で多い点に関する意見交換が行われた。

■由井中学校区（B）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●課題として上がった「担い手不足」については、要因として若い世代に地域とのつながりが薄いこと、子どものときから地域と交流をもつ機会が重要との意見が挙がった。

●防災の視点から、若い世代を取り込むことの重要性が共有された。

●地域づくり全体の課題として、中学校区、高齢者あんしん相談センター、町会ごとに存在する圏域を整理して取り組むことが重要との意見があり、賛同を得ていた。

■由井中学校区（B）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 5名　　反対 → 2名

人材発掘

- 複数団体（分野）に1人で関わっている
- 兼務
- 動ける世代 ー共働き（＝できない）→ 子育てが終わった世代が参加

- 2040年に向けて
- 何を望んでいるか
- 若い人の意見

メンバー構成

- 子どもの意見
- 夢
- 子どもの目線
- 子どもの方が大人より未来を考えている
- 会議に中学生（子ども）を
- 中学生と大人のフォーラム

- 学校の敷地 ー地域活動で活用（バザーなど）
- イベント
- 集いの森（集まる場）
- 戻ってきたい街

- 進むべき方向性がわからない
- 一緒にやる雰囲気が足りない
- シームレス
- 普段からつながりを

●推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、反対する参加者もいた。

●参加者に推進会議の目的や位置づけなどが十分に伝わっておらず、行政のやるべき仕事を押し付けようとしているのではないかとの意見もあった。

●長期的な視点で地域のことを考えるため、今後の当事者となる中学生等の若い視点を交えて議論を進めることが重要との意見もあった。

●参加者の多くが既に複数の役職を兼務しており、会議を進めるに当たっては、メンバー構成の工夫、新しい視点を加えることが指摘された。

■打越中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 町自連
  - 町会顧問
  - 老人会
  - 老人会との交流
  - 清掃活動
  - 町会内での情報交換
- 民主協
  - 地区会長
  - 民生委員 地域住民の相談
  - 高齢者実態調査 → 来年、民生委員が高齢者の実態調査
  - 福祉全般の啓発
- 小PTA
  - 子どもの成長サポート
  - 保護者と学校の連携
- 公募
  - ・卓球 ・保育（ファミサポ）
  - 保育のファミリーサポート
  - 居場所づくり
- 中PTA
  - 地域のイベントとの連携
  - 子どもたちの安心安全活動
  - 育成会
- 住民協
  - 町会会長 住民協会長
  - 高齢者支援
  - 清掃活動
  - 災害時の支援者のリストアップ
  - 地域力の向上
- 学運協
  - 由井第一小の放課後子ども教室
  - 子ども食堂
  - 外国籍の子どもの地域とのつながり
  - 多文化共生
- 国際
  - 外国人の支援
  - 八王子国際協会
  - お互いに助け合える多文化共生
- NPO
  - 中間支援（団体立ち上げ）
  - 団体活動の支援
  - 情報のマッチング
  - 高齢者のフレイル予防
  - 障がい者支援

●町会自治会連合会、民生委員児童委員協議会、PTA、学校運営協議会、NPO法人（八王子市全体の団体活動の中間支援）、ボランティア（子ども食堂）、外国人支援、高齢者の居場所づくり（卓球）に関する方が参加。

●質疑応答の際には、主にNPO法人の活動（情報発信方法等）、民生委員児童委員の個人情報の取り扱い状況について、参加者の関心が高い様子が伺えた。

■打越中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

個人情報

- 町会と民生委員の情報共有がされていない
- 共有には支援団体の登録が必要
- 情報が支援者にも助けがほしい人にも届かない
- 支援団体は現在2団体
- 会議の場で情報を共有・つながる
- 個人情報を含め情報の集約が必要

地域の支え合い

- 団体が消滅していく
- 担い手不足
- ボランティア活動の参加者の減少
- 地域力の低下
- 地域の繋がりの希薄化
- 世代が分断されている
- 自発的にコミュニティ作るの難しい

- 働き方の問題が背景
- 保護者が子ども会に入らない
- 地域の価値を知らない
- デメリットしか見えない
- 生活にゆとりない
- 子ども・子育て世帯が地域とつながりがない
- 地域ブランドに気づけていない
- 地域に魅力を感じていない
- 困っていても助けを求めない
- 子育て家庭が孤立
- 子育て家庭を地域に出していく
- 子どもたちの中に地域への愛着がない
- つながりを地域でつくらなければならない
- 地域は支援する力がある
- 打越は学校が異なり子ども同士知らない
- 子ども食堂のボランティア200人
- 学校ごとの連携があると良い
- 登録者1,300人（子ども食堂）
- 学校ごとの連携

多様性

- 考え方や立ち場様々な方がいる
- いろんな考え方
- 多様性の中でそれぞれの役割を考える
- 互いに支え合う感覚
- 自分の生活がいっぱいいっぱいの人は繋がりが難しい人もいる
- つながる暇がない!!
- PTAも改革進んでいる（役員制の廃止検討）
- PTAの改革の推進

資源

- 子どもの力を借りてもいい
- 地域のために活かす力
- つながりたくなくても、つながると助かることある
- 外国人も助ける力ある
- 地域に力のある人がたくさんいる
- 高齢の人でスキルを活かしたい人多い

居場所

- 子どもが居場所ない
- 各世代が集まる場ない
- 居場所（行政）があっても行かない理由
- 子どもが集まる場所などを（お金がかからない）
- 交流ができる仕組作り
- メリットがあるところにしか行かない
- 子どもに寄り添った活動
- 担い手不足もメリット作れば解消に

災害

- 長沼は水害が危険
- 避難する場所もない
- 長沼はハザードマップの3Dあるが危機感ない
- 安否確認はできるが、実際に避難を支援する人いない

●活動をする中で感じている課題として、担い手の不足とその背景となる地域のつながりの希薄化（若い転入者や子どもとその保護者が地域とつながる必要性を感じていないこと）などが挙がった。また、若い世代や外国人などは、実際に困窮していたとしても、地域とのつながりがないために助けを求めることができない面があること、また、地域の活動に関心を持つ余裕がない人が多いといった指摘があった。

●一方で、高齢者を中心に、地域のために何かしたいと考えている方が多いこと、参加の仕組を作れば子どもたちも地域の活動の担い手になれるのではないか、といった意見があった。若い世代の参加を促すには、参加するメリットを示す必要があるとの意見も挙がった。

■打越中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

やってみたい（条件つき） → 5名　　難しい → 4名

条件：

- 目的を明確化
- 若い世代も参加
- メリットがあること

設置のポイント：

- 推進会議の目的をしぼる必要あり → 担い手不足（テーマ）
- 課題をいくつかのステップにわけて考えた方がよい → 担いたい人がいるが出てこない
- 知恵を出し合う → 楽しくないと続かない → 目的を明確化
- 今までのように情報交換だけではダメ

課題：

行政

- 市ができないことを市民に丸投げしている印象がある
- 市民と行政の協働でないとできない → 行政の声が聞こえてこない
- 行政の役割はネットワークを提供すること → 例）行政がコミュニティカレンダーを配布
- 小さい団体は広報が難しい

参加

- 人選を考える必要ある
- 学生など若い人に入ってもらう必要あり
- 子どものボランティア活動参加
- 各団体から出すというやり方は難しい
- 自分たちの仕事で手一杯

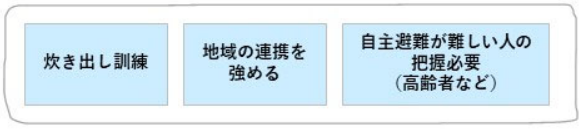
●推進会議の設置について、条件付きで参加者の半数以上が賛成だったが、反対する参加者もいた。

●推進会議の活動内容（カルテの作成等）、その目的が明確でないことが指摘された。現在の活動が忙しく推進会議への関与は難しいとする参加者もいた。

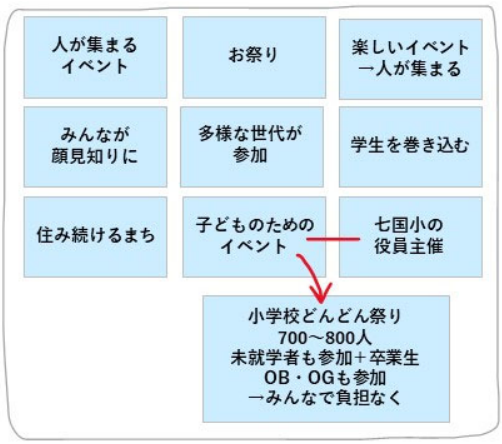
●なお、参加しても良いとした人も、参加するメリットや価値が示されることが条件として挙げられた。

■七国中学校区（C）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会







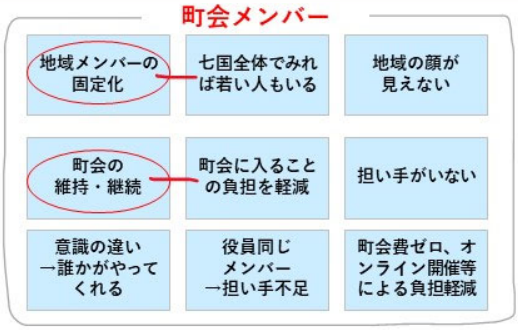
●参加者は、町会自治会連合会、民生委員児童委員協議会、学校運営協議会からの参加であり、いずれも日頃から地域活動に積極的に参加し、地域の会合・活動現場で頻繁に顔を合わせる間柄であった。

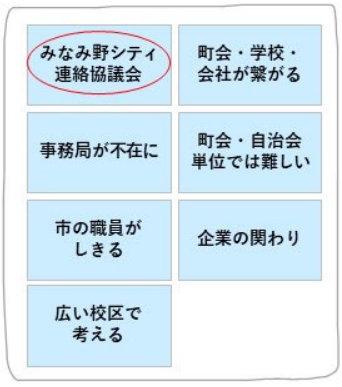
●活動内容は、高齢者や子育て世代等の孤立している方々の集まる場づくり、安否確認、清掃・防災活動など多岐にわたり、地域活動を通じて、住民同士が顔見知りになる機会を創出していた。

■七国中学校区（C）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

町会メンバー







イベント開催



●活動上の課題として、メンバーが固定化し、担い手が不足していることが挙がった。若い世代や企業など多様な人に参加してもらうことで、特定の人に集中している負担を軽減することが必要。それによって活動の維持・継続が図られるとの意見が多く挙がった。

●避難訓練やお祭り・イベント等を通じて、住民同士の関係性を構築し、地域活動への参加を促してきたが、新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止しとなり、活動の継続が不安視されている。

■七国中学校区（C）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

設置してもよい → 全員（3名） ⇒設置の方向で考えていく

- 多様な人々で運営する
- 会議の継続性の向上
- 関わるいろんな人を集める
- 地域に住んでいる大学生に参加してもらいたい
- 会議体に多様な世代、学生、企業の意見を聞きたい、巻き込みたい
- 新しく入ってきた住民の参加

- みなみ野との連携
- 以前はみなみ野と七国で一緒にやっていた
- みなみ野と七国は双子みたいなもの
  ↓
  みなみ野の状況・意見を聞いてみたい
- みなみ野シティで一緒に活動している
  ↓
  一緒に活動した方がよいのではないか？
- 組織のイメージ「みなみ野シティ連絡協議会」が近いのではないか

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●地域活動に参加するメンバーが固定化されつつあるため、推進会議を立ち上げるのであれば、多様な世代・団体から参加を募り、より多くの人に関わってもらうようにしたいとの意見が強くあった。

●組織イメージとして、住民、自治体、企業を巻き込んだ「みなみ野シティ連携協議会」が参考になるとの意見があった。先行して取り組んでいるみなみ野中学校区の取組に関して、取組状況の共有・意見交換への関心があった。

■浅川中学校区（A-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

住民協議会 / 年2回 広報誌 / 幅広い 年代サポート / 次世代 後継者問題

（PTA会長） 災害支援 / 青少年育成 / キャンプ 事業

民生児童委員 / 子どもの 活動 / 関係機関との 連携 / 学校支援 / ひよこクラブ

青少年育成 学運協 / 青少対の 活動 / 学運協 漢検・英検

●青少年対策地区委員会やPTAなど、子どもに関する活動をしている人が多かった。

■浅川中学校区（A-1）【課題、地域全体で共有したいこと、推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

民児協：参加者 少ない / 活動の 広報 / 年代ごとの 発信方法

大人 子ども ちぐはぐ

青少対：担い手不足 / 声かけしても 難しい / 引き受けたく ない空気感 / 若い芽が 育たない / 構成人員 決まっている

PTA：人脈 住みやすさ感じる / 地域参加 消極的… / 輪を広げる 難しさを感じる

町自連：担い手 不足 / 消極的な人が 多すぎる / 役を 抜けられない / 子ども会 4町会… / 子どもが 減っている

悪いことが フィーチャー されやすい / 行政区の 見直し

町会のお祭り コロナで 減少 / 行政区域と 子どもの通学 区域ちがう

地域全体で取り組まなければ

推進会議設置について

難しい：また役が 増えて しまう…

やりたい：地域全体の 課題解決

- 活動内容 リーフレット
- イーアス高尾 に置く
- 興味があれば みんな見る
- やりたい人が いるのではないか
- メリットを 伝える
- おやじ会で イメージチェンジ（PTA）
- 浅川市民大運動会 50年続くもの

●担い手不足が共通の課題であり、地域活動に消極的な人が多く、輪を広げる難しさを共有した。

●現状は同じ小学校に通っていても住んでいる地区によって参加できるイベント（お祭り等）に制限があり、地域活動の活性化を図る上で、子どもの視点を踏まえた行政区の見直しが必要との意見があがった。

●推進会議の設置に対して、地域の担い手不足から役割が増える負担感を指摘しつつ、地域全体の課題解決につながるなどの意義やメリットを考えたいとの意見があった。

■浅川中学校区（A-2）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

国際協会
外国の方の
支援

小学校の通訳

活動拠点は
第三小学校

日本語が
話せないと
消極的に

通級
学級

はちねこ

200～300
殺処分…

クラウド
ファン
ディング

千人町
保護施設

ねこに餌

カラス
狸
来る

保健所
把握済み

猫問題
→精神状態
猫
隠させない

敷地内で
餌一部
公道

引き取りも
去勢避妊
団体自費

住んでいる
地域だと
言いづらい

市では
無料で
手術できる

育成指導員
学運協

学生の支援

小学校
授業補助

元中学校
PTA

保育園

子ども
多様性
課題

保護者との
つながり

住民協議会

コロナ
台風

活動
難しい

市民センター
まつり

密
避けて

●青少年育成や学校支援など、子どもに関する活動をしている人が多かった。

●外国人の子どもに対する学校での言語サポート、保護猫活動について、今回初めて知った人も多く、活動内容に関する質疑応答が活発に行われた。

■浅川中学校区（A-2）【課題、地域全体で共有したいこと、推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

住民協議会

高齢化

新しいこと
できない

陶芸
→増えている
他は増えない

増える方法模索

陶芸窯は増

外国人

労働力減少
外国人の力
必要では

日本住みやす
いと思っても
らえるような

外国人児童

保護者が外国
人の子ども
→トラブルあ
る

全ての生徒に
関われない

語学の問題と
精神的な
問題と

外国にルーツのある子
英語はできるがほかの
ことついていけない

少子化で
場所余って
いるはず

市が実態に
追い付けてないかも

外国にルーツ
のある中学生
国語難しい

コミュニ
ケーション
難しい

心を休ませる
場所

外国の子
集まれる場所
もっとあれば

支援してくれ
る人はいるが
場所がない！

ボランティアさん
学校（行政）
との連携

関わって
いなければ
知らない話

町会・自治会

地域の繋がり薄い。
何かあったとき…

町会・自治会
入っていない人の
フォローは？

町会入っても
役員やりたく
ない

町会の
イベントがあると
新しい人が参加しやすい

イベントあれば会員が増える
運動会 良いかも

メンバー

バラエティに
富んだメンバーが
良いのでは

どこに
出席しても
同じメンバー

「地域の活性化」
このメンバーで
良いのか？

浅小
150周年 !!

推進会議設置について

賛成 → メンバー構成大事
地区らしさを作るには良い

難しいかも → ゴールがはっきり見えない

●全体として、団体メンバーの高齢化、各団体の顔ぶれが同じなど、活動する人が縮小し担い手不足との指摘があがった。

●外国語を話す子どもへの支援体制の充実について話し合われた。

●地域のつながりを強くするために、参加しやすいイベントなどを考える必要あるとの意見があった。

●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、反対する参加者もいた。メンバー構成が大事との意見や定期的な参加が難しいため、会議ではなく現場主体で活動したいとの声があった。推進会議に移行する目的がはっきり理解できないとの意見もあった。

■浅川中学校区（A－1，2）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 8名　　難しいかも → 1名

- しっかり情報共有
- 大事では？
- 団体紹介 リーフレット ほしい
- 団体単位で作ってみては？
- 浅川・陵南 2つで1つ では？
- 人手不足 知ってほしい

●推進会議の設置について、ほとんどの参加者が賛成だったが、反対する参加者もいた。

●地域全体で情報共有して課題解決に取り組むことが重要との意見が多く、その上でメンバー構成が大事との指摘があった。

●地域の担い手不足から会議参加の負担を懸念する意見、推進会議の目的がはっきり理解できないとの意見もあった。

■陵南中学校区（B）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

町自連・町自

- 3年間活動ができていない
- 夏祭りのこれまでの資料をまとめた

民児協

- 73才以上独居の見守り役
- 町会で高齢者サロンコロナで中止も
- サロンへ新しい方に来てもらいたい

小学校PTA

- 学運協やPTA会合へ参加
- 小さい子は学童→ゆくゆくは放課後子ども教室
- PTA活動に消極的な方が多くなっている
- 地域の情報共有
- 学校行事の参加・手伝い
- 子どもたちのための学校行事へ参加を

町会・民児協・学運協・青少対の日頃のつながりは「密」月2回会うなど

青少対

- 学期はじめのあいさつ運動
- コロナによる企画倒れ→顔がわからなくなる
- 10月に防災訓練小中学校の参加促し
- 防災→自分たちの問題として意識をUP！
- 防災クイズ商品はキャンプ飯
- 去年から防災訓練を各団体合同で実施。子どもも入って開催へ

住民協

- 地域総合型スポーツイベントの企画
- 総合型スポーツは全世代向け
- 放課後子ども教室はイベント色々（ボッチャ・グランドゴルフ・年賀状作り…）
- 放課後子ども教室「○○派」あり通わせづらさも…
- 放課後子ども教室の運営
- ミニテニス（ネオテニス）グランドゴルフ
- 団体減少。次世代の方の参加が課題

●町会自治会連合会ほか、子ども・学校関係、高齢者関係の活動をしている方が参加した。

●新型コロナウイルスの影響により活動ができていないこと、活動への参加者・担い手不足への懸念を共有した。一方で、各団体は日頃のつながりがあることが確認された。

■陵南中学校区（B）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

メンバーの固定化

- 青少対 どの会議でも顔ぶれ同じ→これが課題
- サロン メンバー固定。お手伝いの方も固定
- PTA メンバー固定化が課題
- 町自連 メンバー固定後継者問題

時間の問題

- 時間の再検討 平日の夜など…
- 学生の出やすい時間・曜日など
- 日曜日に時間を作るのが大変（多世代には）

アイディア・工夫

- この地域を何とかしようと思う方々の掘り起こしが大事
- 知られていない
- 知ってる人はたくさんいるが「知らない人」との出会い方
- 祭り伝統 せっかく若い人入ってもコロナでできず（涙）
- 若い世代のピックアップ
- 「機会」がないと身が入らない（伝統事 獅子舞）
- サロンへの参加促しにお誘い訪問へ
- サロン来てもらうための工夫→「関心事テーマ」で。口のケア、詐欺被害など

PTA

- 小P活動 周りの方々に教えてもらって活動している
- 補助金カットの課題。活動しづらさ
- 小P活動 他団体との接点少ない
- PTAを地域に託してはどうか？
- 声かけ誘いしたくても情報がない
- 個人情報の「壁」
- わが町に小学生○人・中学生○人の情報がない
- 敬老の集い 一人暮らし交流→情報が来なくなった
- PTAは「親が担う」→なり手がいない

●各団体とも、担い手の固定化や確保、個人情報の保護が壁となりつながりが持ちづらいことが課題として挙がった。

●会議の時間変更（平日の夜など）、地域での取組（PTA活動など）、人材の掘り起こしや活動を知ってもらう工夫（テーマ設定など）について意見が出た。

■陵南中学校区（B）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 全員（5名）

夢を語る

- 推進会議は必要→「夢」がほしい
- 前向きに何ができるか考える
- ドラえもんの世界のような5年後、10年後の夢を語ってほしい
- ある程度「集まる機会」が必要
- 夢を語る人が必要

フレッシュな意見

- 若い世代の意見を聞く機会・場をもちたい
- 役員のみならずメンバーなどフレッシュな意見も必要
- 伝統などを地域で教える・引き継ぐ・残す機会が必要

まとめ役

- まとめ役（団体の）
- 地域の「まとめ役」的なものとして推進会議を

現状

- 地域全体を考える会議の「場」がない
- 自分の町会（狭い地域）の充実が大事

住民協の課題

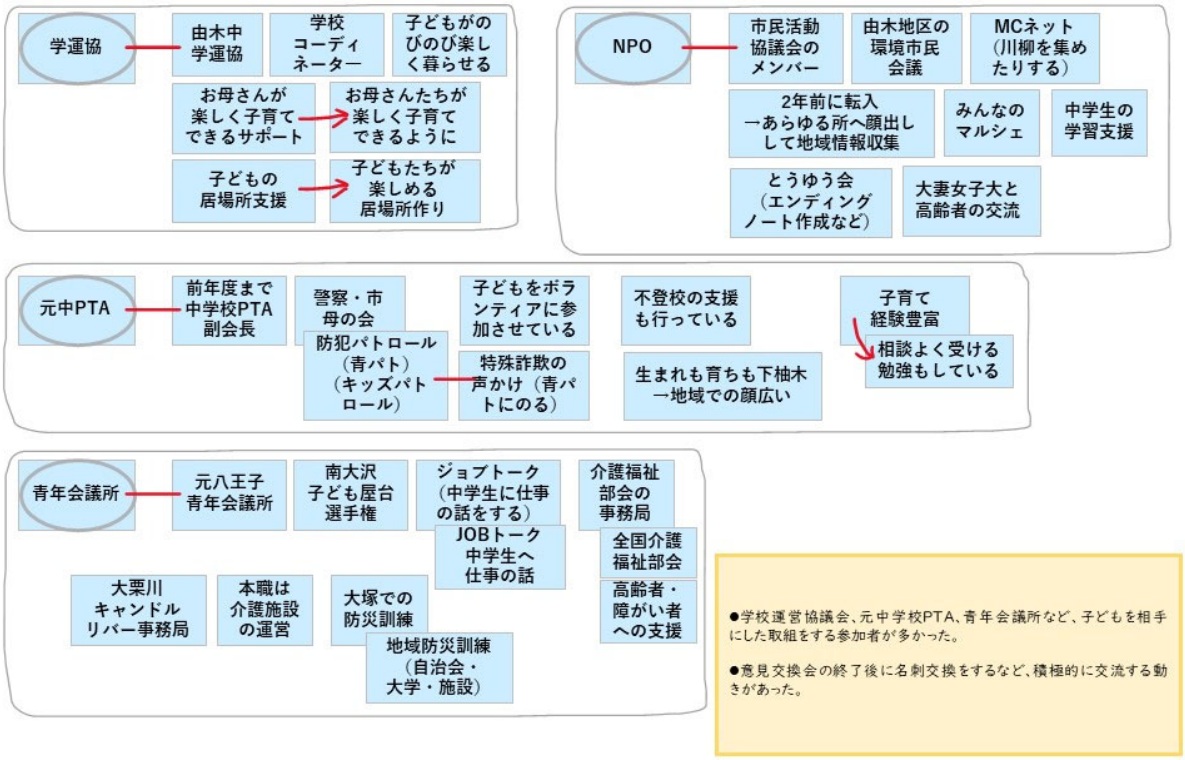
- 住民協は地区横断的団体だが、「目の前の行事」だけ考える。手いっぱい
- 「飲みニケーション」も今はない
- 顔見知りの地区以外（遠くの地区）には行きづらい
- コロナ禍で団体への関わり方・繋がり方がわからない方々が多い

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●地域全体を考える場や機会がないという課題から、若い世代の意見を取り入れて将来の夢を語り、地域をまとめていく取組として推進会議の設置が前向きに検討されていた。

■由木中学校区（A-1）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

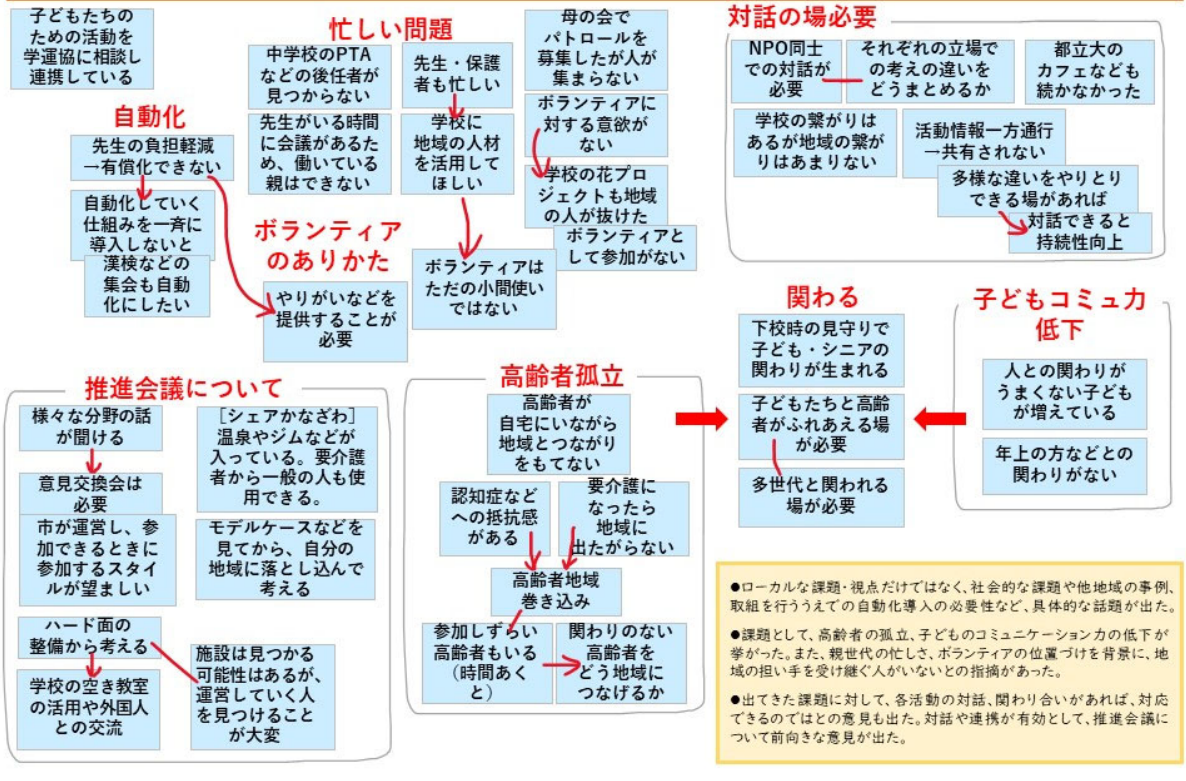


●学校運営協議会、元中学校PTA、青年会議所など、子どもを相手にした取組をする参加者が多かった。

●意見交換会の終了後に名刺交換をするなど、積極的に交流する動きがあった。

■由木中学校区（A-1）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



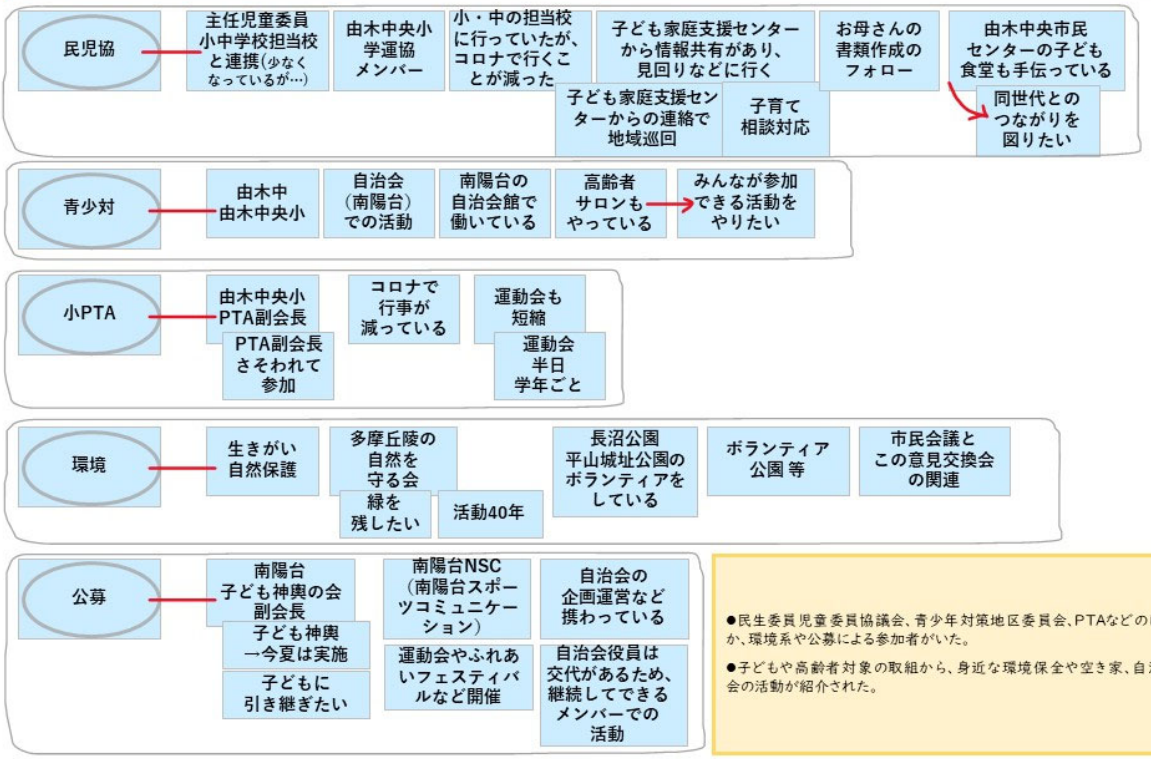
●ローカルな課題・視点だけではなく、社会的な課題や他地域の事例、取組を行ううえでの自動化導入の必要性など、具体的な話題が出た。

●課題として、高齢者の孤立、子どものコミュニケーション力の低下が挙がった。また、親世代の忙しさ、ボランティアの位置づけを背景に、地域の担い手を受け継ぐ人がいないとの指摘があった。

●出てきた課題に対して、各活動の対話、関わり合いがあれば、対応できるのではとの意見も出た。対話や連携が有効として、推進会議について前向きな意見が出た。

■由木中学校区（A-2）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

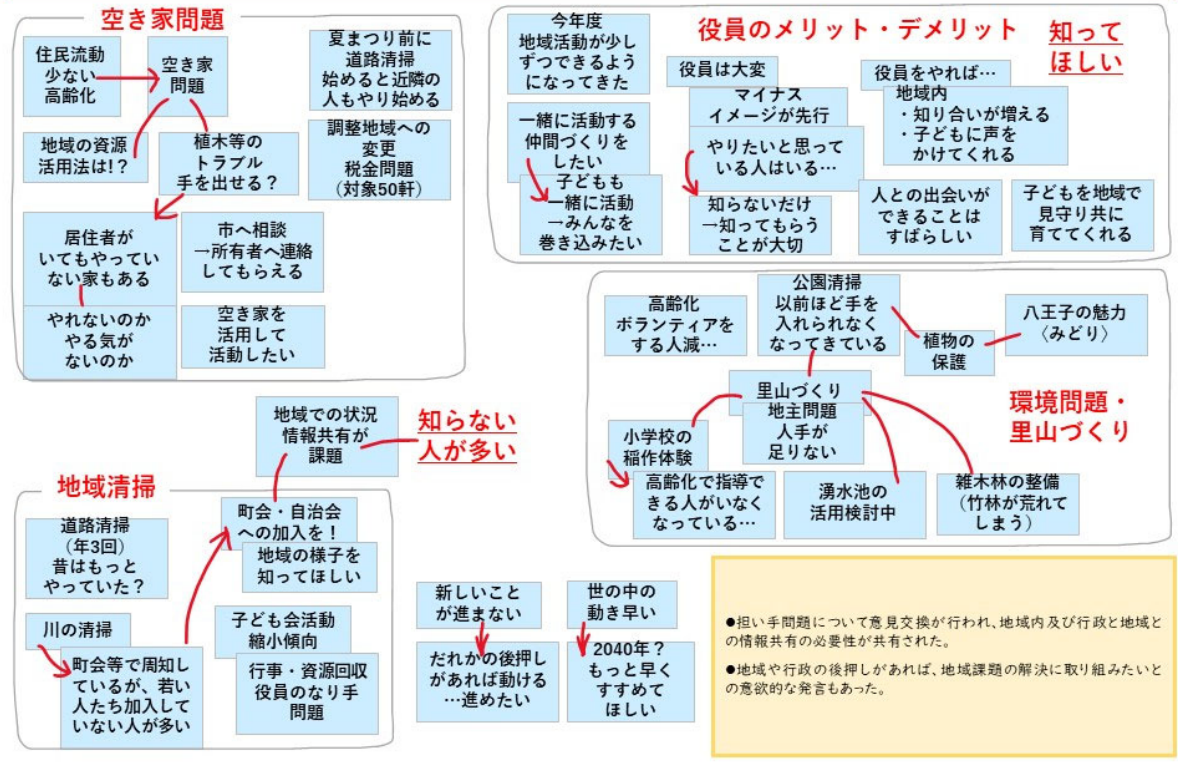


●民生委員児童委員協議会、青少年対策地区委員会、PTAなどのほか、環境系や公募による参加者がいた。

●子どもや高齢者対象の取組から、身近な環境保全や空き家、自治会の活動が紹介された。

■由木中学校区（A-2）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●担い手問題について意見交換が行われ、地域内及び行政と地域との情報共有の必要性が共有された。

●地域や行政の後押しがあれば、地域課題の解決に取り組みたいとの意欲的な発言もあった。

■由木中学校区（A-1,2）【推進会議についての意向】

推進会議設置について

賛成 → 8名

既存団体と違うものならば… 賛成 → 1名

いろいろな場所・団体の課題
→情報共有
→連携すると解決にもつながる

多様な人が参加し話し合える場
市⇔地域　共有も

事例を学ぶ

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●推進会議を多様な参加者と行政が構成することで情報共有や連携が促進され、課題解決につながるという、前向きな反応が見られた。

■松が谷中学校区（A）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

- 松が谷小学校PTA 子どもと関わる仕事
- 地域パトロール ネオテニス 焼き芋大会
- 松連協 納涼祭 パトロール
- まつまる 複合施設 SNS 実行委員 チラシ
- まつまるのスペースで異文化コミュニケーション（由木東は学校から遠い）
- 民生児童員（3年ごと） 19地区　月に1回は地域まわり 高齢者・子どもの問題を行政につなげる
- 一人暮らしの高齢者の見守り 昼食交流会 60人
- 東中野理事 自治会費 行事の保存 子どもに育成
- モノレールのおかげで松が谷近くなった
- （市民センターにて） ベトナム茶会 松が谷町づくり 多世代多文化交流
- カルチャースペース 英語教室 まつまるで行いたい（賃料が高い）
- 松連協代表 納涼会 今年× 企画はしていたが
- 青少対 地域と学校の繋がり 小中高の保護者
- ネオテニス　ボッチャ 地域音楽祭（30年） 地域の親に聞いてもらう目的
- 花いっぱい運動 パトロール
- 松が谷PTA 来年は音楽祭行う
- 子どもと学校のサポート 行事の手伝い 青少対のお手伝い 中P連の活動も行っている
- 子どもの希望を叶える 高校のデータベース作成

●PTAの方は活動に積極的で色々取り組みたいという思いを持っていた。また、連絡ツールとしてLINE WORKSを導入し、何をやっているかを見える化するなど、新しい視点での取組をしていた。市内の全中学校と連携して高校選びのための情報を整備したい考えもあった。

●清掃活動の呼びかけを全戸配布するなど、地域に根差した取組を行っている方がいた。多文化共生の活動団体からは、固定した活動場所が欲しいこと、もっと情報を広めたいとの意見もあった。

■松が谷中学校区（A）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

スペースの問題

- ・スペース（まつまるに期待） ・関心・興味を持ってもらうこと大変
- ・まつまると市民の集会所（学生も利用できる） ・要望聞いてもらえない（JKK）
- 松が谷は八王子市の中でも特別な地区 多摩センター生活圏
- コミュニティネットワーク協会、JKK話し合ってスペース確保（住民のためのフリースペース）
- 住民が使いづらい状況
- まつまる広場 年間計画（マルシェだけでなく）

知ってもらいたいこと

- 広報誌イメージ改革 PDFで配信（紙はやめた）
- 連絡網の作成（LINE WORKS） 全PTA 53名つなぐ 校長・主任もつなぐ
- 青少対（全戸配布） 京王ストアと課題共有
- 組織の見える化 →LINE WORKS
- スマホ 使えない人もいる
- LINE WORKS 情報共有 人が変わっても 引き継がれる

担い手メンバーの問題

- 団体同士の関わり合いどのようにつながっていくか（松連協高齢化）
- PTAやりたがらない（今回くじ引き）
- メンバーが毎年変わってしまう
- 松連協　高齢 人が入れ替わってしまう
- 若い人たちを入れないと情報の伝達が難しい
- 青少対は人の入れ替わりがない

情報の伝え方

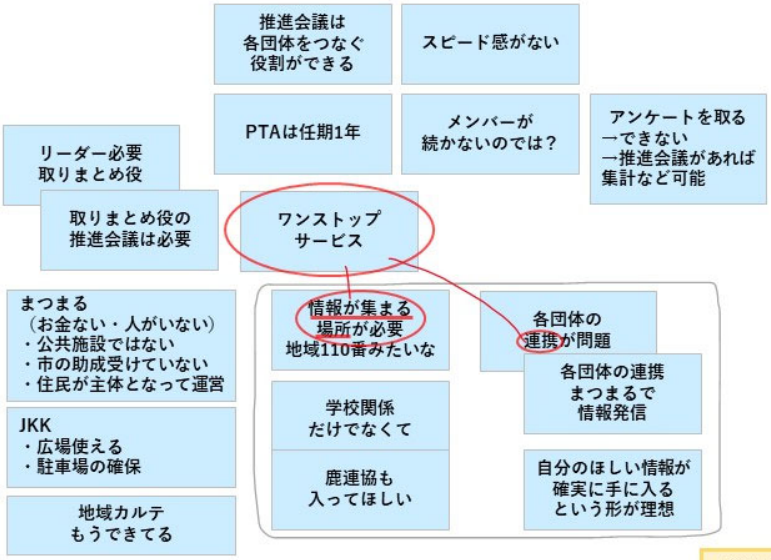
- 松連協 祭りの人集め 来年に向けて準備（バンド活動している方もいる）
- 担い手 情報のひろげ方
- PTAの活動を知らないため、手を挙げる人がいない

●最近オープンしたコミュニティスペース「まつまる」への関心が高く、住民が使いにくい（賃料発生）、住民のニーズに応える施設・機能になっていない、もっと庶民的なものが必要などの意見があった。一方で、運営に少し関わりのある参加者からは、市の施設ではないこと、事業として成立させなければいけないこと、お金も人も足りないことなどが挙げられ、相互の理解が不足していることが分かった。

● どこに言えば必要な人に情報が届くのか、どこに行けば必要な情報が集まっているのか、情報のワンストップが必要という意見が共有された。

■松が谷中学校区（A）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



推進会議設置について

賛成 → 5名

→住民と市の対話ができることが重要

住民と行政をつなげる場
（対話する場）

判断つかず → 2名

→イメージがつかない

●推進会議の設置について、参加者の半数以上が賛成だったが、保留する参加者もいた。

●賛成の条件として、地域住民がやりたいと決めても、行政側の考えや計画との整合が必要になるため、行政との対話ができる場であることが重要という意見があった。

●推進会議はスパンの長い取組であるため、PTAなど1年任期の人の関わり方が難しく、継続して関わるリーダーが必要という意見もあった。スピード感の重要性についても指摘があった。

■中山中学校区（B）【自己紹介】

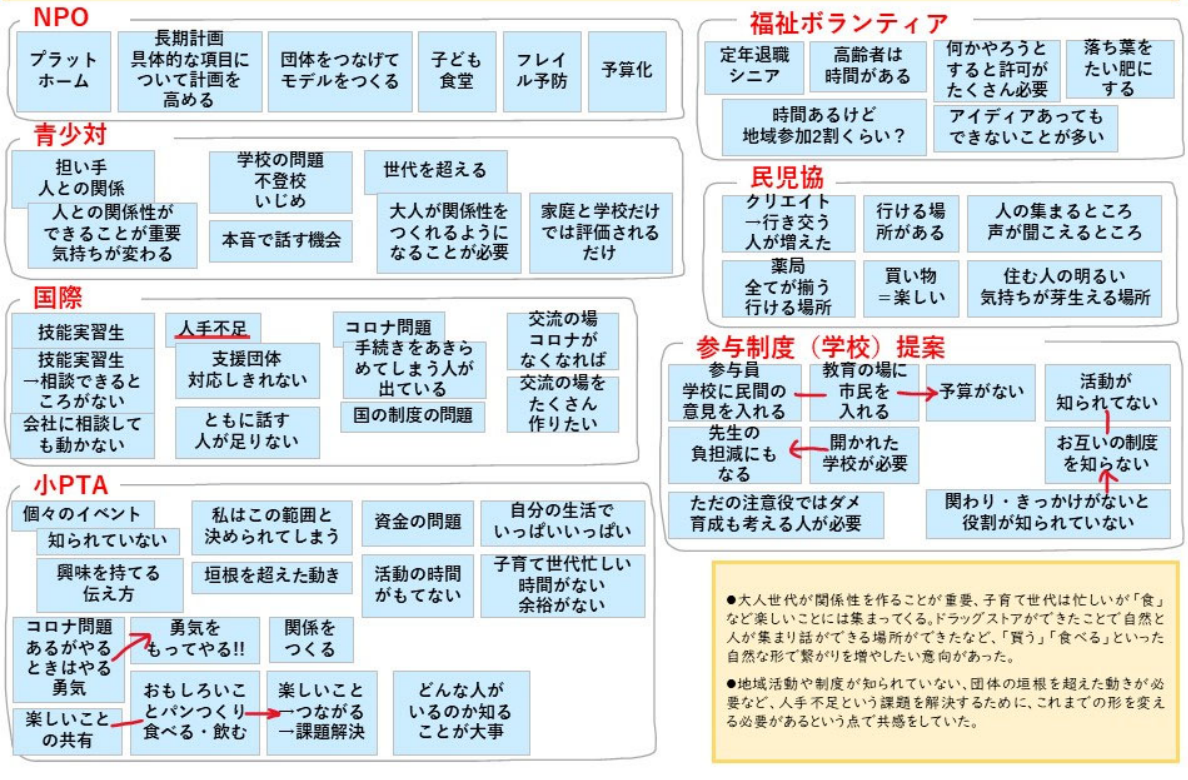
令和4年度 地域づくり意見交換会



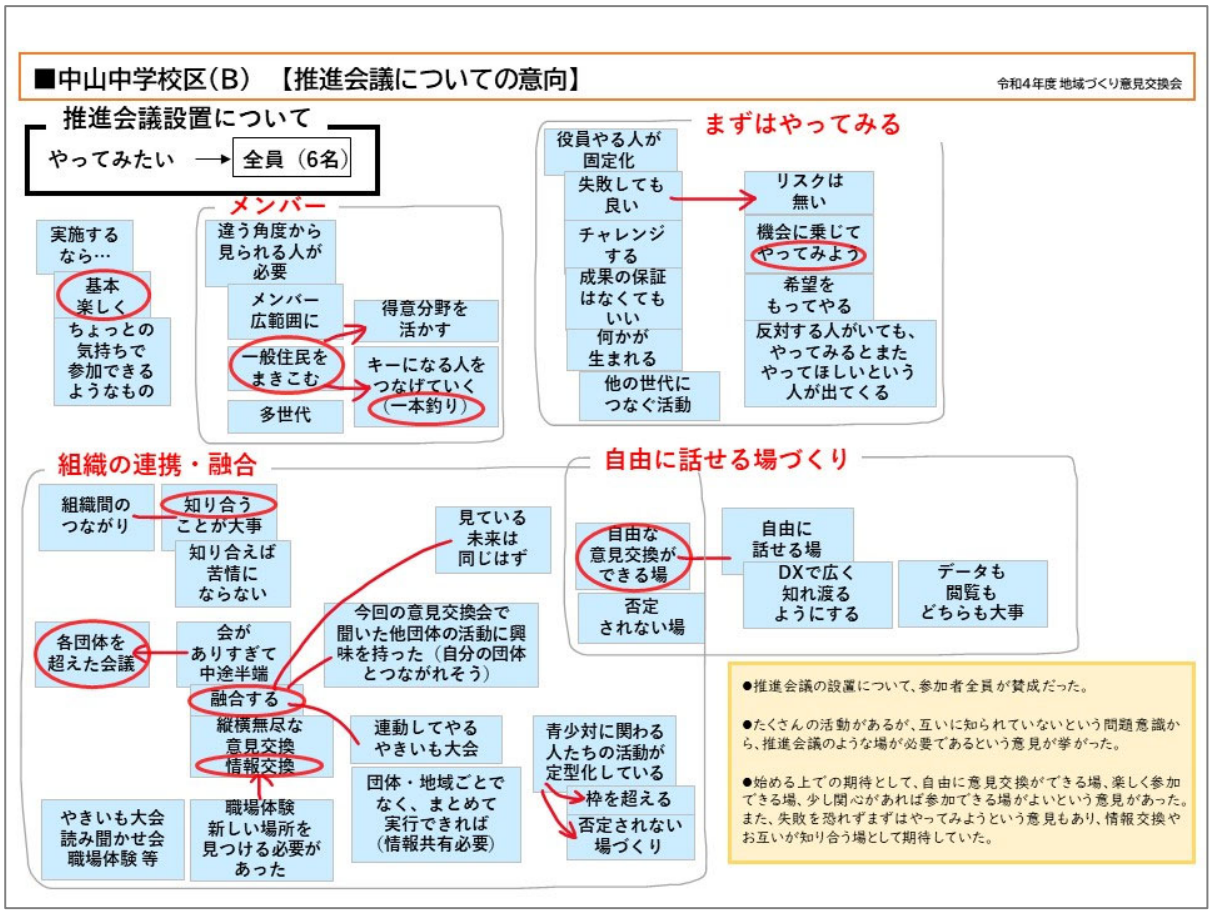
- つながりがある参加者が多く、キーパーソンが人を地域活動に巻き込んでいる様子が伺えた。
- 会員が高齢化し、役に就きたがらない、イベント開催は賛成だが、運営する側は負担が大きくやりたがらないなど、多くの参加者から人材不足に関する課題が挙げられた。

■中山中学校区（B）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

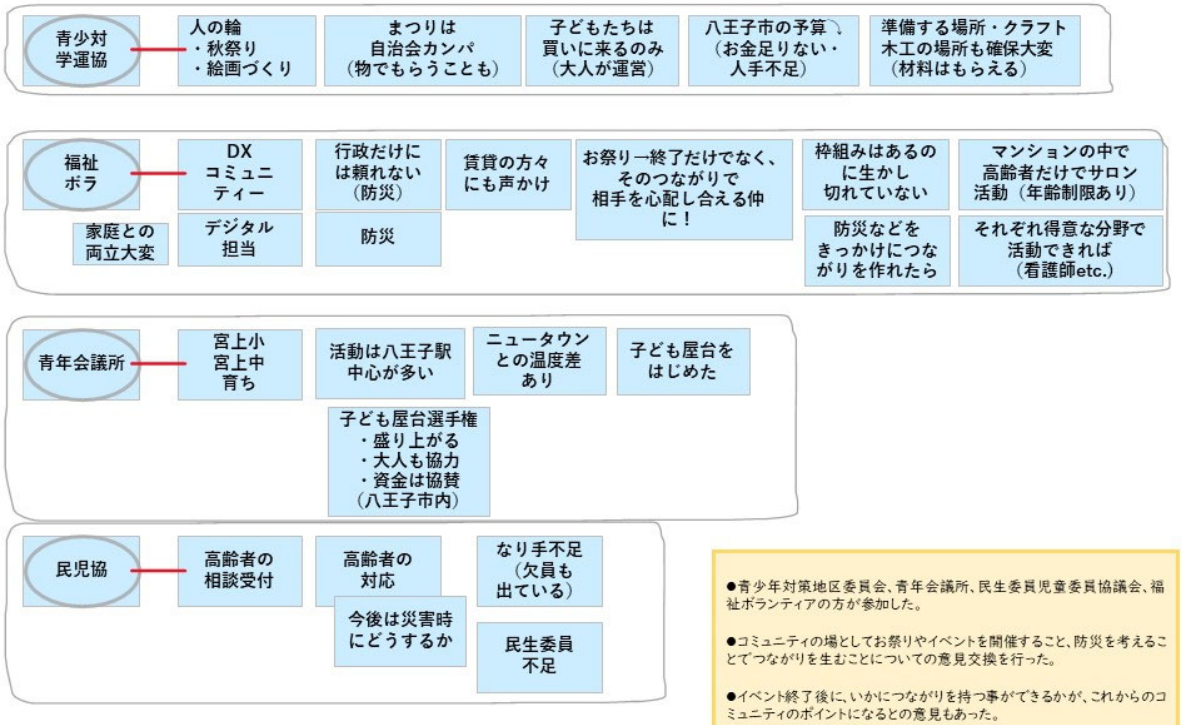


- 大人世代が関係性を作ることが重要、子育て世代は忙しいが「食」など楽しいことには集まってくる。ドラッグストアができたことで自然と人が集まり話ができる場所ができたなど、「買う」「食べる」といった自然な形で繋がりを増やしたい意向があった。
- 地域活動や制度が知られていない、団体の垣根を超えた動きが必要など、人手不足という課題を解決するために、これまでの形を変える必要があるという点で共感をしていた。


■中山中学校区（B） 【推進会議についての意向】
令和4年度 地域づくり意見交換会
推進会議設置について
やってみたい → 全員（6名）
メンバー
実施するなら…
基本楽しく
ちょっとの気持ちで参加できるようなもの
違う角度から見られる人が必要
メンバー広範囲に
一般住民をまきこむ
多世代
得意分野を活かす
キーになる人をつなげていく（一本釣り）
まずはやってみる
役員やる人が固定化
失敗しても良い
チャレンジする
成果の保証はなくてもいい
何かが生まれる
他の世代につなぐ活動
リスクは無い
機会に乗じてやってみよう
希望をもってやる
反対する人がいても、やってみるとまたやってほしいという人が出てくる
組織の連携・融合
組織間のつながり
知り合うことが大事
知り合えば苦情にならない
各団体を超えた会議
会がありすぎて中途半端
融合する
縦横無尽な意見交換情報交換
見ている未来は同じはず
今回の意見交換会で聞いた他団体の活動に興味を持った（自分の団体とつながれそう）
連動してやるやきいも大会
団体・地域ごとでなく、まとめて実行できれば（情報共有必要）
やきいも大会読み聞かせ会職場体験 等
職場体験新しい場所を見つける必要があった
青少対に関わる人たちの活動が定型化している
枠を超える
否定されない場づくり
自由に話せる場づくり
自由な意見交換ができる場
否定されない場
自由に話せる場
DXで広く知れ渡るようにする
データも閲覧もどちらも大事
●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。
●たくさんの活動があるが、互いに知られていないという問題意識から、推進会議のような場が必要であるという意見が挙がった。
●始める上での期待として、自由に意見交換ができる場、楽しく参加できる場、少し関心があれば参加できる場がよいという意見があった。また、失敗を恐れずまずはやってみようという意見もあり、情報交換やお互いが知り合う場として期待していた。

■宮上中学校区（C）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会



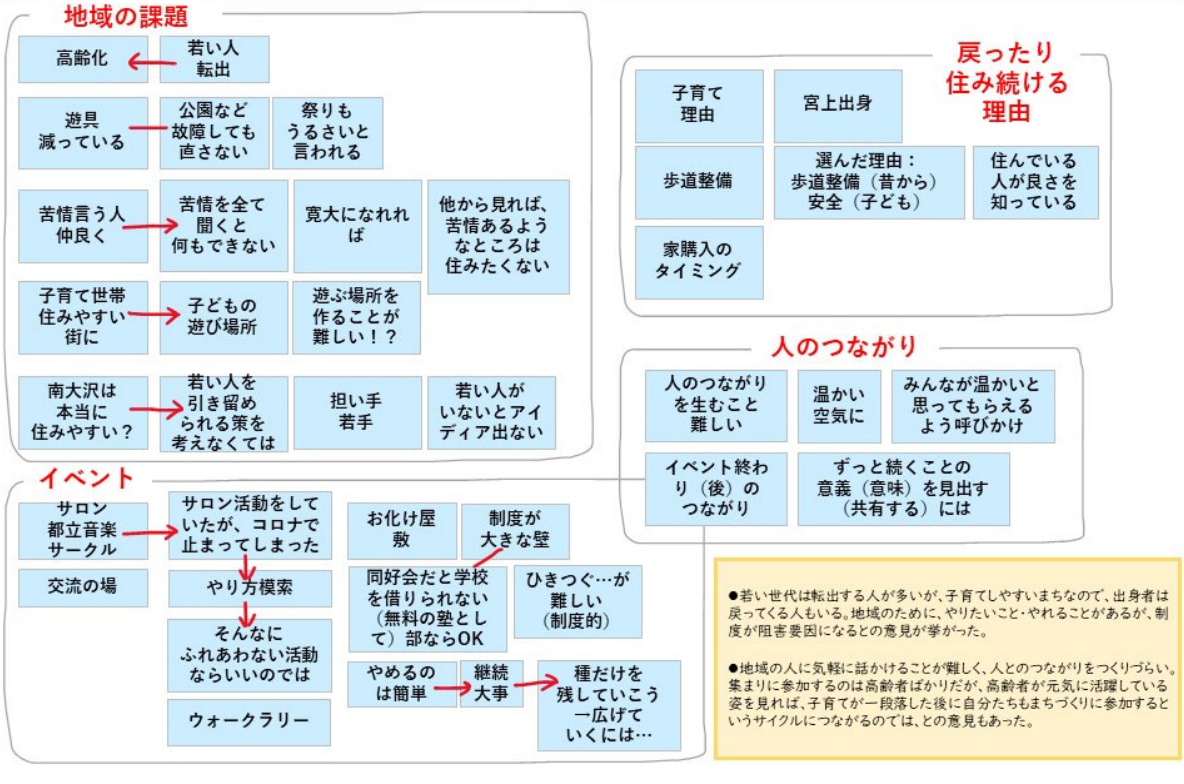
●青少年対策地区委員会、青年会議所、民生委員児童委員協議会、福祉ボランティアの方が参加した。

●コミュニティの場としてお祭りやイベントを開催すること、防災を考えることで"つながり"を生むことについての意見交換を行った。

●イベント終了後に、いかにつながりを持つ事ができるかが、これからのコミュニティのポイントになるとの意見もあった。

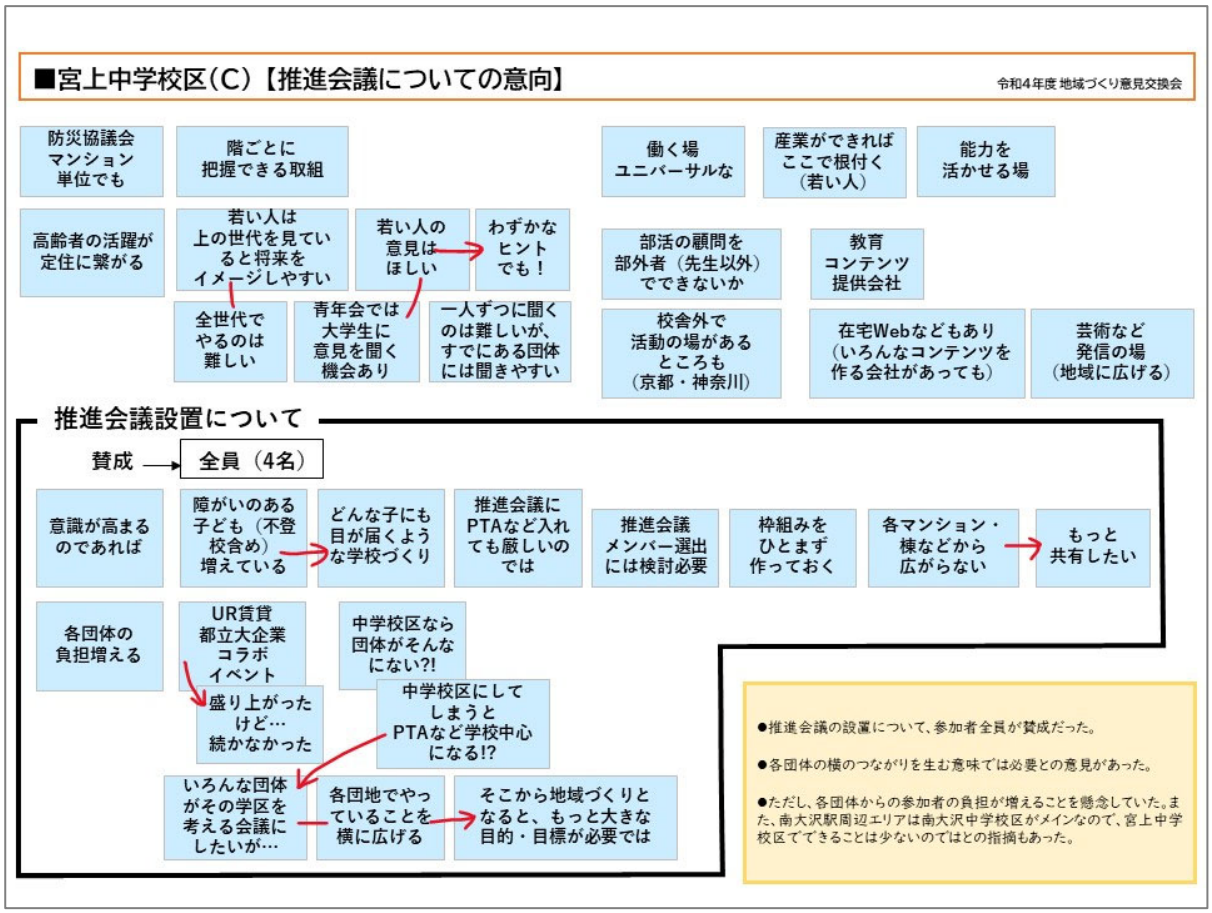
■宮上中学校区（C）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●若い世代は転出する人が多いが、子育てしやすいまちなので、出身者は戻ってくる人もいる。地域のために、やりたいこと・やれることがあるが、制度が阻害要因になるとの意見が挙がった。

●地域の人に気軽に話かけることが難しく、人とのつながりをつくりづらい。集まりに参加するのは高齢者ばかりだが、高齢者が元気に活躍している姿を見れば、子育てが一段落した後に自分たちもまちづくりに参加するというサイクルにつながるのでは、との意見もあった。


■宮上中学校区（C）【推進会議についての意向】
令和4年度 地域づくり意見交換会
防災協議会
マンション
単位でも
階ごとに
把握できる取組
働く場
ユニバーサルな
産業ができれば
ここで根付く
（若い人）
能力を
活かせる場
高齢者の活躍が
定住に繋がる
若い人は
上の世代を見ていると将来をイメージしやすい
若い人の
意見は
ほしい
わずかな
ヒント
でも！
部活の顧問を
部外者（先生以外）
でできないか
教育
コンテンツ
提供会社
全世代で
やるのは
難しい
青年会では
大学生に
意見を聞く
機会あり
一人ずつに聞くのは難しいが、すでにある団体には聞きやすい
校舎外で
活動の場がある
ところも
（京都・神奈川）
在宅Webなどもあり
（いろんなコンテンツを作る会社があっても）
芸術など
発信の場
（地域に広げる）
推進会議設置について
賛成
全員（4名）
意識が高まるのであれば
障がいのある子ども（不登校含め）増えている
どんな子にも目が届くような学校づくり
推進会議にPTAなど入れても厳しいのでは
推進会議メンバー選出には検討必要
枠組みをひとまず作っておく
各マンション・棟などから広がらない
もっと
共有したい
各団体の
負担増える
UR賃貸
都立大企業
コラボ
イベント
盛り上がったけど…
続かなかった
中学校区なら
団体がそんな
にない?!
中学校区にしてしまうと
PTAなど学校中心
になる!?
いろんな団体がその学区を考える会議にしたいが…
各団地でやっていることを横に広げる
そこから地域づくりとなると、もっと大きな目的・目標が必要では
●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。
●各団体の横のつながりを生む意味では必要との意見があった。
●ただし、各団体からの参加者の負担が増えることを懸念していた。また、南大沢駅周辺エリアは南大沢中学校区がメインなので、宮上中学校区でできることは少ないのではとの指摘もあった。

■別所中学校区（B）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

民児協（別所）
- ・児童福祉支援
- ・関係機関と連携

町自連
- ・防災・防犯
- ・長く地域にいる
- 神社の管理など

国際協会
- ・外国人のサポート
- ・日本語ボランティア養成
- 別所に限らず八王子全域の学校
- 外国籍の子どもは数名いるが、子ども同士のコミュニケーションは特に問題なさそう

学運協、青少対
- ・学習教室（シニアで運営）
- ・学校の先生への支援
- 学校とのつながりはあるが、地域とのつながりがない
- 別所フェスティバルPTAの負担が大きい

NPO
- ・ゴミ問題
- ・環境への取組

福祉ボランティア
- ・勉強の楽しさを教える（はちまるサポートで）

別所中PTA（八王子市PTA役員）
- ・青少対などでも活動

●学校関連の参加者が多く、特に中学校の活動に関する取組が多く共有された。

●地域の開発が始まる約40年前から地域に住んでいる人が参加者におり、新旧住民の視点から意見交換がされる様子もみられた。

■別所中学校区（B）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

地域の課題

PTA
- ・毎年入れ替わり・積極的に役員にならない
- 地区ごとに（団地）状況異なる
- ・運営自体が難しくなってきている

学運協・青少対
- 高齢化
- 次世代へ活動をつなげない
- 上の世代がいなくなったときの継承どうするか
- 担い手の継承が困難
- 若い世代忙しい

ゴミ問題
- 役員にならないと地域が見えづらい
- 顔が見える関係づくりができてない

国際
- 地域の活動に参加することが大事
- 外国ルーツの子どもの就学問題 → 別所ではまだ大きな問題ではない → やさしい日本語
- 今まで地域との関わりが少ない
- 外国の方は地域活動に参加できていない
- 小学校入学時日本語がわからない方向けの案内は配布されている

取り組みたいこと

学習支援
- ・空き教室を使って寺子屋 →地域のつながりへ
- 地域のつながりの場として防災訓練が出来るとよい

民児協
- 家族全員気持ちが充実していることが大事
- 家族まるごとの支援

町自連
- 活動の中心70～80代
- 活動の継続性心配
- 若い世代は八王子から出ていく →役員の高齢化
- 災害時は自助・共助が重要 ← 皆わかっていない
- 災害時は地域の助け合いが必要！そのことをみんなが知らない

●課題として、高齢化に伴う担い手不足、地域との関わりが希薄な住民の増加、地域活動への積極性がみられないことが共有された。現在の地域活動も、70～80代の方が中心に行っているため、今後の活動の継続に不安を感じている。

●「防災」の視点から地域のつながりの重要性を考えた方がよいという意見があった。

■別所中学校区（B）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成→ 全員（7名）

有効ではないか
一人や情報・アイディアが集まる場
ただし、本音の議論が必要

- 肩書を外して意見交換必要
  - 本音の議論ができないと解決できない
  - 本音で話せる場としてあってもいい
  - 意見を出しても途中で止められてしまう
- 旧住民と新住民が交流
  - お互いをサポートできる場がほしい
- 女性の参加を!!
  - メンバー構成大切
    - 非積極的な人をどう取り組むか
    - まず積極的な人たちで会議をして輪を広げていく
- 人を集めるきっかけづくりとして必要
  - 人が集まれば問題が解決しやすくなる一賛成
- 新しい世代との交流の場にもなる
  - やりたい人はいるはず
- 学校施設、ボランティア役員の報酬の節約の問題

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●地域全体でみると、地域活動に消極的な人が多いため、地域活動の輪をいかに広げていくか、また、今回の参加者は女性が少なかったため、メンバーの男女比も重要との意見があった。

●形だけではなく、本音で語り、活動を進められる場が必要との意見が出た。

■上柚木中学校区（B）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

学運協	放課後子ども教室	保護者支援	青少対	
環境	地球温暖化	里山保全活動	ナラ枯れ	団地整備
NPO	南陽台自治会	支援活動協議会	情報ボランティア	社会福祉協議会
	子ども食堂	高齢者健康支援	食事支援	青少対
PTA	防災活動	子ども見守り	ラジオ体操指導	青少対
	学運協会長	上柚木中サポーター	サポーター中学生向け	クリーン活動

●学校運営協議会、PTA、環境団体の参加者は活動を通して普段から交流があるとの話があった。

●NPOの参加者から、現在子ども食堂の運営について検討しているとの発言があった。質疑応答の時間では、子ども食堂を運営することへの課題や解決策についての意見交換が行われた。

■上柚木中学校区（B）　【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

交流、地域コミュニケーション

課題	解決策
住みやすく安全に→自分ごとにすることが大事	学童保育の充実
→若い世代が関われる方法を考えていきたい	愛宕小：学童→小3まで対象 希望者は小4以降も
共働き増えている→PTA・青少対消極的	中学校の部活動の地域移行
運営側との年齢差・考え方の違い	地域の人の力を中学に取り込む
若い世代 自分事の意識がうすくなっている	シルバー人材センターの人材情報をもっとアピールしてほしい
主体性がうすい	
顔の見える関係づくり	個別の連絡先を公表してほしいリスト化して
児童数の減少による統合問題	交流の場・ギャラリー・美術館
人材ネットワークが欲しい 人材バンク	→実現したい
愛宕小PTA等、水鉄砲づくりなど交流の場づくり	市民センター地域の活動紹介のように、発表の場をもっと作って!! 南大沢で
代表の負担が重いことが課題	
八王子中心地と差別化されている	駅前ガーデニング展示とてもよい

子ども食堂

課題	解決策	
子ども食堂→倉庫の確保 水・電気代など	母体となる団体を探す	地域支援団体と連携
材料の仕入れ運搬	地域の協力者を増やす	NPO 大企業
福祉制度のたてわり	高齢者施設と連携	市や認定団体
子ども食堂場所の確保	支援活動間に入る（NPO）	日本水産 話し合い
学校開放難しい	URの活用	
人材の確保	UR開放できれば	

調整・つなぎ役

課題	解決策	
調整役 誰が？	課と課をつなぐコーディネーター	
コロナ禍でつながることの難しさ	市の中の組織紹介してくれる課	
継続して各団体と連携・調整すること難しい	シルバーセンターと協力	市の人材バンクを活用
地域福祉センターの充実	部活動の人材→先進的な事例を活用しては！？	
高齢者サロン、学生、センターとの連携		
都立大ボランティアセンターと協働活動	コロナで交流が減っていてより希薄になっている	
調整役が重要	イベント再開支援	

街の活性化　魅力的な街づくり

課題	解決策		
アウトレット撤退→衰退	南大沢スマートシティ	国立ボーネルンド（知育）	体を動かして健康づくり
場所の活用	外貨活用	テレビ放送の影響は大きい	車道と歩道分離していることポイント!!
外から人が来ることに意味がある	南大沢＝アウトレット		
立川・町田に勝ちたい！	南町田の事例参考にしてほしい		
企業との連携	アウトレット2025年撤退なんとかくい止めたい		
市と電鉄企業と協力	・京王電鉄 会社 ・八王子市 大切 連携してほしい		

交通

課題	解決策
高齢者の移動	企業とコラボ
	京王

●南大沢のアウトレットが2025年で契約終了となることへの問題提起や、街の活力を維持するための方法、中学校の部活動の地域移行に伴う地域の人材の取り込み方について、意見交換が行われた。

●新型コロナウイルスの影響で人とのつながりが希薄になっており、各団体が連携することが難しい状況や、子育て世代が地域活動に消極的な状況等が課題として共有された。

●全体として、課題が出されるだけでなく、対応策も同時に議論されるなど、前向きな雰囲気であった。

■上柚木中学校区（B）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 全員（5名）

地域カルテについて

- 地域カルテ“授業の教材”としても良い
- 地域カルテルビがないと読めない
- 地域探検ー小2でやる!

推進会議の地区について

- 上柚木でなく、もう少し地域を広げてやるのはどうか
- 中学校区ごとに分けなくてもよいのでは
- 中学校区でも横のつながりがほしい

推進メンバーについて

- 学生さんもメンバーに入れて → 大学の教授 学生も含めての参加
- 会議に参加するとき子どもを預けられたら → 若い世代 小さなお子さんの親も参加してほしい → ベビーシッター・保育所の確保
- 推進母体をどこにするかよく考えて → リーダーは誰になるか
- 企業にも入ってもらいたい
  - 京王電鉄など
  - イトーヨーカドー

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●会議の開催にあたっては、子育て世代も参加しやすいように子どもを預けることができる配慮や、企業、大学教授、学生など、多様なメンバー構成とした方がよいとの意見があった。

●上柚木中学校区は範囲が狭いため、周辺の中学校区と合同で議論してもよいのではないかとの意見も挙がった。

■松木中学校区（C）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

町自連・住民協

- 松木町会
- 75才以上に記念品役員による訪問
- 南大沢住民協
- 市民センターまつり（コロナへの対応）

市民活動協議会

- 市民活動団体の中間支援（情報提供、相談）
- 地域デビューパーティー、NPOフェスティバルの開催
- NPOハンドブックの発行
- 担い手育成はちおうじ志民塾の運営

民児協

- 行き渋りのある子どもの訪問と学校への送迎
- 寺子屋、漢字検定を主催

PTA、学運協

- 長池小 松木小 松木中
- 学校イベントの手伝い 保護者の活動
- 学内に地域ボランティア
- 地域とのつながりづくり
- 空手の道場（漢字検定の実施）
- 浄瑠璃まつり 3年ぶり開催
- 防犯パトロール
- 安心安全な環境づくり
- 子どもたちの居場所づくり

環境市民会議

- 里山環境保全、生物多様性に関する活動
- 環境地図づくり（巨樹・植物）
- 豊かな自然とニュータウン開発
- 長池公園で子どもから大人まで参加できるイベントを開催
- 住民が集まれる公園の整備

- ●学校関連など、子どもに関わる参加者が多かった。なかには、地域とのつながりづくりに取り組んでいる方もいた。
- ●新型コロナウイルスの影響を受けて中止していたお祭り・イベントが再開してきているとの情報共有があった。
- ●長池公園、蓮生寺公園など豊かな自然を活かした取組や保全活動が行われている。

■松木中学校区（C）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

町会加入率の低下

- 高齢化 高齢のみ世帯 一退会
- 一人暮らし 町会費払えず 退会
- 町会費5,000円/年、企業協賛金もある
- 新規加入も 1～2年で退会
- 子どもが大きくなり退会
- 若い世代の役員 一会合に出られない

担い手の高齢化

- 高齢化により町会役員のなり手がいない

町会の情報発信

- 町会への入り方がわからない
- 転入時の入会案内は戸建て住宅のみ
- マンションの管理組合は建物管理中心

町会加入のメリット

- 町会の存在意義
- 町会加入のメリットが説明しにくい
- 人とのつながりができる
- 松木地区はどのくらいつながりがあるのか？

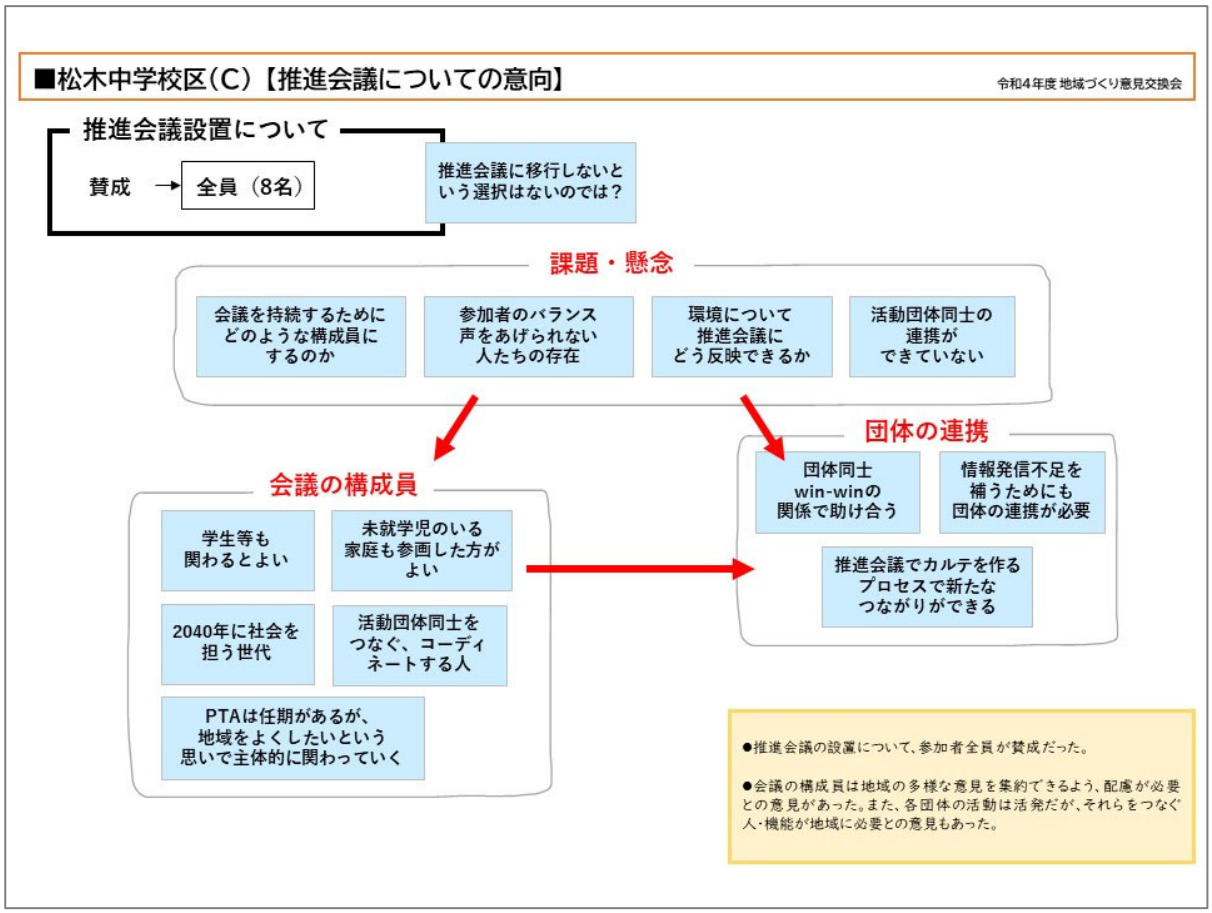
若い世代との接点

- マンションには若い世代が入ってきている
- 新しく入ってきた若い世代と交流・出会う場がない

子どもの見守りについて

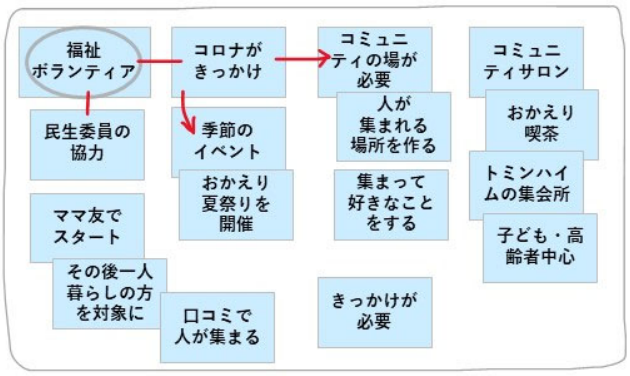
- 子ども会 2団体あり
- 登下校時 見守りの人材不足
- 学校保護者からボランティア募集している

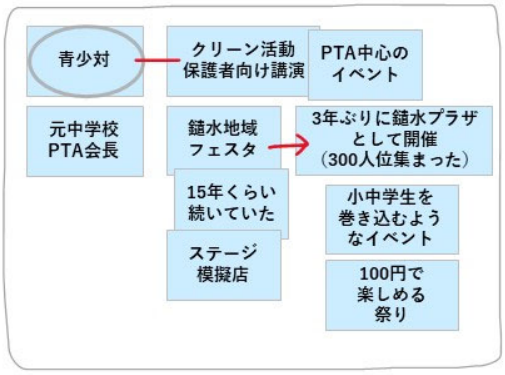
- ●地域の課題として町会の加入率の低下が話される一方、町会の存在意義として、加入することで人とのつながりを持つことができるという意見があった。
- ●若い子育て世代とのつながりづくりについて話され、子どもを切り口とするアイデアがあった。
- ●子育て世代からは、登下校時の見守りの人材不足が課題として挙げられ、町会とつながることで解決できる可能性があるという話があった。

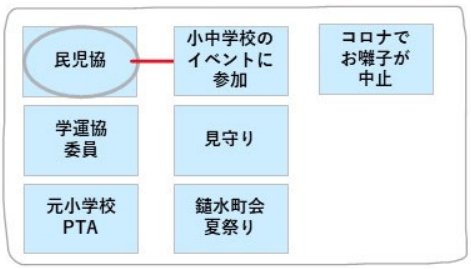

■松木中学校区(C)【推進会議についての意向】
令和4年度 地域づくり意見交換会
推進会議設置について
賛成
全員（8名）
推進会議に移行しないという選択はないのでは？
課題・懸念
会議を持続するためにどのような構成員にするのか
参加者のバランス 声をあげられない人たちの存在
環境について 推進会議にどう反映できるか
活動団体同士の連携ができていない
会議の構成員
学生等も関わるとよい
未就学児のいる家庭も参画した方がよい
2040年に社会を担う世代
活動団体同士をつなぐ、コーディネートする人
PTAは任期があるが、地域をよくしたいという思いで主体的に関わっていく
団体の連携
団体同士 win-winの関係で助け合う
情報発信不足を補うためにも団体の連携が必要
推進会議でカルテを作るプロセスで新たなつながりができる
●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。
●会議の構成員は地域の多様な意見を集約できるよう、配慮が必要との意見があった。また、各団体の活動は活発だが、それらをつなぐ人・機能が地域に必要との意見もあった。

■鑓水中学校区（D）【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会







●新型コロナウイルスの影響で地域活動が中止していたが、3年ぶりに地域のイベントが復活したとの話題が挙がった。

●福祉ボランティアの参加者が、周囲の協力も得ながら、手作りで高齢者や子どもの居場所づくりを行っている取組について共有された。

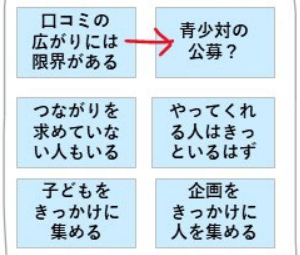
■鑓水中学校区（D）【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会

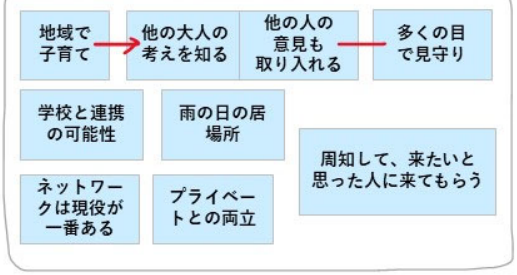
メンバーの固定化



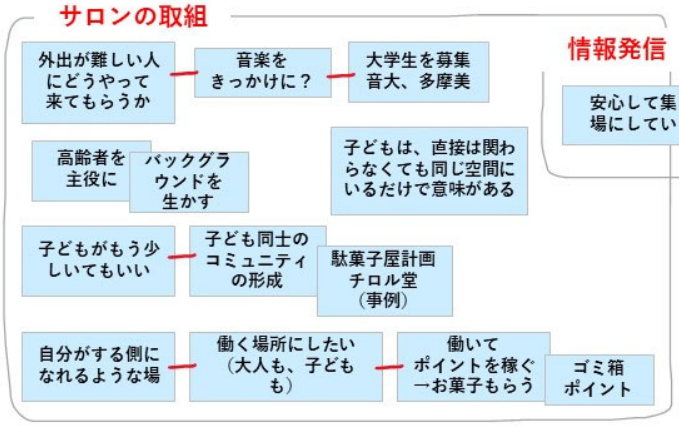
つながりをつくる



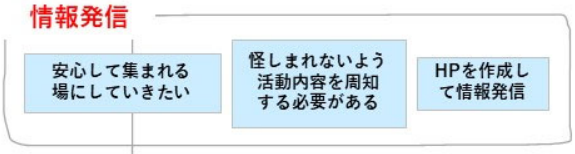
つながることでできること



サロンの取組



情報発信



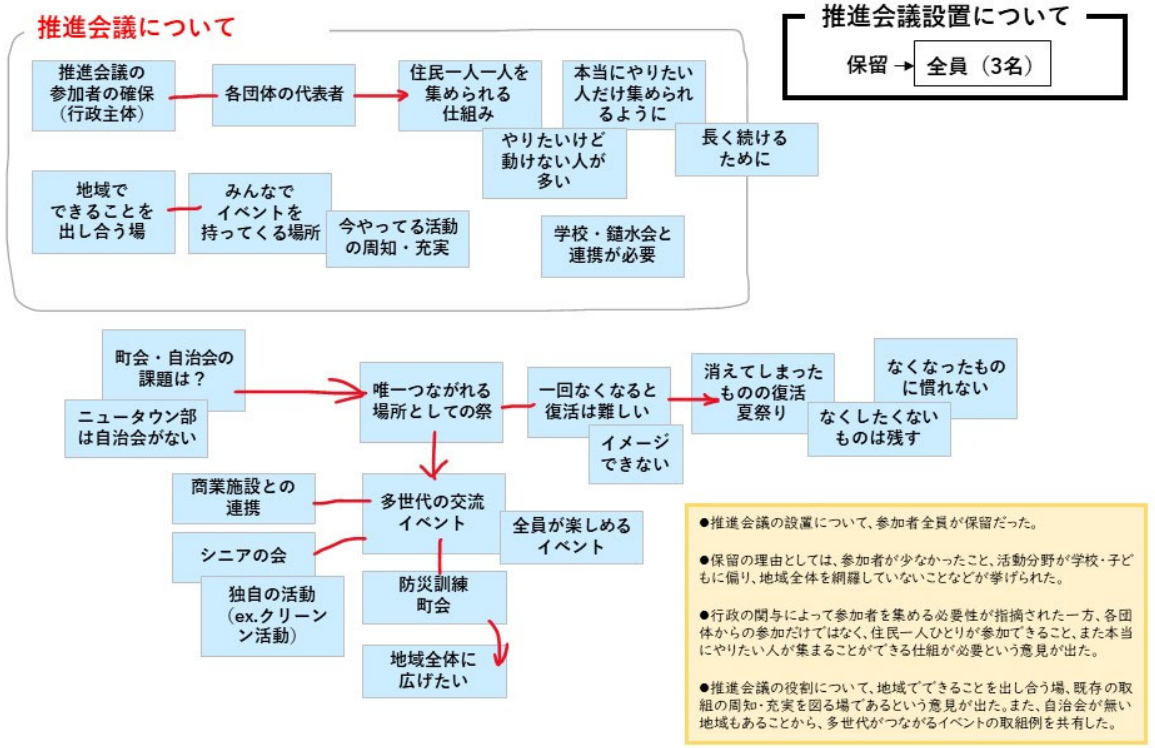
●各参加者から、活動するメンバーの固定化が課題として挙がった。関係者だけが役員や理事になるのではなく、広く公募することが提案された。

●つながりを求めている人はいるという意見や、新たな参加者を集めるアイデアが出され、地域で子育てすることの可能性について話しあった。

●サロンを始めた参加者からは、子どもや高齢者それぞれが果たす役割や取組を通じて得られた知見、サロンの可能性について提案があった。

■鑓水中学校区（D）【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●推進会議の設置について、参加者全員が保留だった。

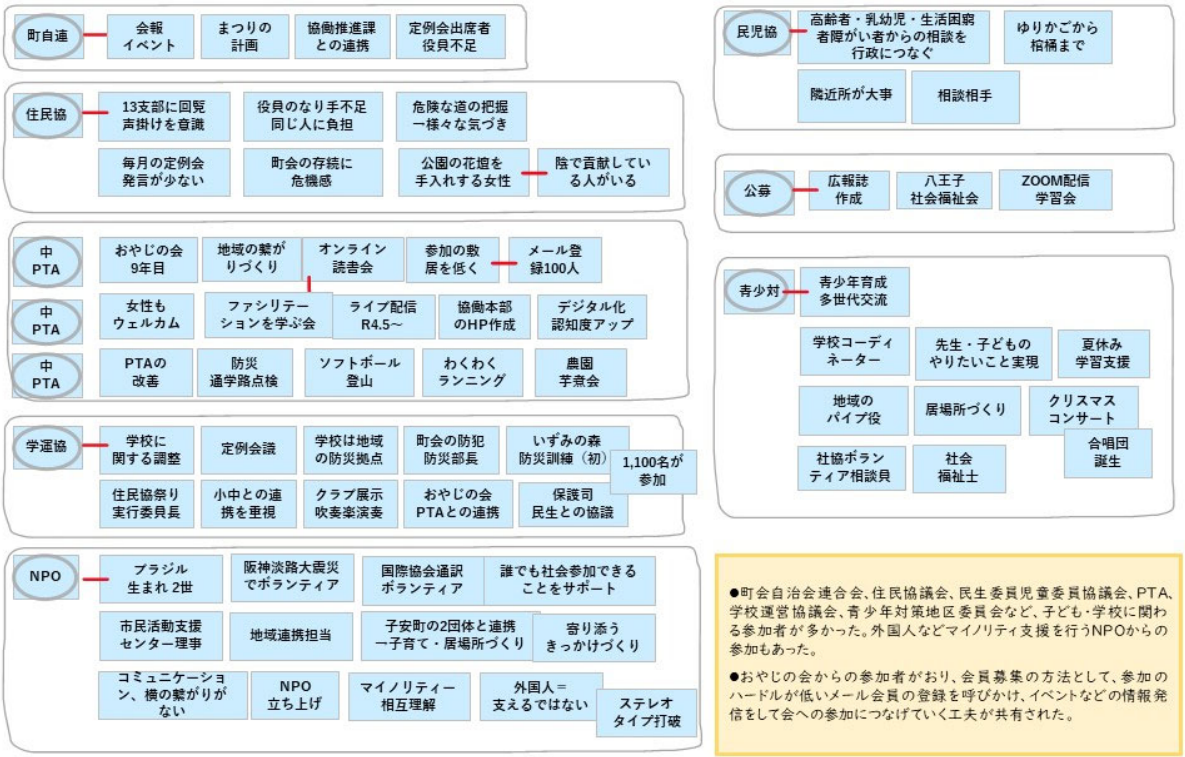
●保留の理由としては、参加者が少なかったこと、活動分野が学校・子どもに偏り、地域全体を網羅していないことなどが挙げられた。

●行政の関与によって参加者を集める必要性が指摘された一方、各団体からの参加だけではなく、住民一人ひとりが参加できること、また本当にやりたい人が集まることができる仕組が必要という意見が出た。

●推進会議の役割について、地域でできることを出し合う場、既存の取組の周知・充実を図る場であるという意見が出た。また、自治会が無い地域もあることから、多世代がつながるイベントの取組例を共有した。

■いずみの森義務教育学校区(C)【自己紹介】

令和4年度 地域づくり意見交換会

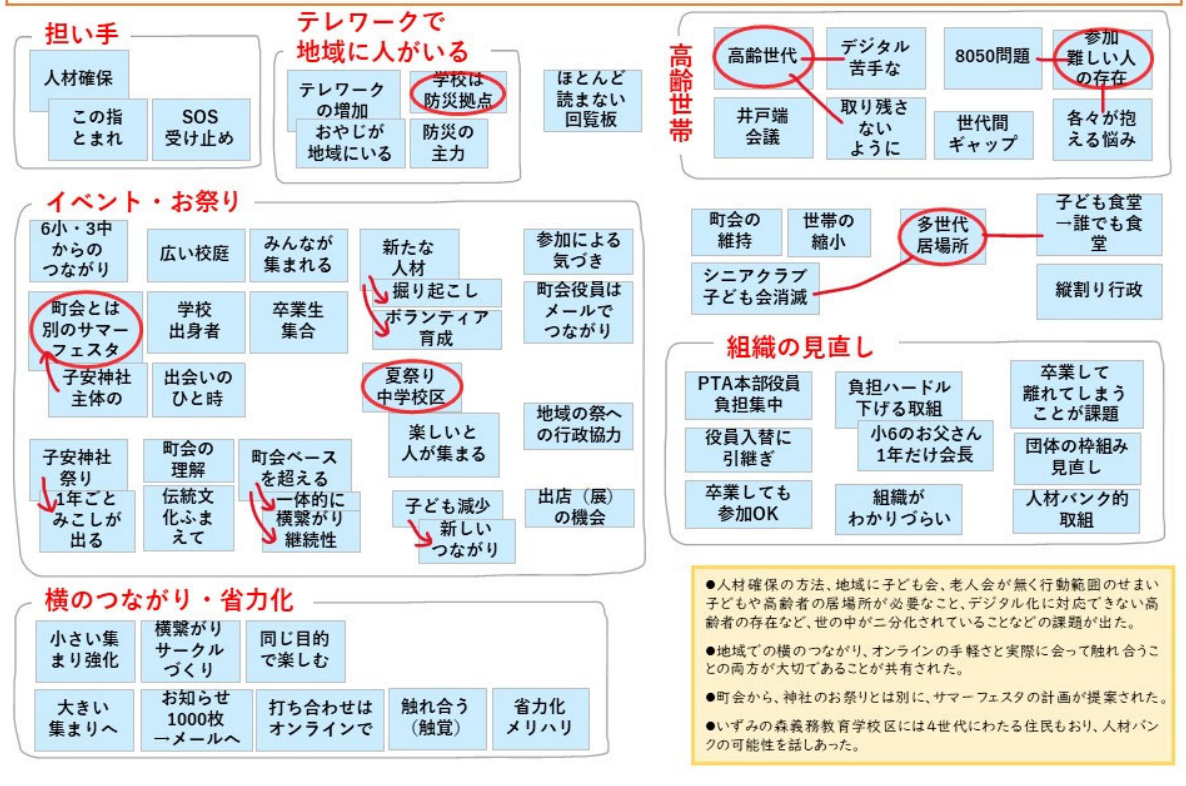


●町会自治会連合会、住民協議会、民生委員児童委員協議会、PTA、学校運営協議会、青少年対策地区委員会など、子ども・学校に関わる参加者が多かった。外国人などマイノリティ支援を行うNPOからの参加もあった。

●おやじの会からの参加者がおり、会員募集の方法として、参加のハードルが低いメール会員の登録を呼びかけ、イベントなどの情報発信をして会への参加につなげていく工夫が共有された。

■いずみの森義務教育学校区(C)【課題、地域全体で共有したいこと】

令和4年度 地域づくり意見交換会



●人材確保の方法、地域に子ども会、老人会が無く行動範囲のせまい子どもや高齢者の居場所が必要なこと、デジタル化に対応できない高齢者の存在など、世の中が二分化されていることなどの課題が出た。

●地域での横のつながり、オンラインの手軽さと実際に会って触れ合うことの両方が大切であることが共有された。

●町会から、神社のお祭りとは別に、サマーフェスタの計画が提案された。

●いずみの森義務教育学校区には4世代にわたる住民もおり、人材バンクの可能性を話しあった。

■いずみの森義務教育学校区(C)【推進会議についての意向】

令和4年度 地域づくり意見交換会

推進会議設置について

賛成 → 全員（10名）

推進会議 → 地域のプラットフォーム

運営をどうするか → 行政の協力を引き出す

当日参加できる人はいる

地域を縦割りではなく横割りにする

PTAの取組をヒントに → やりたい人のこの指とまれ方式

会長は6年生の親が1年限り

役員は代わっていく → 学運協と地域協働本部の連携の仕組み

●推進会議の設置について、参加者全員が賛成だった。

●推進会議は地域のプラットフォームであること、運営に関するアイデアやいずみの森義務教育学校での取組がヒントになることを話しあった。

あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

令和4年度（2022年度）
地域づくり意見交換会記録集

令和5年（2023年）3月

発　　行　八王子市　未来デザイン室
住　　所　〒192-8501　八王子市元本郷町三丁目 24 番1号
電　　話　042-620-7307
F　A　X　042-627-5939
M　a　i　l　b620000@city.hachioji.tokyo.jp